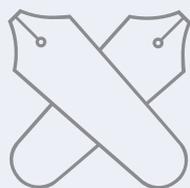


慶應義塾大学



C A L A M V S G L A D I O F O R T I O R

2024 年度

文学部 履修案内

(三田キャンパス 第2・3・4学年)

〈履修案内について〉

この履修案内は文学部在籍者を対象とするものです。履修にあたっての注意、履修の方法、関連の学部学則（別冊）や内規について書かれています。今年度開講される各科目の内容については『講義要綱・シラバス』を参照してください。

文学部生は、この履修案内をよく読んで、ガイダンスでの説明も参考にしながら自己の責任において慎重に履修してください。毎年履修案内を読まないことによる履修上のトラブルが多く見られます。トラブルの中には、進級や卒業に関わるものが多々あります。理解できない点や不明の点は、必ず専攻担任、学習指導、学生部文学部担当に尋ねて、誤りのないように十分注意してください。

また、履修案内の変更、学習指導上の注意事項をはじめとする重要な事項は、塾生サイト（三田文学部ページ）等の Web ページに掲載しますので、絶えず注意を向けてください。

ガイダンスでの注意に従わなかったこと、履修案内を読まなかったこと、塾生サイト（三田文学部ページ）等を見なかったことによるトラブル、ならびに住所変更手続を行わなかったために大学からの郵便物が届かない等の不利益は、学生諸君の自己責任となることを肝に銘じてください。

塾生サイト：<https://www.students.keio.ac.jp>



〈学則について〉

学則とは、学校が制定する諸規程のうち学務に関する事項、入学・退学・卒業、学生の身分に関する取扱い、入学試験、学位、そして教育課程に関する事項について規定したものをいいます。

〈学生証、成績表について〉

学生証は本大学学生であることを証明する身分証明書です。常に学生証を携帯し、求められた場合に提示できるようにしてください。

学生証による本人確認ができない場合、情報の開示・提供など必要な対応ができないことがあります。

この履修案内や各種掲示・連絡において「成績表を持参するよう」指示があった場合、それは紙媒体の成績表を意味します。本大学の Web ページで公開された成績表を印刷したものを持参してください。

文学部における3つの方針

文学部の卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）、教育課程の編成および実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）、入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）は、以下のWebサイトに掲載しています。

文学部 Web サイト
<http://www.flet.keio.ac.jp/>



慶應義塾大学 学部入学案内
<http://www.flet.keio.ac.jp/admissions/index.html>



文学部役職者

- 学部長 : 佐藤 孝雄 (民族学考古学)
 日吉主任 : 市川 崇 (仏文学)
 学部長補佐 : 小平麻衣子 (国文学)
【三田】 学習指導主任 : 堀田 隆一 (英米文学)
 学習指導副主任 : 渡邊福太郎 (教育学)
【日吉】 学習指導主任 : 浅野 雅樹 (中国文学)
 学習指導副主任 : 金子 奈美 (諸言語), 古川 亮平 (自然科学)

文学部の専攻担任

専攻担任とは、所属専攻学生全員を取りまとめて受け持つ教員のことです。留学・休学・退学を希望する場合は必ず専攻担任の面接と承認が必要です。また、所属専攻に関して相談したいことがある場合はまず専攻担任に相談してください。

専攻	専攻担任								
哲学	荒畑 靖宏	上枝 美典	柏端 達也	田中 泉吏	平井 靖史	峯島 宏次			
倫理学	荒谷 大輔	石田 京子							
美学美術史学	後藤 文子	佐々木康之	遠山 公一	内藤 正人	中尾 知彦	西川 尚生	福田 弥	望月 典子	
日本史学	十川 陽一	藤本 誠	前田 廉孝						
東洋史学	勝沼 聡	五味 知子	長谷部史彦	藤木 健二					
西洋史学	赤江 雄一	清水 明子	館 葉月	野々瀬浩司	山道 佳子				
民族学考古学	安藤 広道	三木 健裕	山口 徹	渡辺 丈彦					
国文学	石川 透	岡田 一祐	小川 剛生	栗本賀世子	恋田 知子	合山林太郎			
中国文学	杉野 元子	須山 哲治	丁 雷	松倉 梨恵	吉永 壮介				
英米文学	井出 新	大串 尚代	佐藤 光重	高橋 勇	原田 範行				
独文学	片山由有子	川島建太郎	桑川麻里生	西尾 宇広					
仏文学	芦野 文武	上杉 誠	大鷲健太郎	竹中 公二	西野 絢子				
図書館・情報学	安形 麻理	永崎 研宣	福島 幸宏	松本 直樹	宮田 洋輔				
社会学	李 光鎬	小倉 康嗣	樗尾 直樹	木下 衆	阪井裕一郎	杉浦 淳吉	三尾 裕子		
心理学	板口 典弘	大森 貴秀	北 洋輔	寺澤 悠理	兎田 幸司				
教育学	綾井 桜子	川口 純	川本 哲也	藤澤 啓子	真壁 宏幹	山梨 あや	渡邊福太郎		
人間科学	稲葉 昭英	上島 淳史	織田 輝哉	北中 淳子	佐川 徹	菅 さやか	常松 淳	平石 界	

目 次

文学部における3つの方針・文学部役職者・専攻担任

よくある質問	1	第6 試験・レポート・卒業論文	21
三田キャンパスガイド	2	1 試験の種類	21
主な事務室と事務取扱時間		2 レポート	22
振鈴表		3 不正行為	22
学事関連の伝達事項		4 試験における不正行為の取扱いに関する文学部内規	24
校舎と教室番号		5 卒業試験	24
三田キャンパスマップ		6 卒業論文提出要領	24
その他		第7 学生生活	25
第1 学事関連スケジュール(三田)	4	1 窓口案内	25
第2 学籍(休学・留学・退学)	9	2 学生生活支援	25
1 休学	9	3 奨学金	26
2 留学	9	4 就職・進路	26
3 退学	10	5 学生相談室	26
第3 学生証・諸届・証明書	12	6 学生健康保険互助組合	27
1 学生証	12	7 学生教育研究災害傷害保険	27
2 住所変更(本人・保証人)	12	8 任意加入の補償制度	27
3 保証人変更	12	9 障害学生支援(合理的配慮)	28
4 改姓・改名(本人・保証人)	13	10 健康管理	28
5 国籍変更	13	第8 進級・卒業	29
6 通学証明書(通学定期)	13	1 学則	29
7 証明書(成績証明書・学割証等)	13	2 進級条件	29
第4 Web システム	15	3 卒業要件	29
1 塾生サイト	15	4 在学期間延長制度	30
2 keio.jp	15	5 9月卒業	30
3 パスワード再発行	16	第9 2・3・4年生設置科目	31
4 K-LMS:学修支援システム(CanvasLMS)	16	1 単位	31
第5 授業・成績	17	2 科目の種類	31
1 教室使用申請(三田)	17	3 必修語学科目	32
2 教室設置 AV 機器の鍵の貸出	17	4 総合教育科目	32
3 緊急時における授業の取扱い	17	5 必修語学科目および総合教育科目一覧	33
4 早慶野球戦における授業の取扱い	17	6 総合教育科目(系列外)	35
5 裁判員候補者に選定された場合の取扱い	17	7 専門教育科目(選択科目としても履修できる科目)	36
6 授業科目ナンバリング(K-Number)	18	8 自由科目	40
7 「遠隔(オンライン)授業」の修得上限単位数の取扱い	18	第10 履修要領	41
8 成績	19	1 注意事項	41
9 成績評語に関する質問制度	19	2 履修申告の流れ	42
10 取得可能学位	20	3 2年生での必修語学の履修方法	44
		4 学芸員資格の取得	46
		5 他学部設置科目の履修について	47
		6 諸研究所・センター設置科目の履修	49
		第11 専攻別内規および注意事項【2・3・4年生】	50
		履修申告欄(A欄・B欄)	51
		専攻別内規	52

よくある質問

項目	質問	回答
履修	履修申告は何単位までできますか？	文学部生の年間履修単位の上限は 48 単位です。ただし自由科目はこの上限にかかわらず履修可能です。 なお、年間履修単位上限は、取得単位数（合格科目のみ）の上限ではなく、履修単位数の上限を指します。特に秋学期は、春学期に不合格になった科目も含め、48単位以内に収まるように履修申告する必要があるので注意してください。
	総合教育科目はどれでも履修申告できますか？	他学部設置の総合教育科目は p. 35 に掲載されている「少人数セミナー形式授業」以外は自由科目としてしか履修申告できません。その他総合教育科目として履修できる科目については p. 33 を参照してください。
	必修語学科目の履修方法が分かりません。	p. 44 および別途案内する「必修語学科目 履修要領（英語）」ならびに「必修語学科目 履修要領（諸国語）」をよく読んでください。
	必修としてではなく、語学を履修したい。	塾生サイトにアップされる「全学部共通外国語科目履修案内」に掲載されている科目（3・4年生のみ）や、外国語教育研究センター設置特設科目を総合教育科目（系列外）として履修することができます。
	他専攻の科目も履修できますか？	専門教育科目の選択科目として履修することができます（A欄申告してください）。
	他専攻の科目の重複履修はできますか？	他専攻の科目を選択科目として重複履修することはできません。 例えば、国文学専攻以外の学生は、「国文学Ⅰ」を複数回履修することはできません（2回目以降は自由科目として履修することはできます）。
	他学部の専門科目や研究会は履修できますか？	学部ごとの履修制限がありますので p. 47～48 を必ず確認してください。
	他学部・他専攻のゼミで卒論を提出し卒業したい。	文学部所属専攻の要件を満たさなければ卒業できません。
	体育科目を履修したい。	体育研究所 Web サイトおよび履修案内を参照のうえ、必ず体育研究所のガイダンスに参加してください。締切、抽選等がありますので十分注意してください。また、4 単位までが卒業単位（総合教育科目（系列外））になります。
	メディア・コミュニケーション研究所の授業をとりたい。	所定の手続きを経て研究生になった学生以外は、オープン科目しか履修できません。詳細は、シラバス（講義要綱）を参照のうえ、メディア・コミュニケーション研究所に確認してください。
外国語教育研究センターの科目を履修したい。	外国語教育研究センターのガイダンスに参加し、所定の手続きを経たうえで履修申告を行ってください。	
資格	学芸員資格について教えてください。	p. 46 を参照してください。
	教職課程で必要な科目を履修した場合は進級・卒業単位に含まれますか？	教職課程センター設置科目は、専門教育科目（選択科目）として履修できます（ただし、教育実習Ⅰ・Ⅱ、教育実習基礎・教職介護等体験は自由科目）。教員免許取得に必要な科目が専攻に設置されている場合は、その単位を取得することにより、教職と専攻の両方の要件を満たすことも可能です。
	学芸員や教職科目を自由科目で履修しても資格取得単位として認められますか。	はい。自由科目で履修した場合、文学部の卒業単位には含まれませんが、資格取得の単位としてはカウントされます。
その他	他学部や、他地区の時間割・シラバス（講義要綱）を閲覧したい。	塾生サイトを確認してください。 https://www.students.keio.ac.jp/mt/class/registration/
	授業の欠席・遅刻連絡をしたいので、先生の連絡先を教えてください。	学生部では、欠席・遅刻連絡の仲介等はいりません。やむを得ない理由で授業を欠席・遅刻する場合は、自身で K-LMS 等を通じて教員に連絡をしてください。 なお、教員の個人情報は一切お教えできませんので、文学部 Web サイト等* で公開している情報をご確認ください。また、文学部には公欠・忌引きの制度はありません。 ※「文学部 Web サイト」→「教員」 https://www.flet.keio.ac.jp/faculty/index.html
	授業内試験をインフルエンザ等の学校感染症により受けられなかった場合は、どうしたらいいですか？	K-LMS 等を通じて担当教員に申し出てください。 ※感染症については、p. 28 を確認してください。
	提出できなかったレポートを先生に転送してほしい。	レポートに限らず、担当教員への書類の転送は一切行っていません。
	研究会（ゼミ）に関する情報はどこにありますか？	随時 Web 等でお知らせします。

主な事務室と事務取扱時間

	事務室	主な業務	事務取扱時間	場 所
学生部	総務・総合窓口グループ	諸届・申請・遺失物取扱	平日 8:45～16:45※	南校舎地下1階 *学事グループ法務 研究科担当窓口は 南館1階
	学事グループ	履修・授業・成績・教室貸 出・大学院入試		
	学生生活支援グループ	学生生活	平日 9:30～16:30※	
		学生相談		
	福利厚生支援グループ	奨学金・学生健保	平日 8:45～16:45※ ただし、奨学金申請受付時間は上記と異なる	
	国際交流支援グループ	留学	平日 8:45～16:45※	南館地下1階
就職・進路・ 教職課程支援グループ	就職・進路			
	教職課程	平日 14:00～16:45※		南校舎1階
	就職資料室			
保健管理センター		健康診断・ヘルスケア	平日 8:30～17:00※ 三田診療所の受付時間は Web (https://www.hcc.keio.ac.jp/) でご確認ください	北館1階
三田 KIC		keio.jp・ITCアカウント・ソフト ウェアライセンス・貸出PC	平日 8:45～16:45※	大学院校舎地下1階

※土曜、日曜、授業のない祝日、夏季・冬季三田キャンパス一斉休業期間および1月10日（福澤先生誕生記念日）は閉室します。

・変更等は適時塾生サイトでお知らせします。

振鈴表

時限	三田・日吉	三田		日吉
	授業期間	定期試験／追加試験(学期前半)	追加試験(学期末)	定期試験・追加試験
第1時限	9:00～10:30	9:00～10:30	9:00～10:20	9:00～10:00
第2時限	10:45～12:15	10:45～12:15	10:30～11:50	10:20～11:20
第3時限	13:00～14:30	13:00～14:30	12:30～13:50	12:20～13:20
第4時限	14:45～16:15	14:45～16:15	14:00～15:20	13:40～14:40
第5時限	16:30～18:00	16:30～18:00	15:30～16:50	15:00～16:00
第6時限	18:10～19:40※	18:10～19:40	17:00～18:20	16:20～17:20
第7時限	—	—	—	17:40～18:40

※日吉は第5時限までです。

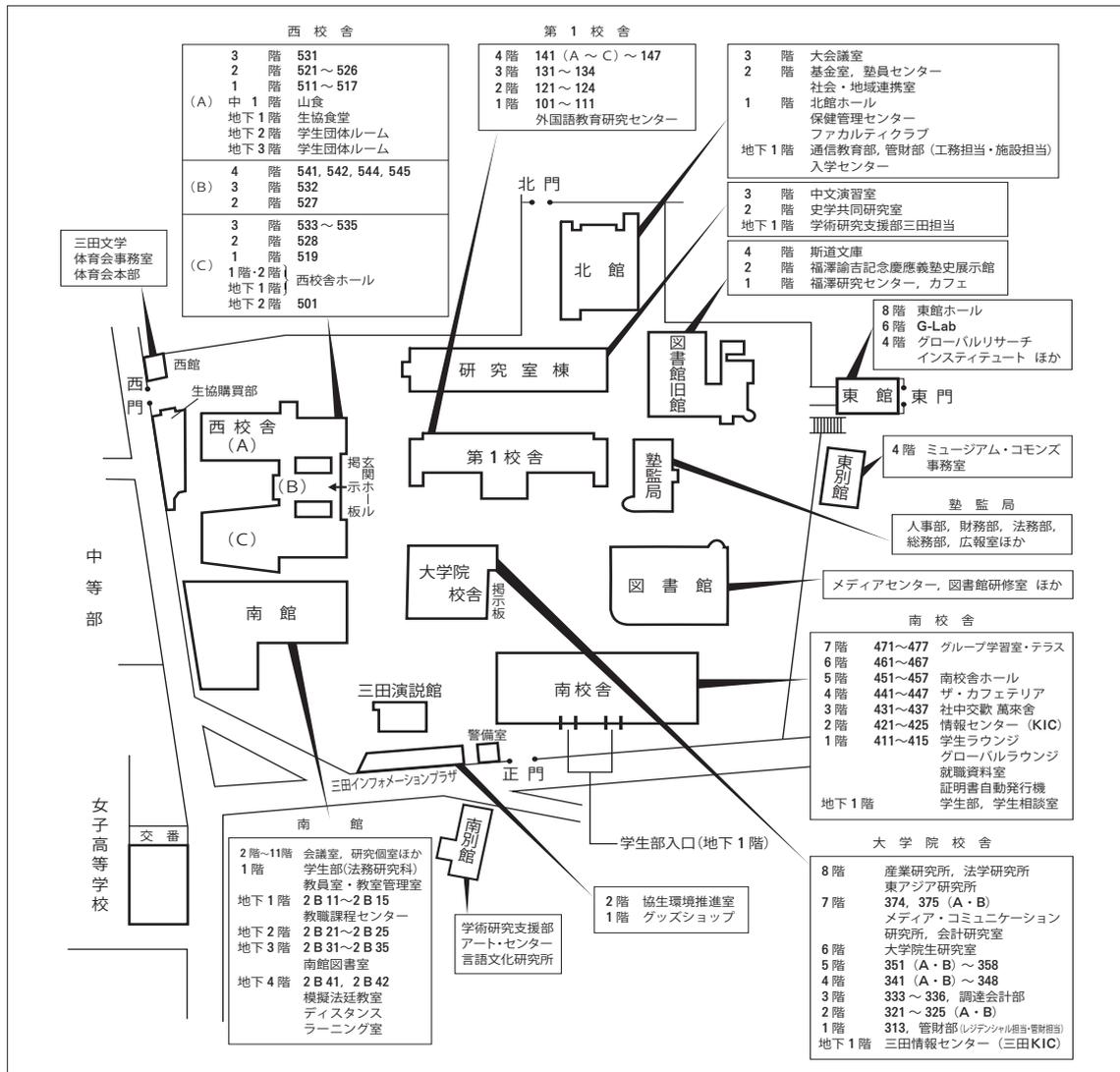
学事関連の伝達事項

三田キャンパス設置科目（法務研究科を除く）の時間割変更、休講・補講、緊急通達、各種試験の実施要項、学事日程、呼出等の各種お知らせは Web 等に掲載しますので、必ず確認してください。学生部からの最新情報も Web 等に掲載します。他キャンパス設置科目についての情報は、同様に Web 等およびその科目を設置しているキャンパスの掲示板を確認してください。

校舎と教室番号

第1校舎	大学院校舎	南校舎	西校舎	南館
101～147	313～375-B	411～477 南校舎ホール	501～545 西校舎ホール	2B11～2B42

三田キャンパスマップ (2024年4月現在)



その他

(1) PC・プリンタ・ネットワークの利用

三田KICのWebページで確認してください。

<https://www.mita.itc.keio.ac.jp/>



*PC等充電可能エリアは、塾生サイトより確認してください。

<https://www.students.keio.ac.jp/mt/life/facility/mita.html>



(2) 証明書発行機 (第3-7証明書 (成績証明書・学割証等) 参照)

証明書発行機は南校舎1階に設置されています。稼働期間・時間などは、塾生サイトより確認してください。

証明書の発行

<https://www.students.keio.ac.jp/com/procedure/certificate/issue.html>



(3) コピー

コピー機は生協食堂にあります。

(4) 遺失物

届出のあった遺失物は、三田学生部総合窓口にて保管しています。

遺失物・拾得物

<https://www.students.keio.ac.jp/com/life/lost-found/>



(5) 食堂

南校舎に「ザ・カフェテリア」、西校舎に「山食 (やましょく)」と「生協食堂」の3つの食堂があります。

第1

学事関連スケジュール (三田)

2024年
4月

①-⑭：2学期制の春・秋学期の回数
①-⑭：4学期制の春学期前半・秋学期前半の回数
①-⑭：4学期制の春学期後半・秋学期後半の回数

休校期間 休日

日	月	火	水	木	金	土
	1 入学式 成績証明書発行開始 4年生卒業見込証明書発行開始	2	3	4	5	6 許可者発表(18:00) 履修確認画面公開①(18:00予定) 履修調整結果反映
春学期Web履修申告期間(一次)(3日12:30~5日16:00)						
7	①①② 春学期授業開始 春学期前半科目授業開始	①①② 8	①①② 9	①①② 10	①①② 11	①①② 12
春学期Web履修申告期間(二次)(6日18:00~15日10:00)						
14	②③④	②③④ 15	②③④ 16	②③④ 17	②③④ 18 履修確認画面公開②(16:00予定)	②③④ 19
春学期履修エラー修正期間(19日8:45~22日16:00)						
21	③⑤⑥	③⑤⑥ 22	③⑤⑥ 23	③⑤⑥ 24	③⑤⑥ 25	③⑤⑥ 26
開校記念日(授業を行います)						
28	④⑦⑧ 昭和の日 (授業を行います)	④⑦⑧ 29	④⑦⑧ 30	下旬 定期健康診断		
春学期履修登録取消期間(29日10:00~30日16:00) ※対象:通年(セット)・春学期・春学期前半科目						

5月

日	月	火	水	木	金	土
	上旬 定期健康診断 下旬 春学期前半定期試験時間割発表		④⑦⑧ 1	④⑦⑧ 2 履修科目証明書発行開始 (春学期分)	3 憲法記念日	4 みどりの日
5	こどもの日 振替休日	⑤⑨⑩ 6	⑤⑨⑩ 7	⑤⑨⑩ 8	④⑦⑧ 9	④⑦⑧ 10
12	⑤⑨⑩	⑥⑪⑫ 13	⑥⑪⑫ 14	⑥⑪⑫ 15	⑤⑨⑩ 16	⑤⑨⑩ 17
19	⑥⑪⑫	⑦⑬⑭ 20	⑦⑬⑭ 21	⑦⑬⑭ 22	⑥⑪⑫ 23	⑥⑪⑫ 24
26	⑦⑬⑭	⑧⑯⑰ 27	⑧⑯⑰ 28	⑧⑯⑰ 29	⑦⑬⑭ 30	⑦⑬⑭ 31 休学願提出期限(春学期分)
春学期後半科目授業開始						

6月

※「試験日」には4学期制前半科目の試験が行われる場合があります。
※「補講日」には補講の設定がなされた授業のみが行われます。

日	月	火	水	木	金	土
						⑦⑬⑭ 春学期前半科目終了 早慶野球戦(予定)
2	⑧⑱⑲	3	試験日/補講日 4	試験日/補講日 5	⑧⑱⑲ 6	⑧⑱⑲ 7
9	⑨⑳㉑	⑨⑳㉑ 10	⑨⑳㉑ 11	⑨⑳㉑ 12	⑨⑳㉑ 13	⑨⑳㉑ 14
16	⑩㉒㉓	⑩㉒㉓ 17	⑩㉒㉓ 18	⑩㉒㉓ 19	⑩㉒㉓ 20	⑩㉒㉓ 21
春学期前半科目成績公開 春学期履修登録取消期間(20日10:00~21日16:00) ※対象:春学期後半科目						
23	⑪㉔㉕	⑪㉔㉕ 24	⑪㉔㉕ 25	⑪㉔㉕ 26	⑪㉔㉕ 27	⑪㉔㉕ 28
30						⑪㉔㉕ 29

7月

※「補講日」には補講の設定がなされた授業のみが行われます。

休校期間 休日

日	月	火	水	木	金	土
	12 9 10	12 9 10	12 9 10	13 11 12	12 9 10	12 9 10
7	13 11 12	13 11 12	13 11 12	14 13 14	13 11 12	13 11 12
14	14 13 14 海の日 (授業を行います)	14 13 14	14 13 14	18 補講日	14 13 14	14 13 14 春学期授業終了 春学期後半科目授業終了
21						
春学期末定期試験(22日～30日予定)(この期間に授業は行われません)						
28				31 夏季休校(～9月21日)	上旬 春学期末定期試験時間割発表 上旬 春学期末追加試験申込受付	

8月

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12 振替休日	13	14	15	16	17
春学期末追加試験(7日～8日予定) ※春学期末定期試験を行う科目のみ対象						
三田キャンパス一斉休業(9日～16日)						
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

9月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5 9月卒業・進級発表 ※ 春学期末学業成績表(Web)公開	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16 敬老の日	17	18	19	20 9月卒業式	21
22	23 振替休日	24 9月入学式 成績証明書に春学期科目反映	25	26	27	28 許可者発表(18:00) 履修確認画面公開①(18:00予定) 履修調整結果反映
秋学期 Web 履修申告期間(一次)(25日 12:30～27日 16:00)						
29	30	※対象者には成績表の「判定欄」に「卒業・進級」などの判定結果が記載されます。				
秋学期 Web 履修申告期間(二次)(9月28日 18:00～10月8日 10:00)						

10月

休校期間 休日

日	月	火	水	木	金	土
		11①② 秋学期授業開始 秋学期前半科目授業開始 秋学期Web履修申告期間(二次)(9月23日18:00~10月8日10:00)	11①② 2	11①② 3	11①② 4	11①② 5
6	11①② 7	2③④ 8	2③④ 9	2③④ 10	2③④ 11 履修確認画面公開②(16:00予定)	2③④ 12
13	2③④ スポーツの日 (授業を行います)	3⑤⑥ 14	3⑤⑥ 15	3⑤⑥ 16	3⑤⑥ 17	3⑤⑥ 18
20	3⑤⑥ 21	4⑦⑧ 22	4⑦⑧ 23	4⑦⑧ 24 履修科目証明書発行開始 (秋学期分)	4⑦⑧ 25	4⑦⑧ 26
27	4⑦⑧ 28	5⑨⑩ 29	5⑨⑩ 30	5⑨⑩ 31 授業料等納入期限 (秋学期分納)		

11月

※「試験日」には4学期制前半科目の試験が行われる場合があります。
 ※「補講日」には補講の設定がなされた授業のみが行われます。

日	月	火	水	木	金	土
					5⑨⑩ 1	5⑨⑩ 2 早慶野球戦(予定)
3	5⑨⑩ 文化の日 振替休日 (授業を行います)	6①② 4	6①② 5	6①② 6	6①② 7	6①② 8
10	6①② 11	7③④ 12	7③④ 13	7③④ 14	7③④ 15	7③④ 16
17	7③④ 18 秋学期前半科目授業終了	19 試験日/補講日(午前) 三田祭準備	20 三田祭準備	21 三田祭	22 三田祭	23 勤労感謝の日 三田祭
24	25 三田祭片付け	26 試験日/補講日	27 8①② 秋学期後半科目授業開始	28 8①②	29 8①② 休学願提出期限(秋学期分)	30 8①②

12月

日	月	火	水	木	金	土
1	8①② 2	8①② 3	9③④ 4	9③④ 5	9③④ 6	9③④ 7
8	9③④ 9	9③④ 10 卒業論文および題目 オンライン提出開始 10:00~	10⑤⑥ 11 秋学期前半科目成績公開 秋学期履修登録取消期間(11日10:00~12日16:00) ※対象:秋学期後半科目	10⑤⑥ 12	10⑤⑥ 13	10⑤⑥ 14
15	10⑤⑥ 16	10⑤⑥ 17	11⑦⑧ 18	11⑦⑧ 19	11⑦⑧ 20	11⑦⑧ 21
22	11⑦⑧ 23 卒業論文提出期限(図書館・情報学専攻)~15:00	11⑦⑧ 24	12⑨⑩ 25	12⑨⑩ 26	12⑨⑩ 27	12⑨⑩ 28
29	30 冬季休校(~1月4日) 三田キャンパス一斉休業(30日~1月4日)	31				

2025年

1月

※「補講日」には補講の設定がなされた授業のみが行われます。

休校期間 休日

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
中旬	秋学期末定期試験時間割発表		元日			
中旬	秋学期末追加試験申込受付					
5	12⑨⑩	6	12⑨⑩	7	13⑪⑫	8
			13⑪⑫	9	10	11
					福澤先生誕生日	
12	13	14	15	16	17	18
	成人の日	卒業論文提出期限(図書館・情報学専攻以外)~13:00	月曜代替講義日			
19	20	21	22	23	24	25
	14⑬⑭	14⑬⑭	14⑬⑭	補講日	秋学期授業終了 秋学期後半科目授業終了	秋学期末定期試験
26	27	28	29	30	31	
	(25日~2月1日予定) (この期間に授業は行われません)					

2月

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
	福澤先生命日 春季休校(~3月31日)					
9	10	11	12	13	14	15
		建国記念の日				
16	17	18	19	20	21	22
	秋学期末追加試験(17日~18日予定) ※秋学期末定期試験を行う科目のみ対象					
23	24	25	26	27	28	
天皇誕生日	振替休日					

3月

日	月	火	水	木	金	土
						1
※成績表の「判定欄」に「卒業・進級」などの判定結果が記載されます。						
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
	卒業発表 ※ (秋学期学業成績表(Web)公開)					
16	17	18	19	20	21	22
				春分の日		
23	24	25	26	27	28	29
	卒業式					
30	31					

【補講日/試験日】 春学期：6/4(火)，5(水) 秋学期：11/19(火)午前，26(火)

【補講日】 春学期：7/18(木) 秋学期：1/23(木)

【休日の授業】 春学期：昭和の日：4/29(月)，海の日：7/15(月) 秋学期：スポーツの日：10/14(月)，文化の日振替休日：11/4(月)

【代替日】 春学期：なし 秋学期：1/15(水-月曜代替日)

諸研究所・センターの開講科目等のガイダンスについて

諸研究所・センターの開講科目等のガイダンスについては各自でホームページを参照の上、最新情報を確認してください。

なお、ガイダンスが3月中に開催される場合もありますので、日程に注意してください。

<https://www.students.keio.ac.jp/mt/class/registration/institutes.html>



研究所・センター名
言語文化研究所
メディア・コミュニケーション研究所
斯道文庫
体育研究所
福澤研究センター
国際センター
保健管理センター
教職課程センター
アート・センター
外国語教育研究センター
学生総合センター
グローバルリサーチインスティテュート
ミュージアム・コモンズ

学芸員課程登録（博物館学実習エントリーについて）

実施方法は塾生サイトより確認してください。

※資格取得を希望する学生は、必ず詳細を確認するようにしてください。

<https://www.students.keio.ac.jp/com/class/certification/curator.html>



第2

文学部

学籍（休学・留学・退学）

※授業期間中、長期間にわたり海外等に行く場合は必ず学生部文学部担当に申し出てください。

※申請方法が変更となった場合は、Web等に掲載されますので、必ず確認してください。

留学・休学・退学・就学の文学部での手続きについて

<https://www.students.keio.ac.jp/mt/flet/procedure/status/form.html>

必ず最新の情報を確認してください。



1 休学

病気その他やむを得ない理由により欠席が長期にわたる場合は、学部学則第152条により、休学することができます。休学期間は進級・卒業に必要な在学年数には算入しません。

	通年	春学期	秋学期
休学期間	4月1日～翌年3月31日	4月1日～9月21日	9月22日～翌年3月31日
休学願提出期限	5月31日(金) 16:45		11月29日(金) 16:45

【休学の手続き】

専攻担任と面接して承認を得たうえで、休学を申請してください。申請方法は上記塾生サイトを確認してください。なお、申請に際しては以下の添付書類が必要です。

休学理由	添付書類
病気・怪我	療養を要する期間が記載された医師による診断書
語学研修	研修期間が明記された入学許可書の写し等
上記以外 (一身上の都合)	申請フォームにて休学理由を詳細に記載してください。 ※長期インターン・就業関係は理由書に加え、雇用通知書・事業証明書等を提出すること。

ただし、長期療養を要する病気等により期限までに休学願が提出できなかった場合や、期限後の突発的な事故等で就学が不可能になった場合は、可能な限りすみやかに専攻担任か学生部文学部担当に連絡してください。

【履修申告】

各学期の履修申告期間より前に教授会において正式な休学として承認されていない場合は、休学予定であっても、必ず履修申告をしてください。履修申告した科目は、教授会において休学が正式に認められた後に、休学期間に応じて自動的に削除されます。

【休学上限】

2023年度より学則第152条が改正されたことに伴い、以下のとおりとします。

- (1) 休学期間の上限は、通算して4年(8学期)とします。ただし、編入学者および再入学者の休学期間の上限については異なります。詳細は学生部文学部担当へお問い合わせください。
- (2) 上記の休学期間の通算に含むのは、2023年4月1日以降の休学とします(2022年度以前の休学は通算に含めません)。
- (3) 休学理由が「母国における兵役義務のため」と認められた場合、当該休学期間は上記の休学期間の通算には含めません。
- (4) 在学中の休学期間の通算が上限に達した場合、それ以降の休学は認められません(母国における兵役義務を理由とした休学を除く)。

【継続履修】

秋学期および翌年度春学期に休学した場合、留学による継続履修の取扱いに準じて、継続履修が認められる場合があります。詳細はp.10「2 留学【継続履修】」を確認してください。

2 留学

外国の大学に留学を予定している者は、教育上有益と認められる場合に学則による留学が許可されることがあります。語学研修等は留学に該当せず、休学の対象になります。

留学希望先の大学でオンライン授業が提供され、文学部でオンライン授業の履修を留学として認められた場合は、現地に渡航せずにオンライン留学が認められることがあります。

オンライン留学の場合も含め、留学期間中に慶應義塾大学で科目を履修することはできません。

【国外留学申請書】

留学を希望する場合、まず上記の塾生サイトより申請方法を確認のうえ、専攻担任に相談してください。留学が許可されるためには、専攻担任による面接、学部教授会の承認が必要です。これらを含めて出発の1ヶ月前までに手続きを済ませてください(8月は教授会がないので注意してください)。

【履修申告】

春学期/秋学期の履修申告期間より前に教授会において正式な留学として承認されていない場合は、留学予定であっても、必ず履修申告をしてください。履修申告した科目は、教授会において留学が正式に認められた後に、留学期間に応じて自動的に削除されます。

【就学届】

- (1) 留学期間が終了し再び学業に戻る場合は、所定の「就学届」を塾生サイトの提出フォームにアップロードしてください。所定用紙は留学許可通知とともに保証人宛に郵送されます。
- (2) 留学を終え春学期に就学した場合、その時期により、春学期分の履修申告ができる場合があります。既に4月の履修申告期間が終わっている場合の履修申告方法は、別途案内します。

【留学に伴う単位認定】

留学中に修得した授業科目の単位は、30単位を超えない範囲で学部学則の規定する卒業に必要な単位として認定することができます。なお、認定を受けた科目の評語は「G」（認定）になります。

- (1) 認定対象科目：三田文学部設置**専門教育科目および必修語学科目**（※）
- (2) 提出書類：①単位認定申請書（所定用紙）②留学先の成績証明書 ③授業時間数を証明する書類* ④講義要綱等の授業内容を証明する資料
*単位数換算の目安：講義科目として認定する場合は1350分以上で2単位、2700分以上で4単位。演習科目として認定する場合は1350分以上で1単位。
- (3) 承認手続：科目の種類によって承認を受ける教員が異なります。以下を参照し、承認を受けてください。
- (4) 書類提出期限：帰国後に学生部文学部担当から所定用紙を受け取り、すみやかに提出すること。原則として教授会で承認された留学終了日から6ヶ月以内を提出期限とします。ただし、留学先の大学の成績証明書発行時期が決まっているなどの特段の事情がある場合は、すみやかに学生部文学部担当に申し出て相談してください。

科目の種類		認定処理担当教員		最終確認・承認教員
所属専攻設置科目	⇒	自身の所属専攻の専攻担任	⇒	自身の所属専攻の専攻担任
他専攻設置科目	⇒	科目が設置されている専攻の専攻担任		
専攻に属さない文学部設置科目 (必修語学科目含む)	⇒	学習指導主任		
他学部の科目	⇒	認定不可		

※必修語学科目の単位認定を希望する場合は、留学前にも学習指導主任の承認が必要です。詳細は学生部文学部担当に確認してください。

【留学期間の在学年数への算入】

留学期間は、1年を上限に在学年数に算入することができます。ただし、在学年数への算入を行うことにより学年が変わるか否か・遡及進級できるか否かは学年・専攻、留学に伴う単位認定結果などにより扱いが異なりますので、希望者は留学前に専攻担任と相談の上、教授会で承認された留学期間終了後、直近の履修申告期間終了までに必要な書類を学生部文学部担当に提出してください。

【継続履修】

年度の途中から留学する場合は、以下の科目に限り留学前と留学終了後に継続履修し、単位取得することが可能です。継続履修の申請は留学（休学）申請フォームから行ってください。また必ず留学前と留学終了後に各科目担当者へ、継続して履修する意志があることを伝えてください。詳細は塾生サイトを確認してください。復学後の履修申告については、p.43を参照してください。

〈継続履修が可能な科目〉

- ① 2年次の必修語学科目
- ② 文学部設置の専門教育科目のうち通年・セット科目

※総合教育科目は継続履修できません。ただし、外国語教育研究センター「特設科目」(I)(II)科目はこの限りではありません。

※教職課程センター設置科目については、継続履修が認められる場合があります。必ず留学前に学生部教職課程担当に確認してください。

3 退学

(1) 自主退学

事情により退学を希望する場合は、専攻担任と面接して承認を得たうえで、退学を申請してください。申請方法は塾生サイトを確認してください。また学生証を三田学生部文学部担当に返却してください（郵送可）。授業料等を納入しないで退学する場合、授業料等の納入年度（学期）までさかのぼって退学とするため（学則第171条）、退学年月日は授業料等納入済の学期末日となります。これに伴い、退学年月日以降の在籍および成績は無効となります。なお、退学後に授業料等が完納された場合でも、無効となった在籍および成績は有効にはなりません。

【再入学を伴う退学】

正当な理由で一時的に就学が困難で退学を希望する学生に関して、学則第155条により再入学を伴う退学を認める場合があります。詳細は学生部文学部担当に相談してください。なお、再入学を伴う退学が承認されても、無条件で再入学が認められることにはなりません。

(2) 退学処分

①大学の学則もしくは諸規律に違反したと認められた時、履修申告を期日までに提出せず休学・退学の願い出もなく修学の意志が確認できない時などには学則第188条により退学処分となります。

②以下の要件に該当する場合には学則第156条により退学処分となります。

- ・第1・第2学年併せて4年在学し、当該年度末に第3学年に進級し得ない者
- ・第3・第4学年併せて4年在学し、当該年度末に卒業し得ない者

③2023年度より学則第152条が改正されたことに伴い、以下の要件に該当する場合には退学処分となります。

- ・休学期間が通算して4年を超過した者

※休学期間の算出についてはp.9「1 休学【休学上限】」を参照してください。

【留学・休学の取り扱いについて】

	留 学	休 学
種類	教授会において適正と認められた海外の大学で正式な手続を経て正規生と同じ授業を受ける場合。「交換留学」「私費留学」の2つの区別があります。	・語学研修(その他左記の「留学」と認定されない海外研修など。入学許可書の写し等を添付してください。) ・病気・怪我による休学(医師の診断書を添付してください) ・一身上の都合による休学
申請対象期間	原則として「留学」の開始日から留学先大学の1学期間以上1年まで。 「留学」は年度途中で開始し、年度の途中で終了することが可能です。(例) 2024.9.22～2025.9.21	通年もしくは学期単位。 通年(4月1日～翌年3月31日) 春学期(4月1日～9月21日) 秋学期(9月22日～翌年3月31日) *複数年度・学期にわたって休学する場合は、新年度・学期用に再度休学願を提出してください。
間 延長・上限	1回可能(最長で留学開始日から2年間まで)それ以降は「休学」となります。 *「留学」を延長する場合は、「国外留学申請書(延長)」を提出してください。	留学の延長が出来ない場合(左記の延長期間を過ぎても留学継続を希望する場合など)の休学期間は、直近の留学申請期間終了日翌日より当該学期末もしくは年度末まで。 休学期間の上限は通算して4年(8学期)とします。詳細はp.9の「1休学」の項を確認してください。
学 費 減 免 措 置	【交換留学(ダブルディグリー含む)】 原則として減免制度はありません。ただし、学費の相互免除が含まれない交換留学については、代理徴収費用(研究会費・自治会費・学生健康保険互助組合費等)を除き、学費の全額を減免します。 【私費留学(延長を含む)】 各学期において授業料・施設設備費・実験実習費の全額を減免します。納付が必要な費用は在籍基本料および代理徴収費用(研究会費・自治会費・学生健康保険互助組合費等)となります。 減免される期間は、最長4学期まで(交換留学・ダブルディグリーの期間含む)。 ただし、本大学での学習を奨励するため、入学1年目の私費留学については、学費は減免されません。	【入学1年目】 本大学での学習を奨励するため、入学1年目の休学については、学費は減免されません。 ただし、兵役と正課・課外活動中の事故による傷害、地震・台風等の大規模な自然災害(激甚災害)の影響の場合は授業料・施設設備費・実験実習費が減免されることがあります。 【入学2年目以降】 各学期において授業料・施設設備費・実験実習費の全額を減免します。納付が必要な費用は在籍基本料および代理徴収費用(研究会費・自治会費・学生健康保険互助組合費等)となります。
単位取得・認定	履修 年度の途中から留学する場合は、以下の科目に限り留学前と留学終了後に継続履修し、単位取得することが可能です。 必ず留学前と留学終了後に各科目担当者へ、継続して履修する意志があることを伝えてください。 <継続履修が可能な科目> ①2年次の必修語学科目 ②文学部設置の専門教育科目のうち通年・セット科目 いずれの科目についても必ず所定の手続きを行ってください。 *総合教育科目は継続履修できません。ただし、外国語教育センター「特設科目」((I)(II)科目)はこの限りではありません。 *教職課程センター設置科目については、継続履修が認められる場合があります。必ず留学前に学生部教職課程担当に確認してください。	休学中の学期は履修できません。 【年度始めから休学】 履修申告が必要です(ただし、前年度教授会で休学が承認された場合は不要です)。 【年度途中から休学】 春学期休学する場合は春学期科目はすべて無効です。秋学期休学する場合は春学期に履修・取得した科目は有効ですが、セット科目の成績は、原則、春・秋ともに無効となります。秋学期および翌年度春学期に休学する場合に限り、復学した秋学期に、 <u>休学前に履修申告した通年・セット科目を継続履修することが可能です。</u> その場合の条件は、左記と同じです。
単位認定	30単位を超えない範囲で、学部学則の規定する卒業に必要な単位として認定することがあります。認定を希望する場合は、就学後学生部文学部担当から所定の用紙を受け取り、すみやかに提出してください。なお、認定される科目は 三田文学部設置専門教育科目及び必修語学科目 に限ります(総合教育科目は含まれません)。また、必修語学科目の単位認定を希望する場合は、留学前にも学習指導主任の承認が必要です。	単位認定制度はありません。
終了後	速やかに就学届を提出してください。なお、就学後の行事日程については、塾生サイト等を参照してください。	速やかに就学届を提出してください(病気による休学については、医師による病気が回復した旨の診断書を添えてください)。なお、就学後の行事日程については、塾生サイト等を参照してください。
在学年数	留学の期間は1年間を上限に在学年数に算入することができます。希望者は留学前に専攻担任と相談の上、教授会で承認された留学期間終了後、直近の履修申告期間終了までに必要な書類をそろえて学生部文学部担当に提出してください。	休学の期間は在学年数に算入されません。
進級・卒業	留学終了後の学年は、原則として留学開始前の学年と同じです(原級に留まります)。ただし、専攻によっては在学期間算入および単位認定等により進級条件を満たせば、4月に遡って進級できる場合があります。専攻内規を確認の上、必ず留学前に専攻担任と相談してください。なお、4年生での留学は必ず原級に留まります(留学終了後に、3月に遡って卒業資格を得ることはありません)。	進級・卒業の時期は年度末です。進級・卒業のためには、各学年・専攻における進級・卒業要件を満たすとともに、各学年において2学期以上在学する必要があります。第1～3学年では進級条件を充足し各学年2学期以上在学すれば秋学期に休学していても当該年度末に進級できます。しかし、第4学年については、秋学期休学の場合には当該年度末に卒業することはできません。
申請の流れ	詳細は塾生サイトを確認してください。 https://www.students.keio.ac.jp/mt/procedure/status/apply.html	

*学費減免措置は、適用される学費体系によって必要な手続・書類が異なります(第2学年編入・学士入学・再入学の場合は在籍学年にかかわらず、入学年度は入学1年目として扱われます)。

減免を受けるための手続き等の詳細については、学生部文学部窓口で確認してください。

学費の詳細および金額については、「慶應義塾 Web ページ」→「入学案内」→「学費」ページを確認してください。

<https://www.keio.ac.jp/ja/admissions/fees/>



なお、留学・休学中も、本大学の学事・学生生活支援、図書館、情報環境等に関する諸サービスの利用が可能であるため、在籍基本料は減免の対象となりません(交換留学のうち、学費の相互免除が含まれないものを除く)。

第3 学生証・諸届・証明書

1 学生証

学生証は本大学学生であることを証明する身分証明書です。様々な場面で必要になるので常に携帯してください。学生証を他人に貸与または譲渡することはできません。

(1) 再交付

学生証または在籍確認シール（学生証裏面シール）を紛失、汚損した場合は、速やかに三田学生部総合窓口で再交付を受けてください。

一必要書類

学生証再交付願（所定用紙）、2,000円（証紙：三田学生部総合窓口の券売機で販売しています）

（顔写真の変更を希望する場合のみ）証明書用写真：縦4cm横3cm、カラー光沢仕上げ、脱帽、上半身正面、白・青またはグレーを基調とした無地の背景（風景やカーテンなどの背景は不可）、3ヶ月以内に撮影されたもの、写真加工アプリ等を用いて画像に修正を施したものは不可

再交付理由	手数料
カードの紛失または破損	2,000円
改姓名 在籍確認シールの紛失 磁気ストライプ・ICチップの破損	無料

(2) 在籍確認シール（学生証裏面シール）

年度ごとのシール更新は行いません。休学・留学・原級等の理由で、シールの有効期限が切れる学生には、有効期限が切れる前に、有効期限を更新したシールを配付します。

(3) 学生証の返却

再交付を受けた後に前の学生証が見つかった場合、また、退学等で離籍した場合はただちに三田学生部総合窓口へ返却してください。

2 住所変更（本人・保証人）

海外住所に変更を希望する場合は、所属学部窓口へお問い合わせください。

(1) 本人の住所変更の場合

速やかに keio.jp 「住所確認・変更」にて、住所変更の申請を行ってください（URL およびログイン方法は p. 15 参照）。不備がなければ、申請は通常、数日で承認されます。承認されると、keio.jp のメールアドレスに承認通知が届きます。

通学定期の区間が変更となる場合は、承認通知のメールが届いた翌朝 7:00 以降に、証明書発行サービスで通学証明書を申請してください。

(2) 保証人の住所変更の場合

塾生サイト（<https://www.students.keio.ac.jp/com/procedure/register/apply.html>）で申請方法を確認し、速やかに変更手続を行ってください。



本人・保証人の住居表示・地番・電話番号変更の場合も手続を行ってください。

これらの手続が行われない場合は、履修その他の重要な連絡に重大な支障をきたすことがありますので、十分注意してください。

3 保証人変更

保証人を変更する場合は、塾生サイト（<https://www.students.keio.ac.jp/com/procedure/register/apply.html>）で申請方法を確認し、速やかに変更手続を行ってください。保証人は原則として日本国内に居住し一家計を立てている成年者で、本人の学費と一身上に関する一切の責任を負うことのできる者とし、父または母としてください。父母が保証人となり得ない場合は、兄、姉、伯父、伯母等後見人またはこれに準ずる方としてください。なお、国内に居住する者が保証人となり得ない場合は、国外に居住する者を保証人とすることができます。ただし、この場合は、本人に緊急事態が発生した場合の連絡先として、日本国内の住所を必ず「緊急連絡先」として届け出てください。「緊急連絡先」は、緊急時に速やかに連絡がつくことをその要件とします。



4 改姓・改名（本人・保証人）

改姓・改名した場合は、塾生サイト (<https://www.students.keio.ac.jp/com/procedure/register/apply.html>) で申請方法を確認し、速やかに変更手続を行ってください。

一必要書類

新姓名の戸籍謄本または抄本、もしくは旧姓併記の住民票（3ヶ月以内に発行の原本のみ）/旧姓併記の運転免許証（写）

5 国籍変更

国籍を変更した場合は、速やかに三田学生部所属学部窓口へ届け出てください。

一必要書類

学生証、戸籍抄本（コピーでも可）や住民票等の国籍変更が確認できる公的な証明書（必要な情報が記載されていることをあらかじめ発行元に確認してください）

6 通学証明書（通学定期）

以下の手順で、紙の「通学証明書」をあらかじめ発行してから、通学定期を購入してください。

①証明書発行サービス（「塾生サイト」→「各種手続き」→「証明書」→「証明書の発行」からアクセス）にログインし、「通学証明書」を申請する。

②コンビニエンスストア、もしくは学内証明書発行機で「通学証明書」を印刷する。

③通学証明書に通学区間等を記入し、駅窓口等に通学証明書を提出して通学定期を購入する。

※「通学証明書」の発行手数料は無料ですが、コンビニエンスストアで印刷する場合、印刷料金が60円かかります。

※通学区間は「自宅最寄駅」から「学校最寄駅（田町・三田・白金高輪・赤羽橋のいずれか1駅）」の最も経済的な経路に限ります（バス利用の場合は最寄りの停留所）。不正が判明した場合、通学証明書の発行を停止したり、学則に基づき処分することがあります。

※自宅住所を変更する場合、keio.jp「住所確認・変更」にて、住所変更の申請を行ってください。通学証明書に新住所が反映されるのは、住所変更の承認通知メールが届いた翌朝7:00以降です。

なお、授業科目履修のために所属以外のキャンパスに通学するための手続についても証明書発行サービスで行ってください。詳しくは塾生サイト (<https://www.students.keio.ac.jp/com/procedure/pass/>) を確認してください。



7 証明書（成績証明書・学割証等）

(1) 発行方法

各キャンパスの証明書発行機、もしくは全国のコンビニエンスストアにて証明書を発行できます。また、電子証明書（PDF）のダウンロードリンクを直接提出先に送付するオンライン送付機能もあります。

詳細は塾生サイト (<https://www.students.keio.ac.jp/com/procedure/certificate/issue.html>) を確認してください。

①コンビニエンスストアでの発行

全国のコンビニエンスストア（セブン-イレブン、ファミリーマート、ローソン）にて、各種証明書を発行できます。発行には事前の申請・手数料の支払いが必要です。

※学割証はコンビニエンスストアで発行できません。証明書発行機を利用してください。



②証明書発行機での発行

設置場所	稼働時間
南校舎1階	月～土 8:45～20:00 (授業・定期試験のない土曜日、また祝日・一斉休業期間・システムメンテナンス中は利用できません)

※他キャンパス（日吉・矢上・藤沢・芝共立）に設置されている発行機も利用できます。

※メンテナンス・故障等による利用停止情報等は、適時 Web 等でお知らせします。

③電子証明書（PDF）のオンライン送付

電子証明書（証明書のPDFデータ）のダウンロードリンクを就職先企業、海外の教育機関等に直接送付する機能です。詳細は塾生サイト (<https://www.students.keio.ac.jp/com/procedure/certificate/issue.html>) で確認してください。



(2) 証明書の厳封

厳封を希望する場合は、三田学生部総合窓口で申し込んでください。証明書発行機・コンビニエンスストアで発行された証明書を後から厳封することはできません。

(3) 代理人による申請

代理人による証明書の申請は、学生本人が大学に来ることが困難な場合（留学中、入院中等）に限り受け付けます。所属学部窓口にて申し込んでください。

一必要書類

本人の学生証の写し、委任状、代理人の身分証明書

※委任状には特に所定の書式はありませんが、例を参照のうえ、学生本人の意思が確認できるように作成してください。

[例] 委任状

私「(本人氏名)」は、「(代理人氏名)」に、証明書の申込みと受け取りを一任します。

20XX年〇月△日・本人署名・捺印

※身分証明書とは、慶應義塾大学学生証、運転免許証、パスポート、健康保険証（被保険者等記号・番号等にマスキングを施すこと）、在留カードを原則とします。社員証、他大学学生証等は受け付けません。

(4) 証明書一覧

証明書	言語	手数料	発行場所	発行日数	発行開始日	備考
在学証明書	和文	300円	学内発行機 オンライン コンビニ	即日	4月1日	
	英文					
成績証明書	和文	300円	学内発行機 オンライン コンビニ	即日	4月1日	春学期に取得した科目は9月24日に反映されます。
	英文					
卒業見込証明書	和文	300円	学内発行機 オンライン コンビニ	即日	4月1日	4年生のみ発行されます。 休学中・留学中の場合は、学部窓口で申請してください。
	英文					
履修科目証明書	和文	300円	学内発行機 オンライン コンビニ	即日	春学期：5月2日 秋学期：10月24日	休学中・留学中の場合は、学部窓口で申請してください。
	英文	300円	学部窓口	即日		
健康診断証明書	和文	300円	学内発行機 オンライン コンビニ	即日	6月7日	受診した年度の年度末まで発行されます。
	英文	保健管理センターにお問い合わせください。(TEL：03-5427-1607)				
学割証	和文	無料	学内発行機	即日	4月1日	
所属地区通学証明書	和文	無料	学内発行機 コンビニ	即日	4月1日	
他地区通学証明書	和文	無料	学内発行機 コンビニ	即日	春学期：4月8日 秋学期：10月1日	授業科目履修を目的として、所属以外のキャンパスに通学するための 通学定期券購入に必要な証明書です。詳細は塾生サイト (https://www.students.keio.ac.jp/com/procedure/pass/) を確認してください。
各種資格試験等受験用単位取得証明書	和文	300円	学部窓口	数日 ^(注)	—	
提出先所定の用紙(リクエストフォーム)に証明・記入を要するもの、その他	和文 英文	300円	学部窓口	数日 ^(注)	—	

※発行までに時間がかかる場合がありますので、余裕をもって申請してください。

※窓口での証明書発行には学生証が必要です。

※学割証の有効期限は発行日から3ヶ月以内です(有効期間内でも学籍を失った場合は無効)。必要な枚数だけ発行するようにしてください。

※団体旅行申込書(団体割引)を発行する場合は、学生生活支援担当に申し出てください。

※前学期まで学費未納の場合は、すべての証明書が発行できません。納入後、所属学部窓口にて財務部発行「授業料納入確認書」を持参のうえ、申し出ることによって発行が可能ですが、発行まで数日を要する場合があります。

3 パスワード再発行

パスワード再発行窓口は以下のとおりです。

ログイン ID	再発行窓口	必要書類
慶應 ID	各キャンパス KIC 窓口	学 生 証
ITC アカウント	湘南藤沢を除く 各キャンパス KIC 窓口	

4 K-LMS：学修支援システム（CanvasLMS）

主に学修支援を目的としたシステムです。教材配布・レポート提出・お知らせ・ディスカッション等の機能を提供しています。詳細は以下のページを参照してください。

K-LMS（CanvasLMS）マニュアル

https://www.mita.itc.keio.ac.jp/ja/keiojp_edu2.html



第5 授業・成績

1 教室等使用申請（三田）

最新の情報は塾生サイトを必ず確認してください。

<https://www.students.keio.ac.jp/mt/life/facility/classroom.html>



(1) 教室の使用申請（研究会・サブゼミ・公認学生団体・体育会を対象）

以下の塾生サイトをご確認ください。

<https://www.students.keio.ac.jp/mt/life/facility/classroom.html>



(2) グループ学習室（南校舎7階）の使用申請

2名以上の在学生在がディスカッションやグループ学習をするために利用することができます。

以下の塾生サイトをご確認ください。

<https://www.students.keio.ac.jp/mt/life/facility/classroom.html>



(3) 学生食堂の使用申請

対 象 …… 公認学生団体・研究会のパーティー

使用可能期間 …… 日曜・祝日以外

手 続 …… 三田学生部教室担当窓口にて「学生食堂使用願」を提出して申込みをしてください。

備 考 …… 食事の内容等については「学生食堂使用願」提出後に、当該食堂に直接相談をしてください。利用日の2週間前までに各食堂に連絡がない場合、予約が取り消される場合があります。

2 教室設置 AV 機器の鍵の貸出

貸 出 窓 口 …… 教員室（南館1階）

手 続 …… 学生証提示

3 緊急時における授業の取扱い

台風・大雨・大雪・地震等の各種自然災害や、大規模な事故等による鉄道等交通機関の運行停止、その他緊急事態の発生により、休講措置をとらざるを得ない場合は、塾生サイトを通じてお知らせします。

【三田】緊急時における授業等の取扱い

<https://www.students.keio.ac.jp/mt/class/schedule/emergency.html>



4 早慶野球戦における授業の取扱い

塾生サイトより最新の情報を確認してください。

早慶戦における授業の取扱い

<https://www.students.keio.ac.jp/com/class/schedule/sokei.html>



5 裁判員候補者に選定された場合の取扱い

慶應義塾大学は、いわゆる「公欠」という考え方をとっていません。裁判員候補者に選定され、授業の出欠に迷う場合は、三田学生部文学部担当へご相談ください。なお、授業の性質上欠席が認められない場合がありますので、ご注意ください。

6 授業科目ナンバリング (K-Number)

2022年度より、**全授業科目に対して**、レベルや学問分野、授業形態等を示す番号を付番する授業科目ナンバリング制度 (K-Number) を導入しています。

K-Number によって興味関心のある学問分野を検索し、体系的な学修計画に基づいた学びが可能となります。

なお、複数の学部・研究科に併設された授業科目については、各学部・研究科ごとに異なる K-Number が付与されます。

K-Number の構成 〈文学部設置科目の見方〉

FLT-BC-1 1 11 1-1 1 1-11
 ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩

	種類	内容	
①	学部・研究科	文学部設置科目は FLT-FE～HS と表記されます。 各学部・研究科の表記は、塾生サイトで確認してください。	
②	科目設置 学科・専攻		
③	科目主番号 レベル (履修学年の目安)	0:学部共通 1:1年次配当レベル (または入門/導入レベル) 2:2年次配当レベル (または基礎レベル) 3:3年次配当レベル (または応用/発展レベル) 4:4年次配当レベル (または専門/実践レベル) 9:その他	
④	大分類	塾生サイトで確認してください。	
⑤	小分類		
⑥	科目種別		1:必修科目, 2:選択必修科目, 3:選択科目, 4:自由科目, 9:その他
⑦	授業区分 (全塾共通)	1:語学, 2:講義, 3:演習, 4:実験・実習・実技, 5:論文, 6:研究指導, 7:講義および実習, 9:その他	
⑧	科目補足 授業実施形態 (全塾共通)	対面授業	1:対面授業 (主として対面授業)
		遠隔授業	2:オンライン授業 (主としてリアルタイム形式) 3:オンライン授業 (主としてオンデマンド形式) 4:オンライン授業 (全回オンデマンド形式)
⑨	授業言語 (全塾共通)	1:日本語, 2:英語, 9:その他	
⑩	学問分野 学問分野 (全塾共通)	塾生サイトで確認してください。	

7 「遠隔 (オンライン) 授業」の修得上限単位数の取扱い

遠隔 (オンライン) 授業 ※1 で修得した単位のうち、卒業要件単位数に含めることのできる上限は 60 単位 ※2 です。

履修科目を決める際は、必ず授業実施形態を確認したうえで学修計画をたててください。それぞれの授業の授業実施形態は、シラバスおよび K-Number にて確認できます。

なお、履修申告時には、遠隔 (オンライン) 授業の修得済単位数と履修科目の単位数の合計が 60 単位を超える履修申告はできません。遠隔 (オンライン) 授業の履修単位数が修得済単位数と合計して 60 単位を超過する場合には、自由科目として履修申告してください。

※1 「遠隔 (オンライン) 授業」とは、全体の講義回数のうち、対面以外で実施される講義回数が、半数を超える授業です。

※2 2021 年度以前に遠隔 (オンライン) 授業で修得した単位は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大による特例措置として上限の対象外です。

8 成績

成績に関する詳細は、塾生サイトをあわせて確認してください。

<https://www.students.keio.ac.jp/com/class/grade/>



(1) 成績評語

所定の授業に出席し評価試験（定期試験またはレポート）を受けた後に評語が決まります。学業成績の評語は、S・A・B・C・Dの5段階を基本とし、S・A・B・Cを合格、Dを不合格とします。ただし、特定の科目は、評語をP・Fの2種とし、この場合、Pを合格、Fを不合格とします。なお、他大学等で履修した科目をS・A・B・CまたはPの評語を用いずに認定する場合は、Gとします。

なお、セット履修科目の評語は両方合格（S・A・B・C）か、両方不合格（D）のいずれかとなります。

●2016年度以前の履修科目の成績評語

学業成績の評語は、A・B・C・Dの4段階とし、A・B・Cを合格、Dを不合格とします。なお、特定の科目や他大学等で履修した科目については上記と同様です。

(2) GPA (Grade Point Average) ※2017年度以降入学者のみ

GPAは、履修登録した科目ごとの5段階評価を4.0から0.0までのGP (Grade point) (S:4.0, A:3.0, B:2.0, C:1.0, D:0.0) に置き換えて単位数を掛け、その総和を履修登録単位数の合計で割った平均点で、成績を数値で表したものです。

$$\text{GPA} = (\text{履修した授業科目の単位数} \times \text{当該授業科目のGP}) \text{の総和} \div \text{履修した授業科目の単位数の合計}$$

GPA算出にあたり、P（合格）の科目やF（不合格）の科目、G（認定）の科目、および自由科目は除かれます。

GPAは、当該学期における「学期GPA」と在学中の全期間における「累積GPA」の二種類があります。学業成績表には学期GPAと累積GPAが記載され、成績証明書には累積GPAが記載されます。

なお、GPAは学習指導のためにも活用され、著しく低い場合には、退学が勧告される等の指導を受ける場合があります。

(3) 学業成績表

学業成績表は特定期間にWebで閲覧可能です。紙媒体での郵送は行いません。利用に当たっては「keio.jp」のID・パスワードが必要で、閲覧期間等の詳細は塾生サイトで告知します。なお、パスワードの再発行等、Webシステムの利用案内については、「第4 Webシステム」の項を参照してください。

(4) 学業成績証明書

学業成績証明書に単位を修得した科目の成績評語が反映されるのは、春学期分は9月24日以降、秋学期分は4月1日以降です。ただし、卒業発表後、卒業決定者については卒業の日（3月10日）以降の最初の平日から学内証明書発行機、もしくは全国のコンビニエンスストアにて発行可能です。

9 成績評語に関する質問制度

(1) 制度対象

①対象学生

文学部に所属する学生で、成績評語に対して疑義をもち、確固たる根拠をもって質問したいと考える者（これは成績変更を嘆願する制度ではありません）

②対象科目・評語

履修するすべての科目のすべての評語

(2) 手続方法

①対象科目・期間

対象科目	質問制度手続期間
春学期前半科目（4学期制）	2024年6月20日9:00～6月21日16:45
春学期後半科目（4学期制） および春学期科目で春学期に成績評語が出た科目	2024年9月5日9:00～9月9日16:45
秋学期前半科目（4学期制）	2024年12月11日9:00～12月12日16:45
秋学期後半科目（4学期制） および秋学期科目で秋学期に成績評語が出た科目	2025年3月10日9:00～3月12日16:45

②手順 詳細は後日Web等でお知らせしますので、そちらを必ず確認してください。

(3) その他

①条件を満たしている場合のみ科目担当教員へ送付し、回答があった場合には返信します。なお、担当教員への回答の催促は一切行いません。また、同一の科目に関する更なる問い合わせは一切受け付けません。

②手続期間を過ぎたものは一切受け付けません。

③当該科目の最終授業（試験を実施する場合には、その最終試験）終了時以降に、この質問制度を利用せずに、成績評語についてメールやその他の方法で担当教員に直接問い合わせることはできません。この場合は、不正行為とみなされ、学則第188条および文学部内規により厳しく処分されます。

10 取得可能学位

本大学において授与する学位については、以下を確認してください。

- ・入学年度の学部学則（学位規程（抜粋）を含む）掲載の学位規程第2条
- ・学部案内

<https://www.keio.ac.jp/ja/academics/undergraduate/>



1 試験の種類

(1) 定期試験

定期試験の日程は p. 4「第1 学事関連スケジュール (三田)」の項を参照してください。

※定期試験時間割, 持ち込み指示, 受験に関する注意事項等の詳細は, 塾生サイトや K-LMS で必ず確認してください。

※定期試験・追加試験の Web ページ: <https://www.students.keio.ac.jp/mt/class/exam/>



①定期試験に関する注意

a 学生証

- (a) 学生証を必ず携帯し, 提示してください。
- (b) 試験当日, 万一学生証を携帯しなかった場合は, 三田学生部総合窓口で必ず仮学生証 (発行当日に限り全キャンパスで有効, 図書館入館も可) の交付を受けてください。なお, 仮学生証の発行には, 手数料 500 円が必要です。
- (c) 学生証または仮学生証を携帯せずに試験教室に入室することは一切認められません。
- (d) 仮学生証の発行手続により, 試験教室への入室が遅れても試験時間の延長はありません。また, 追加試験の対象とはなりません。

b 禁止事項

- (a) 2 時限以降は, 前時限の監督者が退室しない限り, 試験教室へ入室できません。
- (b) 試験教室を間違えないようにしてください。履修していない科目の試験教室へは立ち入らないでください。
- (c) 答案用紙は必ず提出しなければなりません。未提出の場合, 不正行為と判断され, 処分の対象とされます。

c 定期試験の実施時間

定期試験・追加試験の振鈴は一部授業時の振鈴とは異なります。「三田キャンパスガイド」の項を参照してください。また, 三田キャンパスと日吉キャンパスで異なりますので注意してください。

d 遅刻

試験開始後 20 分までの遅刻の場合は, 試験を受験することができます (試験時間の延長はありません)。ただし, 遅刻理由が本人に過失のない電車遅延の場合, 当該試験をそのまま受験するのか, あるいは追加試験の申請をするのかは, 本人の判断に依ります。電車遅延発生に伴い試験開始時間を遅らせる場合がありますので, 必ず試験教室に向かって試験監督の指示に従ってください。

e 退室

試験開始後 30 分間および試験終了前 10 分間は退室を認めません。また, 試験開始後の体調不良等の理由で途中退室する場合は, 追加試験の対象とはなりません。

f その他

- (a) 試験時間割発表時に指示する注意事項, 持ち込み等は, その都度更新されますので注意してください。
- (b) 答案用紙の担当者および科目名ならびに氏名・学籍番号等の記入事項は, すべて略さず正確に記入してください。記入がない場合は成績はつきません。

②定期試験時間割重複の取扱いについて

時間割が重複した場合, 三田学生部文学部担当で手続が必要です。

三田と他地区の試験が重複した場合は, 相手地区の定期試験を受け, 三田設置科目の追試を受けてください。

- (a) 時間割確認後すぐに三田学生部文学部担当へ申し出てください。
- (b) 追試申し込み期限に遅れると受験できません。
- (c) 受験料は不要です。

(2) 授業内試験

随時授業時間内に行われます。

(3) 追加試験

追加試験は、履修申告した授業科目の定期試験を、病気や不慮の事故等、やむを得ない理由で受けることができなかった者に対して行われる試験です。追加試験の申請には、三田学生部文学部担当で所定の手続きが必要です。手続期限ならびに手続方法は試験時間割発表の際に、以下の塾生サイト（文学部ページ）に掲載します。

塾生サイト 追加試験の申し込み（文学部ページ）

<https://www.students.keio.ac.jp/mt/flet/class/exam/>



①対象科目

定期試験期間内に行われる試験科目のみ

※以下の科目は、追加試験対象外です。

語学科目／演習科目／原典講読／洋書講読／体育実技／その他定期試験期間中に定期試験を行わず、授業内試験・レポート・平常点等により評価の定まる科目／研究会

②受験理由、必要書類および受験料：

以下の表 1.～5. 以外の理由によって追加試験の受験を希望する場合や下記の必要書類を発行機関のやむを得ない理由により提出できない場合は、学習指導との面接による受験許可が必要です。

1. 時間割の重複によるもの 三田と他地区の定期試験の時間重複*	受験料不要
2. バス以外の公共交通機関の遅延によるもの 交通機関が発行する試験当日付の「遅延証明書」	受験料不要
3. 病気・怪我の場合 試験当日の日付を含む医師による「診断書」	受験料：1科目 2000円
4. 事故を理由とする場合 試験当日付の「事故証明」	受験料：1科目 2000円
5. 二親等以内の者の葬儀を理由とする場合 試験当日の日付を含む「会葬礼状」など事実を客観的に証明する書類	受験料：1科目 2000円

*三田と他地区の試験が重複した場合は、相手地区の定期試験を受け、三田設置科目の追試を受けてください。

③注意事項

- ・他学部設置の授業科目を履修した場合、追加試験の実施の有無を含めて取扱いは当該学部の方針によります。他学部・研究所が設置主体である併設科目についてもこれに準じます。
- ・他キャンパスにおいて履修した授業科目の追加試験の申請は、所定の手続を所属学部で行う必要があります。なお、試験場は原則として当該他キャンパスになります。
- ・受験料は、学生部の証紙販売機で証紙を購入し、追加試験申込用紙の「証紙添付欄」に添付する方法で支払ってください。
- ・追加試験の対象科目であっても、申請時点で書類不備の場合や、それによって申請期限に遅れた場合、その他学習指導の許可を得られない場合等は、いかなる事情があっても受験は認められません。
- ・定期試験期間中、当該科目の試験時間に試験教室に立ち入っていた場合は、追加試験の受験資格がありません。

(4) 再試験

文学部学生に対してはその履修する科目がいずれの学部の設置科目であっても再試験は行いません。

2 レポート

レポートを提出する場合は以下を厳守してください。

- (1) 指定された期間に指定された方法で提出してください。
- (2) オンラインでレポートを提出する場合、提出期限直前は通信トラブルが発生しやすくなります。期限に余裕を持って提出するようにしてください。

3 不正行為

定期試験、授業内試験、レポート、授業中に行われる小テスト等における不正行為は、学生の本人にもとるきわめて悪質な違反であり、学則第188条および文学部内規により厳しく処分されます。当該科目が不合格になるだけでなく、その学期に履修し、合格した他の全科目についても評価を1ランク下げる措置がとられます。場合によっては氏名が公表され、停学・退学の処分を受けることもあります。

定期試験、授業内試験（小テスト）で不正行為とみなされる行為には以下のようなものがあります。

- ・カンニング
 - ・代筆
 - ・答案用紙持ち帰り
 - ・試験監督者の指示に意図的に従わない行為
 - ・スマートフォン、時計型端末の持ち込み
- また、試験に臨む時は、不正行為と誤認されるような紛らわしい態度を取らないようにしなければなりません。

レポートにおいては、担当教員による特別な指示（グループワークや共同研究）がある場合を除き、成績評価の対象となるレポートを他の人と協力して作成することは不正行為とみなされます。具体的には以下の行為が含

まれます。

- ・他の人と協力してレポートを作成すること
- ・部分的であれ、他の人のレポートを写すこと、また逆に他の人にレポートを見せること
- ・他の人のレポートファイルをもとに文言を修正して自らのレポートを作成すること
- ・他の人にレポートを作成（または代筆）してもらうこと
- ・他の人のレポートを作成（または代筆）すること
- ・部分的であれ、他の人の過去のレポートを写すこと、また逆に他の人へ過去のレポートを提供すること

なお、レポート等で不正行為とみなされる行為には上記の他にも以下のようなものがあります。

- ・盗用（または剽窃）：活字媒体や Web サイト等に掲載された他人の文章や資料、自分*が別の機会に作成した文章や資料等を出典を示さずにそのまま使うこと
 - *自分が過去に書いた文章や公表した研究成果を、出典等を示さずに使うことを自己盗用と言います。自分の過去のレポートやゼミでの公表物を、引用、出典を示さずに他の授業のレポートに用いたり、そのまま提出すると不正行為とみなされます。もちろん、同じ内容のレポートを同時に複数の授業の課題として提出することも不正行為です。
- ・改ざん：主張の根拠となる資料やデータを故意に書き換えて使用すること
- ・ねつ造：実際には存在しない資料やデータをあたかも存在するように偽って使用すること
- ・その他これらに類する行為

レポートや論文における剽窃・盗用は不正行為です。他人の意見・文章を断りなく用いた場合は、自分では意図していなくても盗用、剽窃とみなされ、定期試験、授業内試験での不正行為と同等あるいはより深刻な不正行為として、処分の対象となります。

ChatGPT 等生成 AI の使用について

各授業科目において、学部・研究科や担当教員が生成 AI の利用を奨励もしくは許可する場合には、当該教員等が示す方針のもとで適正に活用してください。ただし、生成 AI を利用してレポート等を作成した場合には、その旨を明記することが必要です。

なお、生成 AI の利用は他者の力を借りることと同じ意味を持ちます。各授業科目における課題や試験等に関して、独力で取り組むことが求められている場合には、生成 AI を利用することは認められません。

レポート・論文の執筆上の注意

レポートや論文（卒業論文を含む）の執筆・提出は、定期試験や授業内試験と並んで大学での学修成果としての到達度を証する重要なものです。

自分の文章で自分の考えを述べるのが必須であり、ウェブサイトや文献、他者のレポートから抜粋、丸写ししたものを提出することは許されません。担当教員から他の学生と共同で作成するよう指示がある場合を除き、執筆は一人で行ってください。また、文献等から得た情報をレポートや論文に載せる場合には、自分の考えと明確に区別するために、出典を明示することが必要です。出典が明示されていない不適切なレポートや論文は剽窃や盗用と判断され、不正行為として処分の対象となります。

以下に重要なポイントを挙げておきます。

1. 自分の意見や考えとそれ以外の部分を明確に分ける。
2. 他人の文章や見解などを参照・引用する場合は必ず出典（文献名と著者およびページ、ウェブサイトの場合には URL とページタイトル、およびその取得日）を明らかにする。
3. 自分が過去に書いた文章や研究成果を参照・引用する場合も、2. と同様に出版を明らかにする。
4. 文言を引用するときは、誤字も含めて一字一句正確に引用する。
5. 参照・引用せずとも参考にした文献やウェブサイトがある場合には、2. と同様に必ず参考資料として（文献名、著者、ページ、ウェブサイトの場合には URL とページタイトル、およびその取得日）を記載する。
6. 出典の示し方はルールに従う（下記の文献も参照のこと）。

出典の示し方の一般的な方法については、以下の参考書やチュートリアルなどで学んでください。

佐藤望、湯川武、横山千晶、近藤明彦著『アカデミック・スキルズ（第3版）——大学生のための知的技法入門』（慶應義塾大学出版会、2020年）

河野哲也著『レポート・論文の書き方入門（第4版）』（慶應義塾大学出版会、2018年）

情報リテラシーのためのウェブチュートリアルシステム『KITIE』（慶應義塾大学日吉メディアセンター、2022年）

<https://www2.lib.keio.ac.jp/project/kitie/>

4 試験における不正行為の取扱いに関する文学部内規

【第1条（不正行為の報告）】

本学部学生に関する試験において、不正行為があったときは、監督者は学生部学事担当に報告し、学生部学事担当は学習指導主任にこれを報告しなければならない。学習指導主任は、直ちに学部長に報告しなければならない。

【第2条（処分案作成）】

前条の報告をうけた学部長は、速やかに執行部会を召集し、不正行為の処分案を作成する。処分案作成に際しては当該学生の事情聴取を原則とする。また、必要に応じて、関係者の出席を求めその意見を徴することができる。

【第3条（処分の決定）】

執行部会は処分案を運営委員会に提出し、運営委員会は学則第188条により、その処分の決定を行う。

【第4条（処分通知および報告）】

運営委員会が処分を決定したときは、学部長は、直ちに該当学生およびその保証人に処分の内容を通知しなければならない。

5 卒業試験

- (1) 文学部4年生で卒業論文を提出する者は、春学期の履修申告期間内に、研究会とは別に「卒業試験」(通年科目)を履修申告する必要があります。所属専攻の専攻内規 (p. 50～)を確認のうえ、各自間違いの無いように登録してください。
登録番号は、以下の塾生サイトより「文学部卒業試験時間割」を確認してください。
<https://www.students.keio.ac.jp/mt/class/registration/>
「2. 学部・研究科別」→「文学部」→「文学部卒業試験時間割」
- (2) 春学期に休学・留学をしている者が秋学期より復学する場合の「卒業試験」科目の履修申告方法については、別途 Web 等より案内します。
- (3) 卒業論文は、卒業を左右する重要な試験ですので、提出日・提出方法を厳守してください。この手続を怠った場合は、卒業に支障が生じることとなりますので、十分に注意してください。
- (4) 卒業試験は原則として卒業論文によって行われますが、社会学、人間科学の各専攻はそれ以外の方法によって卒業試験とすることができます。方法は専攻により異なりますので所属専攻の内規を確認し把握しておいてください。

6 卒業論文提出要領

(1) 一般的な注意事項

学生部では、学生が「卒業試験（卒業論文）」の履修申告を行った研究会の卒業論文のみの提出を受け付けます。それ以外の研究会の卒業論文を提出したい場合は、研究会担当教員の指示に従ってください。

(2) 提出方法

詳細は提出時期の前に塾生サイト「卒業論文提出要領」からお知らせします。必ず最新情報を確認してください。確認を怠ったことに伴う不利益は自己責任となります。

<https://www.students.keio.ac.jp/mt/flet/procedure/thesis/apply.html>



(3) 提出期限

①図書館・情報学専攻

2024年12月10日(火)10:00～2024年12月23日(月)15:00

②図書館・情報学専攻以外

2024年12月10日(火)10:00～2025年1月14日(火)13:00

第7 学生生活

1 窓口案内

- (1) 学生生活支援
課外活動, 課外教養等に関することを取り扱っています。
- (2) 福利厚生支援
奨学金やその他の経済支援制度, 学生健康保険互助組合等に関することを取り扱っています。
- (3) 就職・進路支援
就職・進路相談, OB・OG 情報, 就職ガイダンス, 求人情報等に関することを取り扱っています。
- (4) 学生相談室
学生生活を送っていく中で出会う様々な問題について, カウンセラーとともに話し合っていきます。

2 学生生活支援

以下については, 学生部学生生活支援担当窓口 (以下この章では「窓口」という) において必要な手続を行ってください。なお, 以下の運用については変更する可能性があります。最新の運用については塾生サイト「学生生活」にて確認してください。

<https://www.students.keio.ac.jp/com/life/extracurricular/club.html>



(1) 音楽練習室・音楽練習のための西校舎教室の使用申請

対 象 …… 音楽練習が必要な公認学生団体

使用可能時間 …… ・音楽練習室
月～土曜日 8:30～20:00
・西校舎教室
月～金曜日 18:10～20:00
土曜日 13:00～18:00

※日曜・祝日・義塾が定めた休日, 定期試験期間中・休業期間中は原則不可。

手 続 …… 施設予約システムにて申請 (学生生活支援担当で発行する団体ごとの予約キーが必要)

申 込 期 日 …… 西校舎教室: 使用希望日の2週間前から事務室開室日換算の2日前まで

音楽練習室: 使用希望日の2週間前から当日まで可。

(2) その他の教室使用申請

音楽練習以外の教室の申請は「第5 授業・成績」の項を参照してください (申請必要)。

(3) 学外行事の届出, 団体割引の届出

対 象 …… 公認学生団体・研究会が学外にて行う活動

手 続 …… 学生団体活動支援システムにて申請

申 込 期 日 …… 学生団体活動支援システム「学外行事届の申請手引き」を参照

備 考 …… 受理されると「学生教育研究災害傷害保険 (p. 27 参照)」の対象になり得ます。また, 団体割引に関する証明も受け付けます。

(4) 備品借用の申請

対 象 …… 公認学生団体の備品借用 [例] ステッカー, ワイヤレスマイク, 塾旗, 椅子, 机等

手 続 …… 窓口にて「借用書」を提出

申 込 期 日 …… 借用希望日の4日前まで (土・日・祝日・義塾が定めた休日を除く)

(5) 郵便物の取扱い

対 象 …… 外部から送付される公認学生団体宛 (三田本部) の郵便物

取 扱 い …… 学生部内のメールボックスに区分けしてあります。責任者が定期的に取りに来てくださいます。一定期間経過したものは破棄する場合があります。

備 考 …… 団体名が違う場合や, 個人宛の郵便物は一切取り扱いません。

(6) 未公認学生団体組織届

対 象 …… クラブ, サークル等の新設を希望する組織

手 続 …… 窓口にて申し出て手続方法を確認すること。

(7) 掲示・チラシ配布の申請

対 象 …… 公認学生団体のポスターの掲示やチラシの配布 (学生部学生生活支援担当が許可した物に限る)

手 続 …… 掲示: 窓口にて申し出て「掲示物受付簿」を記入

配布: 窓口にて「届出書」を提出 (チラシの原本を添付のこと)

申 込 期 日 …… 掲示: 随時

配布: 配布希望日の4日前まで (土・日・祝日・義塾が定めた休日を除く)

備 考 …… 掲示は A2 サイズのスペースまで 10 日間掲示可能

(8) 伝言板 (「DENGON」)

- 対 象 …… 塾生間の連絡用 (学生部学生生活支援担当が許可した掲示物に限る)
手 続 …… 窓口に申し出て「掲示物受付簿」を記入。掲示物には必ず所属・氏名・連絡先を明記してください。
備 考 …… A4用紙1枚のみ10日間掲示可能

(9) 車輜入構の申請

塾生の車輜入構は認められていません。やむを得ず公認学生団体の活動に必要な車輜入構がある場合は下欄を参照してください。

- 手 続 …… 窓口に「届出書」を提出
申 込 期 日 …… 入構希望日の4日前まで (土・日・祝日・義塾が定めた休日を除く)

(10) 配布物・閲覧物関係

ボランティア募集や公募関係の案内をファイル等により窓口で公開しています。

3 奨学金

(1) 「奨学金案内」

奨学金を申請するためには、「奨学金案内」が必要です。「奨学金案内」は3月中旬頃より、塾生サイトの奨学金ページに掲載します。

<https://www.students.keio.ac.jp/mt/scholarships/unique/>



(2) 主な奨学金

奨学金に関する情報は塾生サイトの奨学金ページの奨学金公募情報一覧に掲載します。

慶應義塾大学給費奨学金〔給付〕

10月に申請受付を行います。

慶應義塾大学修学支援奨学金〔給付〕

急激な家計状況の変化 (大規模自然災害による被災を含む)、あるいは継続的な困窮のため経済的に修学が困難な者を支援します。年2回申請受付を行います。

慶應義塾創立150年記念奨学金 (海外学習支援)〔給付〕

年3回申請受付を行います。

慶應義塾維持会奨学金〔給付〕

募集は4月に行います。

指定寄付奨学金〔給付〕

主に4月・5月に申請受付を行います。

日本学生支援機構奨学金〔貸与〕

原則、春 (4月上旬) と秋 (10月上旬) に申請受付を行います。第一種 (無利子) と第二種 (有利子) があり、その他に家計急変者を対象とした緊急採用 (第一種) ・応急採用 (第二種) もあります。

民間団体・地方公共団体による奨学金〔給付・貸与〕

募集は主に4・5月に行います。

国による「高等教育の修学支援新制度」〔授業料等減免・給付〕

年2回申請受付を行う予定です。学力・家計基準を満たした者が支援を受けられます。その他に家計急変者を対象とした家計急変採用もあります。

※留学の際に利用できる奨学金、外国人留学生の奨学金については、国際センター Web ページ (<https://www.ic.keio.ac.jp/>) を参照してください。

4 就職・進路

就職・進路支援担当では、会社案内や企業からの求人票、OB・OG訪問のためのコンタクト先等就職活動に関する情報を提供しています。また就職イベント (セミナー)、個別相談、『就活支援サイト』など、就職活動をサポートする様々なサービスもご用意しています。活動する中でわからないこと、困ったこと等があった場合は、就職・進路支援担当の窓口にお気軽にご相談ください。詳細は塾生サイト、以下ページの上部黄色いバー「就職・進路」から各項目がご覧いただけます。

<https://www.students.keio.ac.jp/com/career/service/>



5 学生相談室

学生相談室では、学生生活を送っていく中で出会うさまざまな問題について、カウンセラーとともに話し合っていきます。困ったときは気軽にご相談ください。原則として予約制ですが (電話予約可)、可能な限りその場で応じます。友人や家族と一緒にのご相談も可能です。必要に応じて他の窓口への紹介も行います。相談内容については、秘密を守ります。また学生相談室では、カウンセリングだけでなく、より豊かで充実したキャンパスライフを送れるよう、様々な企画を用意しています。開催に関しては、Web等でお知らせします。

問い合わせ先: 03-5427-1575

<https://www.students.keio.ac.jp/com/life/consult/counseling-room.html>



6 学生健康保険互助組合

学生健康保険互助組合では、医療給付や契約旅館に対する宿泊費補助等を行っています。また、日吉塾生会館内にトレーニングルームを設置しています。その他にも、『健保の手引き』で様々な案内をしていますので、詳細を確認してください。最新の『健保の手引き』は学生部福利厚生支援担当で配布しています。以下の Web ページでも最新の『健保の手引き』が入手できます。

<https://www.students.keio.ac.jp/com/life/health/>

※医療給付は、健康保険の保険証を提示して医療機関にかかった場合、窓口で支払った自己負担額の一部について、組合から医療費給付を受けられる制度です。詳細については、『健保の手引き』を参照してください。



7 学生教育研究災害傷害保険

教育研究活動中の不慮の災害事故補償のために、大学で保険料の全額を負担し、日本国際教育支援協会の「学生教育研究災害傷害保険」（略称「学研災」）に加入しています。

学生教育研究災害傷害保険 (<https://www.students.keio.ac.jp/com/life/health/insurance.html>)

この保険の適用を受ける「教育研究活動中」とは次の場合をいいます。



(1) 正課中

講義、実験・実習、演習または実技による授業（総称して以下「授業」といいます）を受けている間をいい、次に掲げる間を含みます。

- ①指導教員の指示に基づき、卒業論文研究または学位論文研究に従事している間。ただし、もっぱら被保険者の私生活にかかわる場所において、これらに従事している間を除きます。
- ②指導教員の指示に基づき、授業の準備もしくは後片付けを行っている間、または授業を行う場所、大学の図書館・資料室もしくは語学学習施設において研究活動を行っている間。
- ③大学設置基準第 28 条及び大学院設置基準第 15 条の規定に基づき、他の大学または短期大学の正課を履修している間。なお、ここにいる「他の大学または短期大学」には、外国の大学または短期大学も含まれます。

(2) 学校行事中

大学の主催する入学式、オリエンテーション、卒業式等の教育活動の一環としての各種学校行事に参加している間。

(3) (1) (2) 以外で学校施設内にいる間

大学が教育活動のために所有、使用または管理している施設内にいる間。ただし、寄宿舎・学生寮にいる間、大学が禁じた時間もしくは場所にいる間、大学が禁じた行為を行っている間を除きます。

(4) 通学中または学校施設等相互間の移動中

被保険者の住居と学校施設等との間の通学、学校施設等相互間の移動中に発生した事故によって身体に傷害を被った場合に保険金が支払われます。

(5) 学校施設外で大学に届け出た課外活動を行っている間

大学の規則に則った所定の手続により、大学の認めた学内学生団体の管理下で行う文化活動または体育活動を行っている間。ただし山岳登はんやハングライダー等の危険なスポーツを行っている間を除きます。

保険金は本人（被保険者）の申請に基づき支払われますので、上記活動中に万一事故にあった場合は、学生生活支援担当窓口で相談のうえ、本人が所定の手続を行ってください。また、本保険の適用が円滑に行われるよう、公認学生団体および研究会が学外で活動する場合は、事前に「学外行事届」を提出してください。

その他この保険に関する詳細については、入学時に配布した「学研災加入者のしおり」や「学研災のごあんない」で確認していただくか、直接学生生活支援担当窓口で尋ねてください。

8 任意加入の補償制度

任意加入の補償制度としては、以下の 2 種類があります。資料請求や加入希望の場合は直接連絡をしてください。

(1) 「塾生総合補償制度」

(株)慶應学術事業会（慶應義塾関連会社） TEL 03-3453-6098

(2) 「学生総合共済」・「学生賠償責任保険」

慶應生活協同組合 TEL 045-563-8489

9 障害学生支援（合理的配慮）

慶應義塾大学は障害のある学生が、他の学生と同様・同等な教育を受けることができるように必要な修学機会の確保に向けた、支援内容や方法の提供に努めます。支援の対象となるのは、慶應義塾大学の学部・研究科に所属する学生となります。また、支援の内容は、当該学生の障害の内容によって異なりますが、本人からの申し出を起点とし、必要となる支援の内容と大学が提供できる支援の内容を、建設的な話し合いの場において都度すり合わせを行い、支援の内容（合理的配慮の提供）を決定します。申し出から配慮内容決定までには1ヶ月程度の期間を要します。また、合理的配慮の継続を希望する場合は、学期ごとの申請が必要になります。

詳細は協生環境推進室 Web ページを参照してください。

<https://www.diversity.keio.ac.jp/bf/index.html>



※合理的配慮とは：「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」（2013年）の第七条において、「障害者から現に社会的障壁の除去を必要としている旨の意思の表明があった場合において、その実施に伴う負担が過重でないときは、障害者の権利利益を侵害することとならないよう、当該障害者の性別、年齢及び障害の状態に応じて、社会的障壁の除去の実施について必要かつ合理的な配慮をしなければならない」と規定されていることに鑑み、必要な対応を行うことを「合理的配慮の提供」と定義しています。

10 健康管理

(1) 保健管理センター（慶應義塾三田診療所）

健康管理、診療、保健教育、健康情報提供、環境衛生などの業務を行っています。塾生は内科診療（有料）や怪我等の応急処置、健康相談、などで利用できます。また、予約制ですが、精神科診療（有料）も受けられます。体調が悪いときは、各キャンパスの診療所を利用してください（外部医療機関に直行されても構いません）。詳細は保健管理センターの Web サイトを参照してください。

<https://www.hcc.keio.ac.jp/ja/index.html>



(2) 健康相談

有意義な学生生活を送るためには、心身ともに健康でなくてはなりません。また将来のためにも学生である今からより良い生活習慣を身につけておく必要があります。

保健管理センターでは健康相談として、医師や保健師から健康に関するアドバイスを受けることができます。通常は無料ですので、気軽に相談してください、詳細は保健管理センター窓口で確認してください。

(3) 保健管理センターでの応急処置としての市販薬の使用

保健管理センターでは、学生本人の希望があれば、応急処置として、市販薬を使用することがあります。その場合、大学の保健管理センターでは、利用される方が未成年であっても、通常、保護者の同意の確認は行っていません。

薬剤アレルギーや薬剤に対する皮膚過敏症がある方、その他の理由で特定の薬剤の使用を希望されない方は、保健管理センター利用時に必ず自己申告してください。

頭痛、生理痛、喘息、食物アレルギー、その他治療中の疾患など持病をお持ちの方は、各人で常備薬、発作時に使用する薬を常に持参されることをお勧めします。

(4) 定期健康診断

年1回、就学上の配慮の必要性を検討するために定期健康診断を行います。定期健康診断は学校保健安全法および慶應義塾大学学則での受診が義務づけられていますので必ず受診してください。なお、健康診断結果は個別に郵送はしていません。ご自身で Web サイトにアクセスして確認してください（トップ画面の「Apps」から「サービス」を選択、その中の「健診結果のお知らせ」を開く）。

健康診断を受診しないと「健康診断証明書」が発行されません。健康診断の日程、会場は keio.jp のニュースを参照してください。指定された期間以外の健康診断は実施していません。ただし、健康診断期間中に休学中、留学中だった場合や、学校感染症罹患で登校禁止期間であった場合、傷病により通学不可能であった場合は別途ご相談ください。

(5) 感染症の予防措置

本キャンパスでは、麻疹（はしか）、風しん（三日ばしか）、流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）、水痘（みずぼうそう）、百日咳、インフルエンザ、新型コロナウイルス感染症などの感染症の罹患が報告されています。

これらの学校感染症にかかった場合は、学校保健安全法により出席停止となります。罹患した場合は、ただちに Web サイト（<https://www.hcc.keio.ac.jp/ja/infection/report.html>）にアクセスし、保健管理センターへ罹患報告をしてください。また、登校する際には、必ず「感染症登校許可証明書」に必要事項を主治医に記載してもらい、登校再開日に保健管理センターへ提出してください。罹患した感染症によっては医師面接が必要になることもあります。



第8 進級・卒業

文学部における各学年への進級条件、および卒業要件は以下のとおりです。この履修案内を熟読しながら、進級や卒業に向けた準備を入念に行い、履修科目や取得単位について間違いのないように各自で管理してください（**大学（学生部）で学生本人に代わって進級や卒業の単位数チェックは行いません**）。なお、第2学年編入学者ならびに学士入学者の各種要件については、該当者に個別に案内します。

1 学則

学則とは、学校が制定する諸規程のうち学務に関する事項、入学・退学・卒業、学生の身分に関する取扱い、入学試験、学位、そして教育課程に関する事項について規定したものをいいます。

今年度の文学部には、全学年において2011年度に制定された【11学則】が適用されます。

2 進級条件

【学則第40条～43条抜粋】

- ① 第1学年において、総合教育科目と必修語学科目を合計26単位（英語を選択しない場合は計28単位）以上修得した者は、第2学年に進級する。ただし、必修語学科目として英語を選択する者は、第1学年次に設置された英語4単位のうち2単位以上を修得するとともに、中国語・韓国語・ドイツ語・フランス語・スペイン語・イタリア語・ロシア語の中から、第1学年次に設置された6単位のうち4単位以上を修得しなければならない。必修語学科目として英語を選択しない者は、中国語・韓国語・ドイツ語・フランス語・スペイン語・イタリア語・ロシア語の中から、2語種を選択し、各々の語種において第1学年次に設置された6単位のうち4単位以上を修得しなければならない。（p.32「3 必修語学科目」参照）
- ② 第2学年末までに次の各号に定める科目の単位を修得した者は、第3学年に進級する。（p.50～、各専攻別内規参照）
 - (1) 14単位語学専攻では、第1学年で修得した必修語学科目2語種、計10単位（英語を選択しない場合は12単位）に加えて、第2学年で各専攻が指定する語種4単位の計14単位（英語を選択しない場合は計16単位）
 - (2) 18単位語学専攻においては、必修語学科目として英語8単位、中国語・韓国語・ドイツ語・フランス語・スペイン語・イタリア語・ロシア語10単位の中から、いずれか2語種、計18単位（英語を選択しない場合は計20単位）
 - (3) 専門教育科目のうち、第35条に定める進級条件科目
- ③ 第3学年に進級条件科目を定めている専攻においては、その単位数を修得した者が第4学年に進級する。（p.50～、各専攻別内規参照）

3 卒業要件

【学則第44条抜粋】

卒業の要件は、4か年以上在学して、下表に定める科目の単位を合計128単位以上修得し、卒業試験に合格することとする。

科 目	単 位 数	
総合教育科目	38 単位以上	人文科学系列 社会科学系列 自然科学系列 系列外科目 各系列最低 8 単位以上
必修語学科目 (p.32 参照)	国文学、中国文学、独文学、仏文学専攻	14 単位 英語を選択しない場合 16 単位
	上記4専攻以外のすべての専攻	18 単位 英語を選択しない場合 20 単位
専門教育科目 ※	国文学、中国文学、独文学、仏文学専攻	76 単位以上
	上記4専攻以外のすべての専攻	72 単位以上
合 計	128 単位以上 英語を選択しない場合 130 単位以上	

※専門教育科目については、上記単位数のみから、卒業要件を満たしているとは判断できません。必ず p.50～各専攻別内規に従ってください。

4 在学期間延長制度

第4学年在籍者で今年度卒業単位を満ち、卒業試験に合格した上で、更に次年度の在学を希望する者は、在学期間延長の申請をすることができます。ただし、学則第156条に抵触する場合には申請することはできません。

【延長期間】

次年度春学期末（2025年9月21日）まで
再延長の場合、次年度秋学期末（2026年3月31日）まで

【申請締切】

2025年2月7日（金）16:45
※再延長の申請締切は別途塾生サイトでお知らせします。

【申請方法】

塾生サイトを確認してください。
<https://www.students.keio.ac.jp/mt/flet/procedure/status/form2.html>



【決定後の通知】

在学期間延長可否の通知は保証人宛に送付します。

【在学が許可された学期の注意事項】

- ・在学中は義塾諸規則を守ってください。
- ・在学期間を延長した学生の学年は第4学年となります。
- ・在学期間を延長した学生は、第4学年在学者として授業料等の必要諸経費を納入しなければなりません（減免制度はありません）。なお、9月卒業を予定している者は、当該年度の春学期分のみ学費を納入してください。
- ・在学を許可された学期の途中で籍を離れる場合は退学となります。事情の如何にかかわらず、日付を遡って卒業することはできません。
- ・在学を許可された学期では、文学部の総合教育科目または専門教育科目を1科目以上履修しなければなりません。
- ・在学期間を延長した学期に休学することはできません。
- ・在学期間を延長した学期に留学することができます。その場合、在学を許可された学期に、本学の科目を履修する必要はありません。また、在学期間を延長した学期中に帰国・就学し、当該学期末に卒業することも可能です。
- ・在学期間の再延長は学則第156条に抵触しない範囲において申請することができます。
- ・再延長をしない学生は、9月卒業の申請をしてください。

5 9月卒業

卒業要件（卒業所要単位取得、卒業試験に合格、4年生に2学期以上在学）を満たしていれば9月に卒業することができます。希望者は申請書類を下記の締切までに提出してください。申請が無い場合は、通常通り3月卒業となります。なお4年生在学1年目の9月（4年生に1学期在学時点）に卒業することはできません。

【卒業時期】

2024年9月

【申請締切】

2024年7月19日（金）16:45

【申請方法】

塾生サイトを確認してください。
<https://www.students.keio.ac.jp/mt/flet/procedure/status/form2.html>



【決定後の通知】

春学期のWeb成績表の判定欄から確認してください。成績表の公開日は「第1 学事関連スケジュール（三田）」を参照のこと。

【注意事項】

- ・当該の春学期に卒業に必要な単位を取得できなかった場合は、9月に卒業することはできません。
- ・休学・留学等で春学期に在学していない場合は、9月卒業の申請をすることはできません。ただし、在学期間を延長した春学期に留学している場合、春学期中に帰国・就学をすれば、9月卒業を申請することができます。
- ・卒業論文・卒業試験は春学期に修得することはできないため、前年度秋学期までに修得する必要があります。
- ・9月卒業を予定している者は、当該年度の学費納入時に分納（春学期分）を選択してください。

1 単位

大学では、各科目の授業種別に応じて単位数が定められています。単位とは学修に要する時間を表す基準であり、授業科目の1単位は、大学における講義時間と合わせて45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。

(1) 講義科目

週1回半期の授業で2単位、週1回通年の授業で4単位、週2回半期の集中講義で4単位となります。

(2) 語学科目・演習科目

週1回半期の授業で1単位、週1回通年の授業で2単位となります。

(3) 自然科学の実験科目

講義と実験がセットになった授業を週1回半期履修すると3単位、週1回通年履修すると6単位となります。

2 科目の種類

【半期科目】

春学期か秋学期に週1コマ独立して開講される科目。半期ごとに履修可能。半期ごとに成績がつきます。

【セット科目】（時間割では、科目名の後に（セ）と表記されます）

春学期・秋学期を通して開講される科目。半期のみの履修は不可。春学期・秋学期ともに年度末に成績がつきます。なお、セット科目の成績評語は、春学期・秋学期ともに合格〔S・A・B・C〕か、または両方不合格〔D〕のいずれかです（春が合格で秋が不合格となる成績の組合せはありません）。

【通年科目】

1年間連続して週1コマ開講される科目。年度末に成績がつきます。

【要件科目】（時間割では、科目名の後に（要）と表記されます）

春学期科目（Ⅰ）を修得しなければ、秋学期科目（Ⅱ）の履修が認められない科目（前年度以前に春学期科目（Ⅰ）を修得済みであれば、今年度秋学期科目（Ⅱ）のみの履修は認められます）。半期ごとに成績がつきます。
春学期科目（Ⅰ）が不合格〔D〕だった場合、秋学期科目（Ⅱ）の履修はできません。

【半期集中科目】

半期に週2コマ開講される科目。半期ごとに成績がつきます。

【学期前半／後半に開講される科目】（時間割では、科目名の後に（学期前半）または（学期後半）と表記されます）

2014年度から4学期制と2学期制を併用した学事日程が全塾的に導入されました。春学期と秋学期のそれぞれ前半・後半に科目を開講することにより、短期間に集中して学習に取り組むことができます。同じ曜日に2時限連続で開講する科目と、週に2回、異なる曜日に1時限ずつ開講する科目があります。履修申告は従来どおりの運用で行いますが、学期前半に開講される科目の定期試験は「学期前半試験日」に行われます。p.4～7（学事関連スケジュール）で確認してください。

3 必修語学科目

必修語学科目は、進級および卒業にあたって必ず履修しなければならない科目です。

- (1) 指定された必修語学を履修し、合格することが3年生への進級条件です。
- (2) クラス指定のある科目は、時間割どおりに履修してください。
- (3) 2年生で語種を変更することはできません。ただし、1語種専攻で語種の指定がある専攻や、東洋史学専攻の学生は下記を参照してください。
- (4) 原則として、文学部2年生以外は三田設置の必修語学科目を履修することはできません。

〈必修語学の3年生への進級条件（2024年度2年生に適用）〉

第1学年次 設置科目	語種 (*1)	英語とそれ以外の1語種を履修する場合	英語以外の2語種を履修する場合	
		英語	4単位	—
	ドイツ語・フランス語・中国語・ 韓国語・ロシア語・スペイン語・ イタリア語・日本語（留学生）	左記の語種のうち、1語種6単位	左記の語種のうち、2語種各6単位（12）	
	小計	10単位	12単位	
第2学年次 設置科目 (専攻により異なる)	1語種 専攻	国文学	1年次に履修した2語種のうち、いずれか1語種4単位	1年次に履修した2語種のうち、いずれか1語種4単位
		中国文学(*2)(*3)	中国語 4単位	中国語 4単位
		独文学(*2)	ドイツ語 4単位	ドイツ語 4単位
		仏文学(*2)	フランス語 4単位	フランス語 4単位
		小計	4単位	4単位
	1語種専攻 1年・2年合計	14単位	16単位	
	2語種 専攻	哲学系・史学系各専攻、英米文学専攻、図書館・情報学専攻、人間関係学系各専攻	1年次に履修した語種と同一の2語種(*4)各4単位(8)	1年次に履修した語種と同一の2語種(*4)各4単位(8)
小計		8単位	8単位	
2語種専攻 1年・2年合計		18単位	20単位	

- (*1) 1年次設置の必修語学科目のうち未修得単位は、2年次終了までに必ず修得しなければなりません。
- (*2) 所属専攻の関連語学（中国語、ドイツ語、フランス語）を1年次に履修しなかった学生は、授業開始に先立って、必ず専攻担任に相談してください。
- (*3) 中国語を母語とする留学生は、原則として日本語を履修してください。詳細は中国文学専攻の専攻内規で確認してください。
- (*4) 東洋史学専攻の学生は、1年生で履修した2語種のうち、1語種をアラビア語、ペルシア語、トルコ語のうちいずれか一つに振り替えることができます。詳細は東洋史学専攻の専攻別内規で確認してください。
- (注) 2年生の必修語学科目履修については、p. 44~の「3 2年生での必修語学の履修方法」を必ず確認してください。

【1年次必修語学科目履修単位不足者】

- (1) 原則として、文学部2年生は日吉設置の必修語学科目を履修できません。ただし、1年次に日本語の単位を取得できなかった場合は、2年次に日吉設置の日本語を再度履修してください。
- (2) 日本語以外の各語種については、以下の要領で三田設置の科目を履修してください。
英語：別途案内する「必修語学科目 履修要領（英語）」を熟読のうえ、所定の期間内にWebエントリーを行ってください。
他語種：単位が不足している語種のⅠ・Ⅱ(D)（ドイツ語Ⅰ・Ⅱ(D)、フランス語Ⅰ・Ⅱ(D)、中国語Ⅰ・Ⅱ(D)、スペイン語Ⅰ・Ⅱ(D)、イタリア語Ⅰ・Ⅱ(D)、韓国語Ⅰ・Ⅱ(D)、ロシア語Ⅰ・Ⅱ(D)）を履修してください。

4 総合教育科目

卒業までに38単位以上（内訳として、人文科学系列、社会科学系列、自然科学系列それぞれ8単位以上）を取得してください。

- (1) 同一名称科目（同一単位数）が日吉と三田に設置されていますが、講義内容に水準の差は無いため、重複履修することはできません。
- (2) 同一科目名の2単位科目と4単位科目（例えば文学Ⅰ・Ⅱ（各2）と文学（4））は、同一科目とみなされ重複履修できません。（文学Ⅰ（2）と文学（4）、文学Ⅱ（2）と文学（4）を両方履修することはできません。）
- (3) 化学Ⅰ（実験を含む）・化学Ⅱ（実験を含む）、生物学Ⅰ（実験を含む）・生物学Ⅱ（実験を含む）、物理学Ⅰ（実験を含む）・物理学Ⅱ（実験を含む）は、2時限連続180分授業で行われ、半期で3単位が取得できます。Ⅰは春学期、Ⅱは秋学期科目です。
※詳細は、履修案内（日吉キャンパス1年生）を確認してください。
- (4) 文学部設置の人文科学特論Ⅰ・Ⅱ／社会科学特論Ⅰ・Ⅱ／自然科学特論Ⅰ・Ⅱ（総合教育科目各系列）は、文学部の1年生のみ履修できます。

5 必修語学科目および総合教育科目一覧

2024年度 第2・第3・第4学年生に適用

科目種別	分野番号	設置	授業科目名 (単位) 三田設置科目は1年生履修不可 *は言文研設置科目				
必修語学科目	10-10-01	1年	英語Ⅰ初修①	英語Ⅱ初修①			
	10-10-11	1年	英語Ⅰ基礎①	英語Ⅱ基礎①			
	10-10-12	1年	英語Ⅰ中級①	英語Ⅱ中級(1)			
	10-10-13	1年	英語Ⅰ中級発展①	英語Ⅱ中級発展(1)			
	10-10-14	1年	英語Ⅰ上級(1)	英語Ⅱ上級(1)			
	10-10-15	1年	英語Ⅰ最上級(1)	英語Ⅱ最上級(1)			
	10-10-21	2年	英語Ⅲ基礎発展(1)	英語Ⅳ基礎発展(1)			
	10-10-22	2年	英語Ⅲ中級(1)	英語Ⅳ中級(1)			
	10-10-23	2年	英語Ⅲ中級発展(1)	英語Ⅳ中級発展(1)			
	10-10-24	2年	英語Ⅲ上級(1)	英語Ⅳ上級(1)			
	10-10-25	2年	英語Ⅲ最上級(1)	英語Ⅳ最上級(1)			
	10-20-11	1年	ドイツ語Ⅰ(1)	ドイツ語Ⅱ(1)			
	10-20-12	1年	ドイツ語Ⅰ中級(1)	ドイツ語Ⅱ中級(1)			
	10-20-13	1年	ドイツ語Ⅰ上級(1)	ドイツ語Ⅱ上級(1)			
	10-20-21	2年	ドイツ語Ⅲ(1)	ドイツ語Ⅳ(1)			
	10-30-11	1年	フランス語Ⅰ(1)	フランス語Ⅱ(1)			
	10-30-12	1年	フランス語Ⅰ中級(1)	フランス語Ⅱ中級(1)			
	10-30-13	1年	フランス語Ⅰ上級(1)	フランス語Ⅱ上級(1)			
	10-30-21	2年	フランス語ⅢA(1)	フランス語ⅣA(1)	フランス語ⅢB(1)	フランス語ⅣB(1)	
	10-30-23	2年	フランス語Ⅲ上級A(1)	フランス語Ⅳ上級A(1)			
	10-40-11	1年	中国語Ⅰ(1)	中国語Ⅱ(1)			
	10-40-12	1年	中国語Ⅰ中級(1)	中国語Ⅱ中級(1)			
	10-40-13	1年	中国語Ⅰ上級(1)	中国語Ⅱ上級(1)			
	10-40-21	2年	中国語ⅢA(1)	中国語ⅣA(1)	中国語ⅢB(1)	中国語ⅣB(1)	
	10-40-23	2年	中国語Ⅲ上級A(1)	中国語Ⅳ上級A(1)	中国語Ⅲ上級B(1)	中国語Ⅳ上級B(1)	
	10-50-11	1年	スペイン語Ⅰ(1)	スペイン語Ⅱ(1)			
	10-50-21	2年	スペイン語Ⅲ(1)	スペイン語Ⅳ(1)			
	10-60-11	1年	イタリア語Ⅰ(1)	イタリア語Ⅱ(1)			
	10-60-21	2年	イタリア語ⅢA(1)	イタリア語ⅣA(1)	イタリア語ⅢB(1)	イタリア語ⅣB(1)	
	10-70-11	1年	韓国語Ⅰ(1)	韓国語Ⅱ(1)			
	10-70-21	2年	韓国語Ⅲ(1)	韓国語Ⅳ(1)			
	10-80-11	1年	ロシア語Ⅰ(1)	ロシア語Ⅱ(1)			
	10-80-21	2年	ロシア語Ⅲ(1)	ロシア語Ⅳ(1)			
	10-90-11	1年	日本語ⅠA(1) 日本語ⅠC(1)	日本語ⅡA(1) 日本語ⅡC(1)	日本語ⅠB(1)	日本語ⅡB(1)	
	10-90-21	2年	日本語ⅢA(1)	日本語ⅣA(1)	日本語ⅢB(1)	日本語ⅣB(1)	
	10-91-21	2年	アラビア語Ⅰ(1) ペルシア語Ⅰ(1) トルコ語Ⅰ(1)	アラビア語Ⅱ(1) ペルシア語Ⅱ(1) トルコ語Ⅱ(1)	アラビア語Ⅲ(1) *ペルシア語初級Ⅰ(1) トルコ語Ⅲ(1)	アラビア語Ⅳ(1) *ペルシア語初級Ⅱ(1) トルコ語Ⅳ(1)	
	2種類の語学を選択	人文科学系列8単位以上					
		20-10-10	日吉	音楽Ⅰ(2) 芸術文化論(2) 言語学Ⅰ(2) 哲学Ⅰ(2) 文学Ⅰ(2) 倫理学Ⅰ(2)	音楽Ⅱ(2) 芸術文化論Ⅰ(2) 言語学Ⅱ(2) 哲学Ⅱ(2) 文学Ⅱ(2) 倫理学Ⅱ(2)	漢文Ⅰ(2) 芸術文化論Ⅱ(2) 国語国文Ⅰ(2) 美術Ⅰ(2) 文化人類学Ⅰ(2) 歴史Ⅰ(2)	漢文Ⅱ(2) 国語国文Ⅱ(2) 美術Ⅱ(2) 文化人類学Ⅱ(2) 歴史Ⅱ(2) 論理学Ⅰ(2) 論理学Ⅱ(2)
		三田	美術Ⅰ(2)	美術Ⅱ(2)	歴史Ⅰ(2)	歴史Ⅱ(2)	
20-10-20		日吉	人文科学特論Ⅰ(2) 人文科学特論Ⅱ(2)				
社会科学系列8単位以上							
20-20-10		日吉	教育学Ⅰ(2) 経済学Ⅰ(2) 政治学Ⅰ(2) 法学Ⅰ(憲法を含む)(2)	教育学Ⅱ(2) 経済学Ⅱ(2) 政治学Ⅱ(2) 法学Ⅱ(憲法を含む)(2)	近代思想史Ⅰ(2) 社会学Ⅰ(2) 地理学Ⅰ(2) 法学Ⅱ(憲法を含む)(2)	近代思想史Ⅱ(2) 社会学Ⅱ(2) 地理学Ⅱ(2)	
		三田	近代思想史Ⅰ(2) 経済学Ⅰ(2) 法学Ⅰ(憲法を含む)(2)	近代思想史Ⅱ(2) 経済学Ⅱ(2) 法学Ⅱ(憲法を含む)(2)			
20-20-20		日吉	社会科学特論Ⅰ(2) 社会科学特論Ⅱ(2)				
自然科学系列8単位以上							
20-30-10		日吉	宇宙の科学(2) 人類学Ⅰ(2) 地学Ⅰ(2) 化学Ⅰ(実験を含む)(3) 生物学Ⅱ(実験を含む)(3)	自然地理学Ⅰ(2) 人類学Ⅱ(2) 地学Ⅱ(2) 化学Ⅱ(実験を含む)(3) 物理学Ⅰ(実験を含む)(3)	自然地理学Ⅱ(2) 数学Ⅰ(2) 天文学Ⅰ(2) 化学Ⅱ(実験を含む)(3) 物理学Ⅱ(実験を含む)(3)	心理学Ⅰ(2) 心理学Ⅱ(2) 数学Ⅱ(2) 天文学Ⅱ(2) 生物学Ⅰ(実験を含む)(3) 物理学Ⅱ(実験を含む)(3)	
		三田	基礎化学(2) 数学Ⅰ(2) 統計学Ⅰ(2)	人類学Ⅰ(2) 数学Ⅱ(2) 統計学Ⅱ(2)	人類学Ⅱ(2) 生命科学概論(2)		
20-30-20		日吉	自然科学特論Ⅰ(2) 自然科学特論Ⅱ(2)				

総合教育科目 38単位以上	系列外科目	系列外科目				
		20-40-10	日吉	基礎情報処理(2) レポートの書き方(2) 心理学Ⅲ(2) 心理学Ⅳ(2) 科学と環境Ⅰ(2) 科学と環境Ⅱ(2) 書物の世界Ⅰ(2) 書物の世界Ⅱ(2) 総合教育セミナーⅠ(2) 総合教育セミナーⅡ(2) 韓国の社会と文化Ⅰ(2) 韓国の社会と文化Ⅱ(2) 現代ビジネス論Ⅰ(2) 現代ビジネス論Ⅱ(2) アカデミック・リテラシー(2) 人の尊厳(2)		
			三田	基礎情報処理(2) 実践自然科学(2) 映画演劇論Ⅰ(2) 映画演劇論Ⅱ(2) 映画演劇論Ⅲ(2) 映画演劇論Ⅳ(2) 芸術と文明(2) 現代芸術Ⅰ(2) 現代芸術Ⅱ(2) 詩学Ⅰ(2) 詩学Ⅱ(2) 人の尊厳(2) ロシア文学Ⅰ(2) ロシア文学Ⅱ(2) イタリア文化論(2)		
		20-40-20	日吉	イタリア語入門Ⅰ(1) イタリア語入門Ⅱ(1) 英語インテンシブⅠA(1) 英語インテンシブⅡA(1) 英語インテンシブⅠB(1) 英語インテンシブⅡB(1) 古典ギリシア語初級Ⅰ(1) 古典ギリシア語初級Ⅱ(1) 韓国語既習Ⅰ(1) 韓国語既習Ⅱ(1) ドイツ語会話初級Ⅰ(1) ドイツ語会話初級Ⅱ(1) ラテン語初級Ⅰ(1) ラテン語初級Ⅱ(1)		
			三田	アラビア語Ⅰ(1) アラビア語Ⅱ(1) アラビア語Ⅲ(1) アラビア語Ⅳ(1) イタリア語初級ⅠA(1) イタリア語初級ⅡA(1) イタリア語初級ⅠB(1) イタリア語初級ⅡB(1) イタリア語中級ⅠA(1) イタリア語中級ⅡA(1) イタリア語中級ⅠB(1) イタリア語中級ⅡB(1) イタリア語中級ⅠC(1) イタリア語中級ⅡC(1) イタリア語上級ⅠA(1) イタリア語上級ⅡA(1) イタリア語上級ⅠB(1) イタリア語上級ⅡB(1) 英語インテンシブⅢA(1) 英語インテンシブⅣA(1) 英語インテンシブⅢB(1) 英語インテンシブⅣB(1) 英語インテンシブⅢC(1) 英語インテンシブⅣC(1) 英語インテンシブⅢD(1) 英語インテンシブⅣD(1) 古典ギリシア語初級Ⅰ(1) 古典ギリシア語初級Ⅱ(1) 古典ギリシア語中級Ⅰ(1) 古典ギリシア語中級Ⅱ(1) 現代ギリシア語初級Ⅰ(1) 現代ギリシア語初級Ⅱ(1) 現代ギリシア語中級Ⅰ(1) 現代ギリシア語中級Ⅱ(1) スペイン語初級Ⅰ(1) スペイン語初級Ⅱ(1) スペイン語中級Ⅰ(1) スペイン語中級Ⅱ(1) 中国語初級Ⅰ(1) 中国語初級Ⅱ(1) 中国語会話Ⅰ(1) 中国語会話Ⅱ(1) 中国語会話Ⅲ(1) 中国語会話Ⅳ(1) 韓国語既習Ⅰ(1) 韓国語既習Ⅱ(1) 韓国語初級Ⅰ(1) 韓国語初級Ⅱ(1) 韓国語上級Ⅰ(1) 韓国語上級Ⅱ(1) ドイツ語初級Ⅰ(1) ドイツ語初級Ⅱ(1) トルコ語Ⅰ(1) トルコ語Ⅱ(1) トルコ語Ⅲ(1) トルコ語Ⅳ(1) 日本語ⅢA(1) 日本語ⅣA(1) 日本語ⅢB(1) 日本語ⅣB(1) ペルシア語Ⅰ(1) ペルシア語Ⅱ(1) ラテン語初級Ⅰ(1) ラテン語初級Ⅱ(1) ラテン語中級Ⅰ(1) ラテン語中級Ⅱ(1) ロシア語初級Ⅰ(1) ロシア語初級Ⅱ(1) ロシア語中級Ⅰ(1) ロシア語中級Ⅱ(1)		
		20-40-30		教授会の認める各学部の総合教育相当科目		
				教授会の認める次の研究所等付属施設の授業科目または講座		
		20-50-10		体育研究所設置講座(講義) : 体育学講義(2) 体育学講義Ⅰ(2) 体育学講義Ⅱ(2) 体育学演習(1)		
		20-50-11		体育研究所設置講座(実技) : 体育実技A(1) 体育実技B(1)		
		20-50-20		国際センター(日吉設置科目・講座・短期プログラム)		
		20-50-40		教養研究センター設置講座		
		20-50-50以降		その他の研究所等設置講座 (外国語教育研究センター特設科目, 外国語教育研究センターオープン科目(フランス語), 保健管理センター設置科目, 福澤研究センター設置科目, 学生総合センター設置科目)など		
		自由科目	自由科目	自由科目(卒業および進級単位にはなりません)		
				99-99-99	文学部の時間割にない他学部設置の総合教育科目 同一科目を重複して履修する場合(専攻内規で許可されている場合を除く) 外国語教育研究センター オープン科目(フランス語以外) 教職課程センター設置「教育実習Ⅰ」「教育実習Ⅱ」「教育実習基礎」「教職・介護等体験」など グローバルリサーチインスティテュート設置科目 アート・センター設置科目	

(注1) 科目名のあとの()内は単位数を表します。例えば、「音楽Ⅰ(2)」は、総合教育科目の人文科学系列で2単位の科目です。

(注2) 時間割に掲載のない科目は開講していませんので注意してください。

(注3) 分野とは卒業・進級に必要な科目を学則や専攻内規に基づいて分類したもので、下例のように6桁の分野番号(分野コード)で表されます。分野番号の体系は、学則・専攻によって異なります。

《例1》「必修語学科目」の分野番号

《例2》「専門教育科目」の分野番号

10-10-11

① ② ③

①10=必修語学科目

②10=英語

③11=設置地区またはレベル等

30-01-11

① ② ③

①30=専門教育科目

②01=哲学専攻

③11=必修科目

6 総合教育科目（系列外）

- ・人文科学・社会科学・自然科学の3系列に属さない科目です。
- ・上述3系列の科目をそれぞれ8単位以上修得していれば、卒業に必要な総合教育科目38単位の残りすべてを系列外科目で満たすこともできます。
- ・以下の科目も総合教育科目系列外として履修可能です。

(1) **必修科目として履修しない必修語学科目**（学則第34条：分野10-10-01～10-91-21）

履修申告時にB欄40を選択してください（p.51参照）。

※ただし、ドイツ語Ⅰ・Ⅱ(D)・フランス語Ⅰ・Ⅱ(D)・中国語Ⅰ・Ⅱ(D)・スペイン語Ⅰ・Ⅱ(D)・イタリア語Ⅰ・Ⅱ(D)・韓国語Ⅰ・Ⅱ(D)・ロシア語Ⅰ・Ⅱ(D)は系列外科目として履修することはできません。

(2) **教授会の認める各学部設置の総合教育相当科目**

履修にあたっての特別な手続は必要ありません。

①三田キャンパス設置科目

孤独と共生Ⅰ(2) 孤独と共生Ⅱ(2)

②日吉キャンパス設置科目

異文化コミュニケーションⅠ(2単位, 半期)	異文化コミュニケーションⅡ(2単位, 半期)	医療・福祉の行政(2単位, 半期)
映像・音響文化論(2単位, 半期)	科学技術と現代社会(2単位, 半期)	科学と社会(2単位, 半期)
経済人類学Ⅰ(2単位, 半期)	経済人類学Ⅱ(2単位, 半期)	言語学Ⅲ(2単位, 半期)
言語学Ⅳ(2単位, 半期)	言語認識論(2単位, 半期)	現代芸術論(2単位, 半期)
現代思想論(2単位, 半期)	現代社会論(2単位, 半期)	現代生物学概論(2単位, 半期)
現代世界史(2単位, 半期)	現代日本史(2単位, 半期)	現代メディア論(2単位, 半期)
ジェンダー論Ⅰ(2単位, 半期)	ジェンダー論Ⅱ(2単位, 半期)	社会心理学Ⅰ(2単位, 半期)
社会心理学Ⅱ(2単位, 半期)	宗教学(2単位, 半期)	宗教学Ⅰ(2単位, 半期)
宗教学Ⅱ(2単位, 半期)	障害者雇用の現状と将来(2単位, 半期)	女性学(2単位, 半期)
人文総合講座Ⅰ(2単位, 半期)	人文総合講座Ⅱ(2単位, 半期)	世界の政治(2単位, 半期)
地域研究—アフリカ(2単位, 半期)	地域研究—スペイン事情Ⅰ(2単位, 半期)	地域研究—スペイン事情Ⅱ(2単位, 半期)
地域研究—中国事情Ⅰ(2単位, 半期)	地域研究—中国事情Ⅱ(2単位, 半期)	地域研究—中国事情Ⅲ(2単位, 半期)
地域研究—中国事情Ⅳ(2単位, 半期)	地域研究—東南アジア(2単位, 半期)	地域研究—北米事情Ⅰ(2単位, 半期)
地域研究—北米事情Ⅱ(2単位, 半期)	地域研究—ヨーロッパ事情Ⅰ(2単位, 半期)	地域研究—ヨーロッパ事情Ⅱ(2単位, 半期)
地域生態文化論(2単位, 半期)	地域文化論(2単位, 半期)	地域文化論Ⅰ(2単位, 半期)
地域文化論Ⅱ(2単位, 半期)	地域文化論Ⅲ(2単位, 半期)	地域文化論Ⅳ(2単位, 半期)
地球科学概論Ⅰ(2単位, 半期)	地球科学概論Ⅱ(2単位, 半期)	中国語・中国文化海外短期研修(1単位, 特定期間集中)
中国事情(2単位, 半期)	ドイツ事情Ⅰ(2単位, 半期)	ドイツ事情Ⅱ(2単位, 半期)
動物行動学(2単位, 半期)	21世紀の実学(2単位, 半期)	バリアフリー/ユニバーサル・デザイン入門Ⅰ(2単位, 半期)
バリアフリー/ユニバーサル・デザイン入門Ⅱ(2単位, 半期)	比較文化論Ⅰ(2単位, 半期)	比較文化論Ⅱ(2単位, 半期)
東アジア宗教文化概論Ⅰ(2単位, 半期)	東アジア宗教文化概論Ⅱ(2単位, 半期)	東アジア宗教文化概論Ⅲ(2単位, 半期)
東アジア宗教文化概論Ⅳ(2単位, 半期)	表象文化論Ⅰ(2単位, 半期)	表象文化論Ⅱ(2単位, 半期)
フランス事情Ⅰ(2単位, 半期)	フランス事情Ⅱ(2単位, 半期)	民族文化論(2単位, 半期)
ラテンアメリカ研究Ⅰ(2単位, 半期)	ラテンアメリカ研究Ⅱ(2単位, 半期)	料理と科学Ⅰ(2単位, 半期)
料理と科学Ⅱ(2単位, 半期)		

少人数セミナー形式授業（A欄申告）

自由研究セミナー(2)(経)	自由研究セミナーa/b(各2)(経)	自然科学研究会Ⅰ(2)(法)
自然科学研究会Ⅱ(2)(法)	人文科学特論Ⅰ(2)(法)	人文科学特論Ⅱ(2)(法)
自然科学総合講座Ⅰ(2)(法)	自然科学総合講座Ⅱ(2)(法)	総合教育セミナーDa/b(各2)(商)
総合教育セミナーS(2)(商)	総合教育セミナーⅠ(2)(理)	総合教育セミナーⅡ(2)(理)

(3) **教授会の認める研究所等付属施設の授業科目または講座**

履修可能な科目や履修手続の詳細については、p.49を確認してください。

(4) **総合教育セミナーⅠ・Ⅱ（系列外）**

文学部1年生のみ履修できます。

【体育科目】体育研究所設置科目

講義科目と実技科目の2種類があります。

- (1) 体育科目は合計4単位まで卒業単位として履修でき、組み合わせは自由です。例えば「体育実技A」(各1単位)を4科目履修して合計4単位とすることも可能です。5単位以上履修する場合は、自由科目として履修できます。
- (2) 体育実技科目は、例外的に同一担当者、同一名称の科目でも総合教育の系列外科目として最大4単位まで履修することができます。

7 専門教育科目（選択科目としても履修できる科目）

(1) 学則第 35 条に定める文学部設置の専門教育科目

哲学系	哲学倫理学原典講読Ⅰ(2)	哲学倫理学原典講読Ⅱ(2)	哲学概論Ⅰ(2)	哲学概論Ⅱ(2)	西洋哲学倫理学史Ⅰ(2)
	西洋哲学倫理学史Ⅱ(2)	西洋哲学倫理学史Ⅲ(2)	西洋哲学倫理学史Ⅳ(2)	論理学入門Ⅰ(2)	論理学入門Ⅱ(2)
	科学の哲学Ⅰ(2)	科学の哲学Ⅱ(2)	中級論理学Ⅰ(2)	中級論理学Ⅱ(2)	知識の哲学Ⅰ(2)
	知識の哲学Ⅱ(2)	形而上学Ⅰ(2)	形而上学Ⅱ(2)	現代論理学の諸問題Ⅰ(2)	現代論理学の諸問題Ⅱ(2)
	心の哲学Ⅰ(2)	心の哲学Ⅱ(2)	言語の哲学Ⅰ(2)	言語の哲学Ⅱ(2)	現象学Ⅰ(2)
	現象学Ⅱ(2)	宗教の哲学Ⅰ(2)	宗教の哲学Ⅱ(2)	哲学原典研究Ⅰ(2)	哲学原典研究Ⅱ(2)
	哲学原典研究Ⅲ(2)	哲学原典研究Ⅳ(2)	哲学原典研究Ⅴ(2)	哲学原典研究Ⅵ(2)	哲学原典研究Ⅶ(2)
	哲学原典研究Ⅷ(2)	哲学倫理学特殊ⅠA(2)	哲学倫理学特殊ⅡA(2)	哲学倫理学特殊ⅠB(2)	哲学倫理学特殊ⅡB(2)
	哲学倫理学特殊ⅠC(2)	哲学倫理学特殊ⅡC(2)	哲学倫理学特殊ⅠD(2)	哲学倫理学特殊ⅡD(2)	哲学倫理学特殊ⅠE(2)
	哲学倫理学特殊ⅡE(2)	哲学倫理学特殊ⅠF(2)	哲学倫理学特殊ⅡF(2)	哲学倫理学特殊ⅠG(2)	哲学倫理学特殊ⅡG(2)
	哲学倫理学特殊ⅠH(2)	哲学倫理学特殊ⅡH(2)	哲学倫理学特殊ⅠI(2)	哲学倫理学特殊ⅡI(2)	哲学倫理学特殊ⅠJ(2)
	哲学倫理学特殊ⅡJ(2)	哲学倫理学特殊ⅠK(2)	哲学倫理学特殊ⅡK(2)	哲学倫理学特殊ⅠL(2)	哲学倫理学特殊ⅡL(2)
哲学倫理学特殊ⅠM(2)	哲学倫理学特殊ⅡM(2)	哲学倫理学特殊ⅠN(2)	哲学倫理学特殊ⅡN(2)	哲学研究会Ⅰ(1)	
哲学研究会Ⅱ(1)	哲学研究会Ⅲ(1)	哲学研究会Ⅳ(1)	印度哲学Ⅰ(2)	印度哲学Ⅱ(2)	
倫理学概論Ⅰ(2)	倫理学概論Ⅱ(2)	哲学倫理学原典講読Ⅰ(2)	哲学倫理学原典講読Ⅱ(2)	西洋哲学倫理学史Ⅰ(2)	
西洋哲学倫理学史Ⅱ(2)	西洋哲学倫理学史Ⅲ(2)	西洋哲学倫理学史Ⅳ(2)	倫理学の課題Ⅰ(2)	倫理学の課題Ⅱ(2)	
倫理学の課題Ⅲ(2)	倫理学の課題Ⅳ(2)	倫理学洋書講読Ⅰ(2)	倫理学洋書講読Ⅱ(2)	倫理学洋書講読Ⅲ(2)	
倫理学洋書講読Ⅳ(2)	倫理学洋書講読Ⅴ(2)	倫理学洋書講読Ⅵ(2)	哲学概論Ⅰ(2)	哲学概論Ⅱ(2)	
哲学倫理学特殊ⅠA(2)	哲学倫理学特殊ⅡA(2)	哲学倫理学特殊ⅠB(2)	哲学倫理学特殊ⅡB(2)	哲学倫理学特殊ⅠC(2)	
哲学倫理学特殊ⅡC(2)	哲学倫理学特殊ⅠD(2)	哲学倫理学特殊ⅡD(2)	哲学倫理学特殊ⅠE(2)	哲学倫理学特殊ⅡE(2)	
哲学倫理学特殊ⅠF(2)	哲学倫理学特殊ⅡF(2)	哲学倫理学特殊ⅠG(2)	哲学倫理学特殊ⅡG(2)	哲学倫理学特殊ⅠH(2)	
哲学倫理学特殊ⅡH(2)	哲学倫理学特殊ⅠI(2)	哲学倫理学特殊ⅡI(2)	哲学倫理学特殊ⅠJ(2)	哲学倫理学特殊ⅡJ(2)	
哲学倫理学特殊ⅠK(2)	哲学倫理学特殊ⅡK(2)	哲学倫理学特殊ⅠL(2)	哲学倫理学特殊ⅡL(2)	哲学倫理学特殊ⅠM(2)	
哲学倫理学特殊ⅡM(2)	哲学倫理学特殊ⅠN(2)	哲学倫理学特殊ⅡN(2)	日本倫理思想Ⅰ(2)	日本倫理思想Ⅱ(2)	
東洋倫理思想Ⅰ(2)	東洋倫理思想Ⅱ(2)	キリスト教概論Ⅰ(2)	キリスト教概論Ⅱ(2)	倫理学研究会Ⅰ(1)	
倫理学研究会Ⅱ(1)	倫理学研究会Ⅲ(1)	倫理学研究会Ⅳ(1)			
芸術研究基礎Ⅰ(1)	芸術研究基礎Ⅱ(1)	美学美術史学原典講読Ⅰ(1)	美学美術史学原典講読Ⅱ(1)	美学美術史学演習Ⅰ(1)	
美学美術史学演習Ⅱ(1)	美学美術史学原典講読Ⅲ(1)	美学美術史学原典講読Ⅳ(1)	美学概論Ⅰ(2)	美学概論Ⅱ(2)	
芸術学A(2)	芸術学B(2)	芸術学C(2)	芸術学D(2)	芸術学E(2)	
芸術学F(2)	東洋美術史概説ⅠA(2)	東洋美術史概説ⅡA(2)	東洋美術史概説ⅠB(2)	東洋美術史概説ⅡB(2)	
西洋美術史概説ⅠA(2)	西洋美術史概説ⅡA(2)	西洋美術史概説ⅠB(2)	西洋美術史概説ⅡB(2)	西洋音楽史概説ⅠA(2)	
西洋音楽史概説ⅡA(2)	西洋音楽史概説ⅠB(2)	西洋音楽史概説ⅡB(2)	美学特殊ⅠA(2)	美学特殊ⅡA(2)	
美学特殊ⅠB(2)	美学特殊ⅡB(2)	美学特殊ⅠC(2)	美学特殊ⅡC(2)	美学特殊ⅠD(2)	
美学特殊ⅡD(2)	美術史特殊ⅠE(2)	美術史特殊ⅡE(2)	美術史特殊ⅠA(2)	美術史特殊ⅡA(2)	
美術史特殊ⅠB(2)	美術史特殊ⅡB(2)	美術史特殊ⅠC(2)	美術史特殊ⅡC(2)	美術史特殊ⅠD(2)	
美術史特殊ⅡD(2)	美術史特殊ⅠE(2)	美術史特殊ⅡE(2)	美術史特殊ⅠF(2)	美術史特殊ⅡF(2)	
美術史特殊ⅠG(2)	美術史特殊ⅡG(2)	美術史特殊ⅠH(2)	美術史特殊ⅡH(2)	美術史特殊ⅠI(2)	
美術史特殊ⅡI(2)	美術史特殊ⅠJ(2)	美術史特殊ⅡJ(2)	美術史特殊ⅠK(2)	美術史特殊ⅡK(2)	
美術史特殊ⅠL(2)	美術史特殊ⅡL(2)	音楽史特殊ⅠA(2)	音楽史特殊ⅡA(2)	音楽史特殊ⅠB(2)	
音楽史特殊ⅡB(2)	音楽史特殊ⅠC(2)	音楽史特殊ⅡC(2)	音楽史特殊ⅠD(2)	音楽史特殊ⅡD(2)	
音楽史特殊ⅠE(2)	音楽史特殊ⅡE(2)	美学美術史学研究会Ⅰ(1)	美学美術史学研究会Ⅱ(1)	美学美術史学研究会Ⅲ(1)	
美学美術史学研究会Ⅳ(1)					
史学系	日本史料講読Ⅰ(1)	日本史料講読Ⅱ(1)	史学概論Ⅰ(2)	史学概論Ⅱ(2)	日本史概説Ⅰ(2)
	日本史概説Ⅱ(2)	日本史概説Ⅲ(2)	日本史概説Ⅳ(2)	古文書学Ⅰ(2)	古文書学Ⅱ(2)
	古文書学Ⅲ(2)	古文書学Ⅳ(2)	日本史特殊ⅠA(2)	日本史特殊ⅡA(2)	日本史特殊ⅠB(2)
	日本史特殊ⅡB(2)	日本史特殊ⅠC(2)	日本史特殊ⅡC(2)	日本史特殊ⅠD(2)	日本史特殊ⅡD(2)
	日本史特殊ⅠE(2)	日本史特殊ⅡE(2)	日本史特殊ⅠF(2)	日本史特殊ⅡF(2)	日本史特殊ⅠG(2)
	日本史特殊ⅡG(2)	日本史特殊ⅠH(2)	日本史特殊ⅡH(2)	日本史演習ⅠA(1)	日本史演習ⅡA(1)
	日本史演習ⅠB(1)	日本史演習ⅡB(1)	日本史演習ⅠC(1)	日本史演習ⅡC(1)	日本史演習ⅠD(1)
	日本史演習ⅡD(1)	日本史演習ⅠE(1)	日本史演習ⅡE(1)	日本史演習ⅠF(1)	日本史演習ⅡF(1)
	日本史演習ⅠG(1)	日本史演習ⅡG(1)	日本史演習ⅠH(1)	日本史演習ⅡH(1)	日本史演習ⅠI(1)
	日本史演習ⅡI(1)	日本史演習ⅠJ(1)	日本史演習ⅡJ(1)	日本史研究会Ⅰ(1)	日本史研究会Ⅱ(1)
	日本史研究会Ⅲ(1)	日本史研究会Ⅳ(1)	日本史洋書講読Ⅰ(1)	日本史洋書講読Ⅱ(1)	
	東洋史研究入門Ⅰ(1)	東洋史研究入門Ⅱ(1)	東洋史講読ⅠA(1)	東洋史講読ⅡA(1)	東洋史講読ⅠB(1)
	東洋史講読ⅡB(1)	東洋史講読ⅠC(1)	東洋史講読ⅡC(1)	東洋史講読ⅠD(1)	東洋史講読ⅡD(1)
	東洋史講読ⅠE(1)	東洋史講読ⅡE(1)	東洋史概説Ⅰ(2)	東洋史概説Ⅱ(2)	東洋史概説Ⅲ(2)
	東洋史概説Ⅳ(2)	東洋史概説Ⅴ(2)	東洋史概説Ⅵ(2)	東洋史概説Ⅶ(2)	東洋史概説Ⅷ(2)
	東洋史概説Ⅷ(2)	東洋史特殊ⅠA(2)	東洋史特殊ⅡA(2)	東洋史特殊ⅠB(2)	東洋史特殊ⅡB(2)
	東洋史特殊ⅡB(2)	東洋史特殊ⅠC(2)	東洋史特殊ⅡC(2)	東洋史特殊ⅠD(2)	東洋史特殊ⅡD(2)
	東洋史特殊ⅠE(2)	東洋史特殊ⅡE(2)	東洋史特殊ⅠF(2)	東洋史特殊ⅡF(2)	東洋史特殊ⅠG(2)
	東洋史特殊ⅡG(2)	東洋史特殊ⅠH(2)	東洋史特殊ⅡH(2)	東洋史特殊ⅠI(2)	東洋史特殊ⅡI(2)
	東洋史特殊ⅠJ(2)	東洋史特殊ⅡJ(2)	東洋史特殊ⅠK(2)	東洋史特殊ⅡK(2)	東洋史特殊ⅠL(2)
	東洋史特殊ⅡL(2)	東洋史特殊ⅠM(2)	東洋史特殊ⅡM(2)	東洋史特殊ⅠN(2)	東洋史特殊ⅡN(2)
	東洋史特殊ⅠO(2)	東洋史特殊ⅡO(2)	東洋史特殊ⅠP(2)	東洋史特殊ⅡP(2)	東洋史特殊ⅠQ(2)
	東洋史特殊ⅡQ(2)	東洋史特殊ⅠR(2)	東洋史特殊ⅡR(2)	東洋史特殊ⅠS(2)	東洋史特殊ⅡS(2)
	東洋史特殊ⅠT(2)	東洋史特殊ⅡT(2)	東洋史特殊ⅠU(2)	東洋史特殊ⅡU(2)	東洋史特殊ⅠV(2)
	東洋史特殊ⅡV(2)	史学概論Ⅰ(2)	史学概論Ⅱ(2)	東洋史研究会Ⅰ(1)	東洋史研究会Ⅱ(1)
	東洋史研究会Ⅲ(1)	東洋史研究会Ⅳ(1)	東洋史演習ⅠA(1)	東洋史演習ⅡA(1)	東洋史演習ⅠB(1)
	東洋史演習ⅡB(1)	東洋史演習ⅠC(1)	東洋史演習ⅡC(1)		

史学系	史学概論 I (2) 西洋史演習 II (1) 西洋史概説 V (2) 西洋史特殊 II B (2) 西洋史特殊 I E (2) 西洋史特殊 II G (2) 西洋史特殊 I J (2) 西洋史研究会 I V (1)	史学概論 II (2) 西洋史概説 I (2) 西洋史概説 VI (2) 西洋史特殊 I C (2) 西洋史特殊 II E (2) 西洋史特殊 I H (2) 西洋史特殊 II J (2)	西洋史学原典講読 I (1) 西洋史概説 II (2) 西洋史特殊 I A (2) 西洋史特殊 II C (2) 西洋史特殊 I F (2) 西洋史特殊 II H (2) 西洋史研究会 I (1)	西洋史学原典講読 II (1) 西洋史概説 III (2) 西洋史特殊 II A (2) 西洋史特殊 I D (2) 西洋史特殊 II F (2) 西洋史特殊 I I (2) 西洋史研究会 II (1)	西洋史演習 I (1) 西洋史概説 IV (2) 西洋史特殊 I B (2) 西洋史特殊 II D (2) 西洋史特殊 I G (2) 西洋史特殊 II I (2) 西洋史研究会 III (1)
	民族学考古学原典講読 I (2) 民族学考古学研究法 II (1) 民族学考古学特殊 III (2) 民族学考古学特殊 VIII (2) 民族学考古学特殊 X III (2) 民族学考古学特殊 X VIII (2) 考古学 I (2) 人類学概論 II (2)	民族学考古学原典講読 II (2) 民族学考古学研究法 III (1) 民族学考古学特殊 IV (2) 民族学考古学特殊 IX (2) 民族学考古学特殊 X IV (2) 民族学考古学特殊 X IX (2) 考古学 II (2) 民族学考古学研究会 I (1)	史学概論 I (2) 民族学考古学研究法 IV (1) 民族学考古学特殊 V (2) 民族学考古学特殊 X (2) 民族学考古学特殊 X V (2) 民族学考古学特殊 X X (2) 民族学 I (2) 民族学考古学研究会 II (1)	史学概論 II (2) 民族学考古学特殊 I (2) 民族学考古学特殊 VI (2) 民族学考古学特殊 X I (2) 民族学考古学特殊 X VI (2) 民族学考古学特殊 X X I (2) 民族学 II (2) 民族学考古学研究会 III (1)	民族学考古学研究法 I (1) 民族学考古学特殊 II (2) 民族学考古学特殊 VII (2) 民族学考古学特殊 X II (2) 民族学考古学特殊 X VII (2) 民族学考古学特殊 X X II (2) 人類学概論 I (2) 民族学考古学研究会 IV (1)
文学系	国文学原典講読 I (1) 日本語学 IV (2) 国文学 I (2) 国文学 VI (2) 国文学 X I (2) 国文学 X VI (2) 国文学 X X I (2) 国文学史 IV (2) 国文学演習 I (1) 国文学演習 VI (1) 国文学演習 X I (1) 日本語文法 II (2) 日本語教育学 I (2)	国文学原典講読 II (1) 日本語学 V (2) 国文学 II (2) 国文学 VII (2) 国文学 X II (2) 国文学 X VII (2) 国文学 X X II (2) 国文学史 V (2) 国文学演習 II (1) 国文学演習 VII (1) 国文学演習 X II (1) 漢文概論 I (2) 日本語教育学 II (2)	日本語学 I (2) 日本語学 VI (2) 国文学 III (2) 国文学 VIII (2) 国文学 X III (2) 国文学 X VIII (2) 国文学史 I (2) 国文学史 VI (2) 国文学演習 III (1) 国文学演習 VIII (1) 日本語学演習 I (1) 漢文概論 II (2) 日本語教育学 III (2)	日本語学 II (2) 日本語学 VII (2) 国文学 IV (2) 国文学 IX (2) 国文学 X IV (2) 国文学 X IX (2) 国文学史 II (2) 国文学史 VII (2) 国文学演習 IV (1) 国文学演習 IX (1) 日本語学演習 II (1) 国文学研究会 I (1) 日本語教育学 IV (2)	日本語学 III (2) 日本語学 VIII (2) 国文学 V (2) 国文学 X (2) 国文学 X V (2) 国文学 X X (2) 国文学史 III (2) 国文学史 VIII (2) 国文学演習 V (1) 国文学演習 X (1) 日本語文法 I (2) 国文学研究会 II (1)
	中国古典文学史 I (2) 中国語学概論 II (2) 中国語学特殊 I A (2) 中国文化特殊 II A (2) 中国語学・中国文学演習 III (1) 中国語学・中国文学演習 VIII (1) 中国語表現演習 I (1) 中国語表現演習 VI (1)	中国古典文学史 II (2) 中国文学特殊 I A (2) 中国語学特殊 II A (2) 中国文化特殊 I B (2) 中国語学・中国文学演習 IV (1) 中国語学・中国文学演習 IX (1) 中国語表現演習 II (1) 中国語学・中国文学研究会 I (1)	中国現代文学史 I (2) 中国文学特殊 II A (2) 中国語学特殊 I B (2) 中国文化特殊 II B (2) 中国語学・中国文学演習 V (1) 中国語学・中国文学演習 X (1) 中国語表現演習 III (1) 中国語学・中国文学研究会 II (1)	中国現代文学史 II (2) 中国文学特殊 I B (2) 中国語学特殊 II B (2) 中国語学・中国文学演習 I (1) 中国語学・中国文学演習 VI (1) 中国語学・中国文学演習 XI (1) 中国語表現演習 IV (1) 中国語学・中国文学研究会 III (1)	中国語学概論 I (2) 中国文学特殊 II B (2) 中国文化特殊 I A (2) 中国語学・中国文学演習 II (1) 中国語学・中国文学演習 VII (1) 中国語学・中国文学演習 XII (1) 中国語表現演習 V (1) 中国語学・中国文学研究会 IV (1)
	英語史 I (2) 米文学史 II (2) 古代中世英語学 I (2) 英語学演習 II (1) 英語学演習 VII (1) 英語学演習 X II (1) 英文学演習 I (1) 英文学演習 VI (1) 英文学演習 X I (1) 英文学演習 X VI (1) 英文学演習 X X I (1) 米文学演習 IV (1) 米文学演習 IX (1) 米文学演習 X IV (1) 英語学研究会 III (1) 英文学研究会 IV (1) 英語学 I (2) 英語学 VI (2) 英語学 X I (2) 英文学 II (2) 英文学 VII (2) 英文学 X II (2) 米文学 I (2) 米文学 VI (2) 米文学 X I (2) アカデミック・ライティング I A (1) アカデミック・ライティング II B (1) アカデミック・ライティング I D (1) アカデミック・ライティング II E (1)	英語史 II (2) 現代英語学 I (2) 古代中世英語学 II (2) 英語学演習 III (1) 英語学演習 VIII (1) 英語学演習 X III (1) 英文学演習 II (1) 英文学演習 VII (1) 英文学演習 X II (1) 英文学演習 X VII (1) 英文学演習 X X II (1) 米文学演習 V (1) 米文学演習 X (1) 米文学演習 X V (1) 英語学研究会 IV (1) 米文学研究会 I (1) 英語学 II (2) 英語学 VII (2) 英語学 X II (2) 英文学 III (2) 英文学 VIII (2) 英文学 X III (2) 米文学 II (2) 米文学 VII (2) 米文学 X II (2)	英文学史 I (2) 現代英語学 II (2) 英語音声学 I (2) 英語学演習 IV (1) 英語学演習 IX (1) 英語学演習 X IV (1) 英文学演習 III (1) 英文学演習 VIII (1) 英文学演習 X III (1) 英文学演習 X VIII (1) 米文学演習 I (1) 米文学演習 VI (1) 米文学演習 X I (1) 米文学演習 X VI (1) 米文学演習 X X I (1) 米文学演習 V (1) 米文学演習 X I (1) 英文学研究会 I (1) 英文学研究会 II (1) 英語学 III (2) 英語学 VIII (2) 英語学 X III (2) 英文学 IV (2) 英文学 V (2) 英文学 X IV (2) 米文学 III (2) 米文学 VIII (2)	英文学史 II (2) 英語英米文学基礎講読 I (1) 英語音声学 II (2) 英語学演習 V (1) 英語学演習 X (1) 英語学演習 X V (1) 英文学演習 IV (1) 英文学演習 IX (1) 英文学演習 X IV (1) 英文学演習 X IX (1) 米文学演習 II (1) 米文学演習 VII (1) 米文学演習 X II (1) 英語学研究会 I (1) 英文学研究会 II (1) 米文学研究会 III (1) 英語学 IV (2) 英語学 IX (2) 英語学 X IV (2) 英文学 V (2) 英文学 X (2) 英文学 X V (2) 米文学 IV (2) 米文学 IX (2)	米文学史 I (2) 英語英米文学基礎講読 II (1) 英語学演習 I (1) 英語学演習 VI (1) 英語学演習 X I (1) 英語学演習 X VI (1) 英文学演習 V (1) 英文学演習 X (1) 英文学演習 X V (1) 英文学演習 X X (1) 米文学演習 III (1) 米文学演習 VIII (1) 米文学演習 X III (1) 英語学研究会 II (1) 英文学研究会 III (1) 米文学研究会 IV (1) 英語学 V (2) 英語学 X (2) 英文学 I (2) 英文学 VI (2) 英文学 X I (2) 英文学 X VI (2) 米文学 V (2) 米文学 X (2)
	アカデミック・ライティング I B (1) アカデミック・ライティング II C (1) アカデミック・ライティング I E (1)		アカデミック・ライティング II A (1) アカデミック・ライティング I C (1) アカデミック・ライティング II D (1)	アカデミック・ライティング I B (1) アカデミック・ライティング II C (1) アカデミック・ライティング I E (1)	

人間関係学系	人間科学基礎(2)	人間科学研究法基礎(2)	人間科学諸領域Ⅰ(2)	人間科学諸領域Ⅱ(2)	人間科学諸領域Ⅲ(2)
	人間科学諸領域Ⅳ(2)	人間科学研究法ⅠA(2)	人間科学研究法ⅡA(2)	人間科学研究法ⅢA(2)	人間科学研究法ⅣA(2)
	人間科学研究法ⅠB(4)	人間科学研究法ⅡB(4)	人間科学研究法ⅢB(4)	人間科学研究法ⅣB(4)	人間科学演習Ⅰ(1)
	人間科学演習Ⅱ(1)	人間科学演習Ⅲ(1)	人間科学演習Ⅳ(1)	人間科学演習Ⅴ(1)	人間科学演習Ⅵ(1)
	人間科学演習Ⅶ(1)	人間科学演習Ⅷ(1)	人間科学演習ⅧC(1)	人間科学演習Ⅹ(1)	人間科学特殊ⅠA(2)
	人間科学特殊ⅡA(2)	人間科学特殊ⅢA(2)	人間科学特殊ⅣA(2)	人間科学特殊ⅤA(2)	人間科学特殊ⅥA(2)
	人間科学特殊ⅦA(2)	人間科学特殊ⅧA(2)	人間科学特殊ⅨA(2)	人間科学特殊ⅩA(2)	人間科学特殊ⅪA(2)
	人間科学特殊ⅫA(2)	人間科学特殊ⅬA(2)	人間科学特殊ⅭA(2)	人間科学特殊ⅮA(2)	人間科学特殊ⅯA(2)
	人間科学特殊ⅰA(2)	人間科学特殊ⅱA(2)	人間科学特殊ⅲA(2)	人間科学特殊ⅴA(2)	人間科学特殊ⅵA(2)
	人間科学特殊ⅱA(2)	人間科学特殊ⅲA(2)	人間科学特殊ⅳA(2)	人間科学特殊ⅴA(2)	人間科学特殊ⅵA(2)
	人間科学特殊ⅲA(2)	人間科学特殊ⅳA(2)	人間科学特殊ⅳA(2)	人間科学特殊ⅳA(2)	人間科学特殊ⅳA(2)
	人間科学特殊ⅲA(2)	人間科学特殊ⅳA(2)	人間科学特殊ⅲA(2)	人間科学特殊ⅲA(2)	人間科学特殊ⅲA(2)
	人間科学特殊ⅲA(2)	人間科学特殊ⅲA(2)	人間科学特殊ⅲA(2)	人間科学特殊ⅲA(2)	人間科学特殊ⅲA(2)
	人間科学特殊ⅲA(2)	人間科学特殊ⅲA(2)	人間科学特殊ⅲA(2)	人間科学特殊ⅲA(2)	人間科学特殊ⅲA(2)
	人間科学特殊ⅲA(2)	人間科学特殊ⅲA(2)	人間科学特殊ⅲA(2)	人間科学特殊ⅲA(2)	人間科学特殊ⅲA(2)
	人間科学特殊ⅲA(2)	人間科学特殊ⅲA(2)	人間科学特殊ⅲA(2)	人間科学特殊ⅲA(2)	人間科学特殊ⅲA(2)
	人間科学特殊ⅲA(2)	人間科学特殊ⅲA(2)	人間科学特殊ⅲA(2)	人間科学特殊ⅲA(2)	人間科学特殊ⅲA(2)

(2) 学則第 35 条に定める文学部設置の全専攻共通科目

全専攻共通科目	生涯学習概論(2)	博物館学概論Ⅰ(2)	博物館学概論Ⅱ(2)	博物館経営論(2)	博物館資料論Ⅰ(2)
	博物館資料論Ⅱ(2)	博物館資料保存論Ⅰ(2)	博物館資料保存論Ⅱ(2)	博物館展示論Ⅰ(2)	博物館展示論Ⅱ(2)
	博物館と教育(2)	博物館情報メディア論(2)	博物館学実習Ⅰ(1)	博物館学実習Ⅱ(1)	博物館学実習Ⅲ(1)
	博物館学実習Ⅳ(1)	博物館学特論Ⅰ(2)	博物館学特論Ⅱ(2)	博物館学特論Ⅲ(2)	博物館学特論Ⅳ(2)
	博物館学特論Ⅴ(2)	博物館学特論Ⅵ(2)	博物館美術館の現在(2)	漢文講読Ⅰ(1)	漢文講読Ⅱ(1)
	漢文講読Ⅲ(1)	漢文講読Ⅳ(1)	応用情報処理Ⅰ(2)	応用情報処理Ⅱ(2)	応用情報処理Ⅲ(2)
	応用情報処理Ⅳ(2)	応用情報処理Ⅴ(2)	応用情報処理Ⅵ(2)	情報と職業(2)	情報と倫理Ⅰ(2)
	中国語会話特殊Ⅰ(1)	中国語会話特殊Ⅱ(1)	中国語会話特殊Ⅲ(1)	中国語会話特殊Ⅳ(1)	西洋古典学Ⅰ(2)
	西洋古典学Ⅱ(2)	西洋古典研究会Ⅰ(1)	西洋古典研究会Ⅱ(1)	古典ギリシア語文献講読Ⅰ(1)	古典ギリシア語文献講読Ⅱ(1)
	古典ギリシア語文献講読Ⅲ(1)	古典ギリシア語文献講読Ⅳ(1)	現代ギリシア語文献講読Ⅰ(1)	現代ギリシア語文献講読Ⅱ(1)	ラテン語文献講読Ⅰ(1)
	ラテン語文献講読Ⅱ(1)	ラテン語文献講読Ⅲ(1)	ラテン語文献講読Ⅳ(1)	ロシア語文献講読Ⅰ(1)	ロシア語文献講読Ⅱ(1)
	イタリア語文献講読Ⅰ(1)	イタリア語文献講読Ⅱ(1)	イタリア文学演習Ⅰ(1)	イタリア文学演習Ⅱ(1)	スペイン語圏文化研究Ⅰ(1)
	スペイン語圏文化研究Ⅱ(1)	自然科学研究会Ⅰ(1)	自然科学研究会Ⅱ(1)	自然科学研究会Ⅲ(1)	自然科学研究会Ⅳ(1)
	カウンセリング概論Ⅰ(2)	カウンセリング概論Ⅱ(2)	カウンセリングワークショップⅠ(2)	カウンセリングワークショップⅡ(2)	仏教学概論Ⅰ(2)
	仏教学概論Ⅱ(2)	西洋史名著研究Ⅰ(1)	西洋史名著研究Ⅱ(1)	比較文学Ⅰ(2)	比較文学Ⅱ(2)
	演劇の歴史Ⅰ(2)	演劇の歴史Ⅱ(2)	英書講読Ⅰ(1)	英書講読Ⅱ(1)	デジタル書物学Ⅰ(2)
	デジタル書物学Ⅱ(2)	入門フランス語Ⅰ(1)	入門フランス語Ⅱ(1)	比較精神史Ⅰ(2)	比較精神史Ⅱ(2)
	環境問題と大学(2)	文章と表現Ⅰ(2)	文章と表現Ⅱ(2)	子どもの本と読書(2)	言語学概論Ⅰ(2)
	言語学概論Ⅱ(2)	言語学概論Ⅲ(2)	言語学概論Ⅳ(2)	言語学概論Ⅴ(2)	言語学概論Ⅵ(2)
	言語学特殊Ⅰ(2)	言語学特殊Ⅱ(2)	言語学特殊Ⅲ(2)	言語学特殊Ⅳ(2)	言語学特殊Ⅴ(2)
	言語学特殊Ⅵ(2)	言語学特殊Ⅶ(2)	言語学特殊Ⅷ(2)	言語学特殊ⅧC(2)	言語学特殊Ⅸ(2)
	言語学特殊ⅩⅠ(2)	言語学特殊ⅩⅡ(2)	言語学特殊ⅩⅢ(2)	言語学特殊ⅩⅣ(2)	言語学特殊ⅩⅤ(2)
	言語学特殊ⅩⅥ(2)	言語学特殊ⅩⅦ(2)	言語学特殊ⅩⅧ(2)	音楽学Ⅰ(2)	音楽学Ⅱ(2)
	音楽学Ⅲ(2)	音楽学Ⅳ(2)	芸術の現在Ⅰ(2)	芸術の現在Ⅱ(2)	アート・マネジメントⅠ(2)
	アート・マネジメントⅡ(2)	アート・プロデューズⅠ(2)	アート・プロデューズⅡ(2)		

(3) 本年度教授会の認める専門教育科目（全専攻共通科目）

三田キャンパス設置科目

文献学の世界(2)

(4) 本大学設置の専門教育科目

①教授会の認める各学部設置の専門教育相当科目

履修を希望する科目が以下の専門教育相当科目かどうか各学部の履修案内で必ず確認し、また p. 47, 48 を参照して履修制限対象科目でないかも確認してください。複数の学則がある学部については、原則として下記の学則の科目を履修してください（ただし、各学部から別途指示がある場合にはそれに従ってください）。

学部	学則	専門教育相当科目	履修申告方法
経済学部	16・23	専門教育科目	B 欄分野番号 55 を選択。 ただし同一科目を重複履修する場合は B 欄分野番号 99 を選択（p. 51 を参照）。
法学部法律学科	57	法律学科目	
法学部政治学科	14	政治学科目	
商学部	19	専攻科目	
理工学部	17	専門基礎科目，学科専門科目	
総合政策学部	14	先端科目	
環境情報学部	14	先端科目	
看護医療学部	19・22・23	専門教育科目	

②教授会の認める研究所等附属施設の授業科目または講座

履修可能な科目や履修手続の詳細については、p. 49 を確認してください。

(5) 文学部教職課程教科に関する専門的事項および学校司書教諭資格に関する科目

書道（書写）(2)	書道（理論）(2)	法学概論（2）	政治学Ⅰ（2）	政治学Ⅱ（2）
自然地理学概論Ⅰ（2）	自然地理学概論Ⅱ（2）	人文地理学概論Ⅰ（2）	人文地理学概論Ⅱ（2）	
口語英語（2）	英作文（2）	英語圏事情（2）	比較文化論（2）	
中国文化論（2）	日本史概論（2）	世界史概論（2）	学校経営と学校図書館（2）	
学校図書館メディア論（2）	学習指導と学校図書館（2）	読書教育論（2）	情報メディア利用論（2）	

8 自由科目

成績や単位の取得ができますが、進級および卒業に必要な単位としては計算されず、GPA の算出にも含まれません。

- (1) 同一科目を重複して履修する場合は、専攻別内規で許可されている場合を除き、どちらか一方を自由科目のB欄分野番号【99】を指定のうえ登録してください。詳細はp. 51「B欄による申告方法」を参照してください。
- (2) 自由科目として取得した科目を後から必修語学科目・総合教育科目・専門教育科目に変更することはできません。
- (3) 教職課程センター設置の「教育実習Ⅰ」、「教育実習Ⅱ」、「教育実習基礎」、「教職介護等体験」は、自由科目となります。
- (4) 4年生に限り、自由科目としてのみ社会学研究科修士課程設置科目を履修することができます。履修申告以前に科目担当者の許可が必要となるため、手続の詳細については、早めに学生部社会学研究科担当に確認してください。

※詳細は塾生サイトにてお知らせします。

<https://www.students.keio.ac.jp/mt/hr/career/placement/advanced.html>



- (5) 3・4年生に限り、自由科目としてのみ以下の法務研究科設置科目を履修することができます。
 - ・2024年度については、対象科目はありません。
 - ・履修申告以前に科目担当者の履修許可が必要です。また、秋の所定期間に履修申告することになります。
〈法務研究科（法科大学院）早期履修（先取り履修）ガイダンス〉
2024年度は実施しません。
- (6) 4年生に限り、自由科目としてのみ以下の法学研究科設置科目を最大10単位まで履修することができます。
 - ・民事法学・公法学専攻
全ての科目（ただし合同演習／総合合同演習を除く）
 - ・政治学専攻
特殊研究
プロジェクト科目（ただし公共政策専修コース設置「プロジェクト科目Ⅰ／Ⅱ公共政策論」を除く）履修にあたっては、初回授業にて科目担当者から必ず許可を得てください。なお授業によっては許可を得られない場合もあります。

※詳細は塾生サイトにてお知らせします。

<https://www.students.keio.ac.jp/mt/law/class/registration/4.html>



1 注意事項

(1) 履修申告システム

p. 15 および履修申告システム操作マニュアルを参照してください。

<https://www.students.keio.ac.jp/com/class/system/course-reg-manual.html>

履修申告システムは、保守のため午前 4:00～1 時間程は利用できません。



- ・ 締切時間を過ぎると履修申告ができません。時間に余裕をもって履修申告を行ってください。
- ・ 申告期間中であれば、何度でも履修の修正が可能です。
- ・ 履修申告後は、登録済科目確認画面を印刷し、保管してください。学生部学事担当での閲覧・照会はできません。
- ・ 申告期間中に時間割が変更される場合があります。塾生サイト等に留意し、必要があれば期間内に履修の修正を行ってください。

(2) 履修上限

年間の履修単位数の上限は、春学期・秋学期の履修単位数の合計で 48 単位です（ただし、自由科目を除く）。

特に、秋学期の履修申告時には、春学期に不合格になった科目も含め、48 単位以内に収める必要があるので注意してください。

(3) 未履修申告

申告期間内に履修申告をしない場合は、就学の意志がないものとして退学処分になることがありますので、十分注意してください（学則第 188 条）。

〈春学期の卒業所要単位を取得済みの 4 年生で春学期履修申告をしない場合〉

履修申告システムより「新規履修申告科目なし」を申請してください。なお、「新規履修申告科目なし」は 4 年生 2 回目以降かつ卒業所要単位取得済みの学生が対象です。4 年生 1 回目の学生や、研究会等の単位が不足している学生、卒業試験に合格していない学生は通常通り履修申告をしてください。

(4) Web 履修申告期間（一次）・（二次）について

履修申告期間（一次）中に、すべての履修希望科目の登録を済ませてください。履修申告（一次）期間終了後、履修希望者多数となった科目については抽選および履修制限を行います。履修申告期間（一次）で抽選・履修制限が行われた科目は、履修申告期間（二次）には追加履修することができません。

履修申告に誤りがあれば登録されず、履修調整（抽選）の対象になりませんので注意してください。

履修申告に追加・修正が発生する場合には、履修申告期間（二次）に対応してください。なお、履修申告期間（二次）に受け入れ可能人数を超えた科目は、履修申告期間（二次）内または終了後に抽選および履修制限を行う可能性があります。詳細は Web 等を確認してください。

(5) A 欄と B 欄

履修科目により、自動的に分野が登録される場合（「A 欄」申告）と、各自分野を選択しなければならない場合（「B 欄」申告：2 桁の B 欄分野番号を登録）があります。どちらの欄で登録するかは、p. 51「履修申告欄（A 欄・B 欄）（2・3・4 年）」を参照してください。

(6) 同一科目の重複履修

原則として、単位を取得した同一名称の科目を二度以上履修することはできません。しかし、所属する専攻によっては、専攻別内規に示す範囲で二度以上の履修が認められる場合があります。詳しくは各専攻別内規を確認のうえ、各専攻の専攻担任に問い合わせてください。

(7) 分野変更

一度履修・修得・認定した科目の分野は原則として変更できません。ただし例外もありますので、学生部文学部担当までお問い合わせください。

(8) 他学部設置の専門教育科目

他学部設置の専門教育科目は、上級学年（3・4 年生）設置科目のため、2 年生は原則として履修できません。

(9) 他地区設置授業を履修する場合の注意事項

地区間を移動するにあたり、移動不可能な履修申告はできません。

例①：3 限に三田キャンパスの授業を履修し、4 限に日吉キャンパスの授業を履修する。

例②：2 限に三田キャンパスの授業を履修し、3 限に湘南藤沢キャンパスの授業を履修する。

なお、三田・日吉キャンパスの移動に関しては、昼休みをはさむ 2・3 時限の履修は可能としますが、授業に遅れてしまう場合も有り得ますので、十分に注意してください。

(10) 「遠隔（オンライン）授業」の履修について

K-LMS 等に掲載されている、「オンライン授業受講ガイドライン」（K-LMS → Links & Help → 受講生マニュアル → Student Guide）を確認してください。

異なる地区において連続した時限に開講される授業であっても、一方または両方が遠隔（オンライン）授業（例：1 時限目に日吉の対面授業、2 時限目に三田の遠隔授業）の場合、履修することは可能とします。ただし、遠隔（オンライン）授業であっても一部対面授業を実施する、授業内試験を対面で実施する等、履修上の不都合が発生する場合があります。異なる地区において連続した時限で開講される授業で、一方または両方が遠隔（オンライン）授業である場合には、シラバスで授業実施形態の詳細を確認すると同時に、科目担当者への確認等を行い、不都合がないことを確認したうえで、自身の責任のもと履修をするようにしてください。

(11) 休学、留学、退学予定の場合

休学、留学、退学を考えている場合も、必ず履修申告してください（ただし、前年度の教授会において当該年度の休学・留学が承認されている場合を除く）。

なお、継続履修の申請方法については、p. 9～11 を確認してください。復学後の履修方法は p. 43 を参照してください。

2 履修申告の流れ

【春学期】

3月中旬	必修語学 Web エントリー期間 (2年生のみ) (K-Support→Apps→授業→Web エントリーシステム) 2年生で英語・ドイツ語・フランス語・中国語・スペイン語を履修する者は、事前に語学クラス選択申告(エントリー)が必要です。 必ず p. 44 「3 2年生での必修語学の履修方法」 および、別途案内する「必修語学 履修要領(英語)」・「必修語学科目 履修要領(諸国語)」を熟読して、間違いのないよう履修してください。 エントリーする全ての語学科目について、所属専攻の必修科目との重複がないか春学期、秋学期ともに必ず確認してください。
↓	
4月3日(水) 12:30 ～4月5日(金) 16:00	春学期科目 履修申告期間 (一次) 対象科目：春学期科目, セット科目, 通年科目 すべての履修希望科目の登録を済ませてください。履修申告期間 (一次) 終了後、履修希望者多数となった科目については抽選および履修制限を行います。
↓	
4月6日(土) 18:00 (予定)	履修確認画面公開① 履修申告期間 (一次) に抽選・履修制限が行われた科目の抽選結果が反映されます。「不許可」となった科目は、各自で履修申告期間 (二次) に修正してください。 [総合教育科目 (日吉) 調整結果反映] 履修申告期間中に正しく申告ができた学生のみが、抽選の対象となります。なお、調整結果により修正申告を行う場合は、塾生サイト (https://www.students.keio.ac.jp/hy/class/registration/restriction.html) で手続き等を確認できます。
↓	
4月6日(土) 18:00 ～4月15日(月) 10:00	春学期科目 履修申告期間 (二次) 履修申告期間 (一次) に登録した科目を削除したり、新たな科目を追加登録することができます。ただし、履修申告期間 (一次) 終了後に履修制限が行われた科目を、履修申告期間 (二次) 中に申告することはできません。 ※履修申告期間 (一次) 終了時点で抽選を行っていない科目でも、履修申告期間 (二次) に受け入れ可能人数を超えた場合は、履修申告期間 (二次) 内または終了後に抽選および履修制限を行うことがあります。 ※オンライン授業の場合は、前日 24:00 までに履修登録をしていないと、K-LMS に履修データが反映されず、初回授業を受講することが出来ません。 ※履修制限情報が「許可者指定予定」の場合、初回授業終了後に担当教員が抽選を行います。不許可となった場合は、各自で履修申告期間 (二次) に修正してください。
↓	
4月18日(木) 16:00 (予定)	履修確認画面公開② 履修確認画面に、最終的な抽選結果や履修エラーがある場合の修正指示が反映されます。自分が履修申告した科目の最終確認を、全員必ず行ってください。 この確認を怠ったために生じた問題 (申告漏れ、科目間違い等により、結果として進級・卒業単位不足となる等) について、大学側は一切責任を負いません。
↓	
4月19日(金) 8:45 ～4月22日(月) 16:00	履修エラー修正期間 ※下記対象者のみ 新たな履修科目の追加や、履修エラーがない科目の修正・削除は一切認められません (特段の指示がある場合を除く)。 対象者：履修エラーがあり、修正指示を受けた者 申告方法：対象者に個別に通知します
↓	
4月29日(月・祝) 10:00 ～4月30日(火) 16:00	履修登録取消期間① 趣 旨：履修登録をして授業に出席したものの、授業の内容が学びたい内容とは異なっていた、授業に対する知識が不足していることに気づいた、履修科目数を減らしたいといった理由がある場合には、履修を取り消すことができます。 なお、原則として進級・卒業条件を満たさなくなるような取消は認められません。 対象科目： 通年科目, セット科目, 春学期科目, 春学期前半科目 のうち、別表の条件を満たす科目 ※通年・セット科目はこの期間でしか取消できません。 取消上限：8単位
↓	
6月20日(木) 10:00 ～6月21日(金) 16:00	履修登録取消期間② 趣 旨：履修登録取消期間①に同じ 対象科目： 春学期後半科目 のうち、別表の条件を満たす科目 取消上限：8単位

【秋学期】

9月25日(水) 12:30 ～9月27日(金) 16:00	秋学期科目 履修申告期間(一次)
	<p>対象科目：秋学期科目(春学期科目, セット科目, 通年科目の履修修正はできません) すべての履修希望科目の登録を済ませてください。履修申告期間(一次)終了後、履修希望者多数となった科目については抽選および履修制限を行います。</p> <p>※履修上限は、春学期に申告した科目も含めて合計で年間48単位です(ただし、自由科目を除く)。 ※秋学期から復学する休学者・留学者も、原則、左記の期間内に履修申告システムから通常通り履修申告をしてください。</p> <p>ただし、以下に該当する者は、一部履修申告システムからは追加履修できない科目があるので、文学部担当に手続き方法を確認してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前年度秋学期から休学・留学を継続していて、所定の手続により(p.11参照)継続履修が認められた語学科目またはセット科目になっている文学部設置専門教育科目がある者 ・帰国後、履修申告期間までに就学届を提出していない留学者、および教授会で承認された留学終了日が履修申告期間以降の留学者



9月28日(土) 18:00(予定)	履修確認画面公開①
	<p>履修申告期間(一次)に抽選・履修制限が行われた科目の抽選結果が反映されます。「不許可」となった科目は、各自で履修申告期間(二次)に修正してください。</p> <p>[総合教育科目(日吉)調整結果反映]</p> <p>履修申告期間中に正しく申告ができた学生のみが、抽選の対象となります。なお、調整結果により修正申告を行う場合は、塾生サイト(https://www.students.keio.ac.jp/hy/class/registration/restriction.html)で手続き等を確認できます。</p>



9月28日(土) 18:00 ～10月8日(火) 10:00	秋学期科目 履修申告期間(二次)
	<p>履修申告期間(一次)に登録した科目を削除したり、新たな科目を追加登録することができます。ただし、履修申告期間(一次)終了後に履修制限が行われた科目を、履修申告期間(二次)中に申告することはできません。</p> <p>※履修申告期間(一次)終了時点で抽選を行っていない科目でも、履修申告期間(二次)に受け入れ可能人数を超えた場合は、履修申告期間(二次)内または終了後に抽選および履修制限を行うことがあります。</p> <p>※オンライン授業の場合は、前日24:00までに履修登録をしていないと、K-LMSに履修データが反映されず、初回授業を受講することが出来ません。</p> <p>※履修制限情報が「許可者指定予定」の場合、初回授業終了後に担当教員が抽選を行います。不許可となった場合は、各自で履修申告期間(二次)に修正してください。</p>
10月11日(金) 16:00(予定)	履修確認画面公開②
	<p>履修確認画面に、最終的な抽選結果や履修エラーがある場合の修正指示が反映されます。自分が履修申告した科目の最終確認を、全員必ず行ってください。</p> <p>この確認を怠ったために生じた問題(申告漏れ、科目間違い等により、結果として進級・卒業単位不足となる等)について、大学側は一切責任を負いません。</p>



10月15日(火) 8:45 ～10月16日(水) 16:00	履修エラー修正期間 ※下記対象者のみ
	<p>新たな履修科目の追加や、履修エラーがない科目の修正・削除は一切認められません。 (特段の指示がある場合を除く。)</p> <p>対象者：履修エラーがあり、修正指示を受けた者 申告方法：対象者に個別に通知します</p>



10月21日(月) 10:00 ～10月22日(火) 16:00	履修登録取消期間③
	<p>趣 旨：履修登録取消期間①に同じ</p> <p>対象科目：秋学期科目, 秋学期前半科目のうち、別表の条件を満たす科目 ※通年・セット科目をこの期間に取消することはできません。</p> <p>取消上限：8単位</p>



12月11日(水) 10:00 ～12月12日(木) 16:00	履修登録取消期間④
	<p>趣 旨：履修登録取消期間①に同じ</p> <p>対象科目：秋学期後半科目のうち、別表の条件を満たす科目</p> <p>取消上限：8単位</p>

別表 履修登録取消ができる科目

文学部設置科目	日吉設置科目	すべての科目(ただし、必修語学科目および別途定める科目を除く)
	三田設置科目	すべての科目(ただし、進級条件科目および博物館学実習を除く)
他学部, 諸研究所・センター等設置科目		<p>当該設置学部等が取消を認める科目 詳細は以下のWebページを確認してください。 https://www.students.keio.ac.jp/com/class/registration/other-faculties.html</p>



3 2年生での必修語学の履修方法

2年生で英語・ドイツ語・フランス語・中国語・スペイン語を履修する者は、事前に語学クラス抽選のためのWebエントリーをしてください（一部クラス指定されているものはWebエントリー不要。ただし履修申告を忘れないこと）。

不明な点は、まずこの「履修案内」と、別途Web等で案内する「必修語学科目 履修要領（英語）」・「必修語学科目 履修要領（諸国語）」を熟読してください。決して憶測や風説を元にエントリー手続を進めないようにしてください。

また、下記の①、③、④、⑥で発表されたクラスについては、必ず履修申告を行ってください。

※一部の語学科目については、クラス発表後に、空きクラスへの申込受付を行います。

抽選発表後、クラスが決まっていない学生や抽選後の空きクラスに応募したい学生は、必ずクラス発表時の案内を確認のうえ、所定の手続を取ってください。

【必修語学の履修申告の流れ】

①「必修語学科目 履修要領（英語）」・「必修語学科目 履修要領（諸国語）」公開

※要領内で、イタリア語・韓国語・日本語・ロシア語のクラス発表

②ドイツ語・フランス語・中国語・スペイン語クラス抽選のための諸国語 Web エントリー

K-Support ログイン→Apps→授業→Web エントリーシステム

③英語プレイズメントテスト結果発表（レベル分け発表）、英語指定クラス発表

Webにて結果を発表します。

④ドイツ語・フランス語・中国語・スペイン語クラス決定（諸国語抽選結果発表）

Webにて結果を発表します。

⑤英語クラス抽選のための英語 Web エントリー

※諸国語の抽選結果を確認したうえで、諸国語・専攻の進級条件科目との重複を避けて英語クラスを選択してください。

K-Support ログイン→Apps→授業→Web エントリーシステム

⑥英語クラス決定（英語抽選結果発表）

Webにて結果を発表します。

【ドイツ語Ⅲ・Ⅳ、フランス語ⅢA・ⅣA/ⅢB・ⅣB、中国語ⅢA・ⅣA/ⅢB・ⅣB、スペイン語ⅢA・ⅣA/ⅢB・ⅣB】

科目名	履修	Web エントリー	決定クラスの履修申告
ドイツ語Ⅲ・Ⅳ	2 コマ履修	○（要）	○（要）
フランス語ⅢA・ⅣA	1 コマ履修		
フランス語ⅢB・ⅣB	1 コマ履修		
中国語ⅢA・ⅣA	1 コマ履修		
中国語ⅢB・ⅣB	1 コマ履修		
スペイン語ⅢA・ⅣA	1 コマ履修		
スペイン語ⅢB・ⅣB	1 コマ履修		

Web エントリーにより事前に学生が希望クラスを申告し、必要に応じて抽選により決定します。

各語種とも、曜日と時限を自由に選ぶことができますが、2年生で履修しなくてはならない他の科目（進級条件科目等）と重ならないよう注意してください。

※専攻によっては春学期と秋学期で必修の時間割が異なる場合もあります。必ず所属専攻の通年の時間割を確認したうえでエントリーしてください（この確認を怠ったために生じた問題（結果として進級単位不足になる等）について大学側は一切責任を負いません）。

〈履修方法〉

- ① 講義要綱・シラバスを熟読のうえ、履修可能な授業全てを選んでください（「必修語学科目 履修要領（諸国語）」講座番号表を参照のこと）。
- ② 期間内に Web エントリーシステムにアクセスし、語種を選択し、希望クラス順に登録してください。希望者数が定員を超えるものについては抽選を行います。決定したクラスの変更は認められません。ただし特別な事情で変更の必要が生じた場合は、速やかに学生部文学部担当に申し出てください。

【中国語Ⅲ上級 A・Ⅳ上級 A / Ⅲ上級 B・Ⅳ上級 B, フランス語Ⅲ上級 A・Ⅳ上級 A】

科目名	履修	Web エントリー	決定クラスの履修申告
中国語Ⅲ上級 A・Ⅳ上級 A 中国語Ⅲ上級 B・Ⅳ上級 B	Ⅲ A・Ⅳ A または Ⅲ上級 A・Ⅳ上級 A より 1 コマと, Ⅲ B・Ⅳ B または Ⅲ上級 B・Ⅳ上級 B の合計 2 コマを履修	× (不要)	○ (要)
フランス語Ⅲ上級 A・Ⅳ上級 A	Ⅲ A・Ⅳ A または Ⅲ上級 A・Ⅳ上級 A より 1 コマと, Ⅲ B・Ⅳ B の合計 2 コマを履修		

上級については、1 年次に履修したクラスに応じてクラスが指定されます。「必修語学科目 履修要領 (諸国語)」や掲示に従って履修してください。特別な事情によって指定クラスの履修が困難な場合は、学生部文学部担当に申し出てください。

【必修語学科目としての英語の履修について】

第 1 学年に引き続き、専攻に分かれた後の学習・研究において重要となる「読解力」をすでに持つかどうかを基準に、レベル別クラス編成を行います。プレイメントテストの判定結果に基づき、各自の必要と学習目標に即した履修クラスを選択してください。

	レベルごとの説明・注意事項	Web エントリー時の注意
上級・最上級	上級クラス、最上級クラスの 9 コマのうち 2 コマを履修します。すでに十分な英語力、英語読解力を持つ学生が、英語を使っての様々なコミュニケーション能力を高めることを目的としています。「帰国生対象」と「一般学生対象」の区別はありません。 ※最上級クラスを履修する為には、「英語最上級クラス履修希望者相談」に出席し、面接の上、履修許可を得ることが必要です。最上級クラスを 2 コマ履修しても、一方を上級クラスとしてもかまいません。 ※最上級クラス履修許可者が、外国語教育研究センター設置「英語最上級アドバンスト英語 (I)・(II)」と併設である、水曜 3 限コネリー君担当の最上級クラスを履修する場合は、外国語教育研究センターでの手続きが別途必要です。	①「英語Ⅲ上級・Ⅳ上級」を 2 コマ履修する場合 →上級のクラスから第 7 希望まで選択。 ②「英語Ⅲ上級・Ⅳ上級」を 1 コマ、「英語Ⅲ最上級・Ⅳ最上級」を 1 コマ履修する場合 →上級のクラスから第 7 希望まで選択 (1 コマエントリー用の科目番号からエントリー画面にすすむ)。
中級発展	中級発展のクラスから 2 コマを履修します。主に日本人教員が担当する英語読解トレーニングのクラスと、主にネイティブ・スピーカーが担当するそれ以外のクラスが設置されています。自分の必要に応じて、バランスの取れた英語力を養成することを目標としています。	中級発展のクラスから履修可能なクラスを 8 つ選択。その中から抽選で 2 クラス決定します。
中級	中級のクラスから 2 コマを履修します。いずれのクラスも、専攻で必要とされる英語読解力の養成を主眼としています。	中級のクラスから履修可能なクラスを 8 つ選択。その中から抽選で 2 クラス決定します。
基礎発展	対象者は、基礎発展のクラスを 1 コマ「指定」されています。それに加えて、中級のクラスから各自 1 コマを選択し、合計 2 コマを履修します。	基礎発展の 1 コマはクラス指定されているので、記入不要。中級のクラスから履修可能なクラスを 8 つ選択 (1 コマエントリー用の科目番号からエントリー画面にすすむ)。

〈履修方法〉

- ①プレイメントテスト結果発表で各自の判定レベルを確認し、「英語Ⅲ・Ⅳ」基礎発展・中級・中級発展・上級・最上級の中から、上記の注意に従ってクラスを選択してください。
- ②選択クラスは、Web エントリーにより抽選で決定します。「必修語学科目 履修要領 (英語)」を熟読のうえ、履修可能な授業を指定数選択してください。
※英語に加え他の語学も履修する者は必ず他語種のクラス分け結果、指定クラスを確認し、曜日時限が重複しないクラスを選択してください。なお、決められた希望順位までエントリーしない場合は、抽選から除外され、抽選終了後に空きクラスの中からクラスを選択することとなります。結果発表は別途案内します。
※専攻によっては春学期と秋学期で必修の時間割が異なる場合もあります。必ず所属専攻の通年の時間割を確認したうえでエントリーしてください (この確認を怠ったために生じた問題 (結果として進級単位不足になる等) について大学側は一切責任を負いません)。

4 学芸員資格の取得

学芸員資格を取得するためには、卒業要件に加え、下記の表の科目を計画的に履修する必要があります。

以下の Web ページおよび K-Support ニュースより、授業の履修方法等に関する資料を配布します。また、4 月には学芸員ガイダンスを開催します。資格取得希望者は必ず確認してください。

<https://www.students.keio.ac.jp/com/class/certification/curator.html>
(3 月頃公開予定)



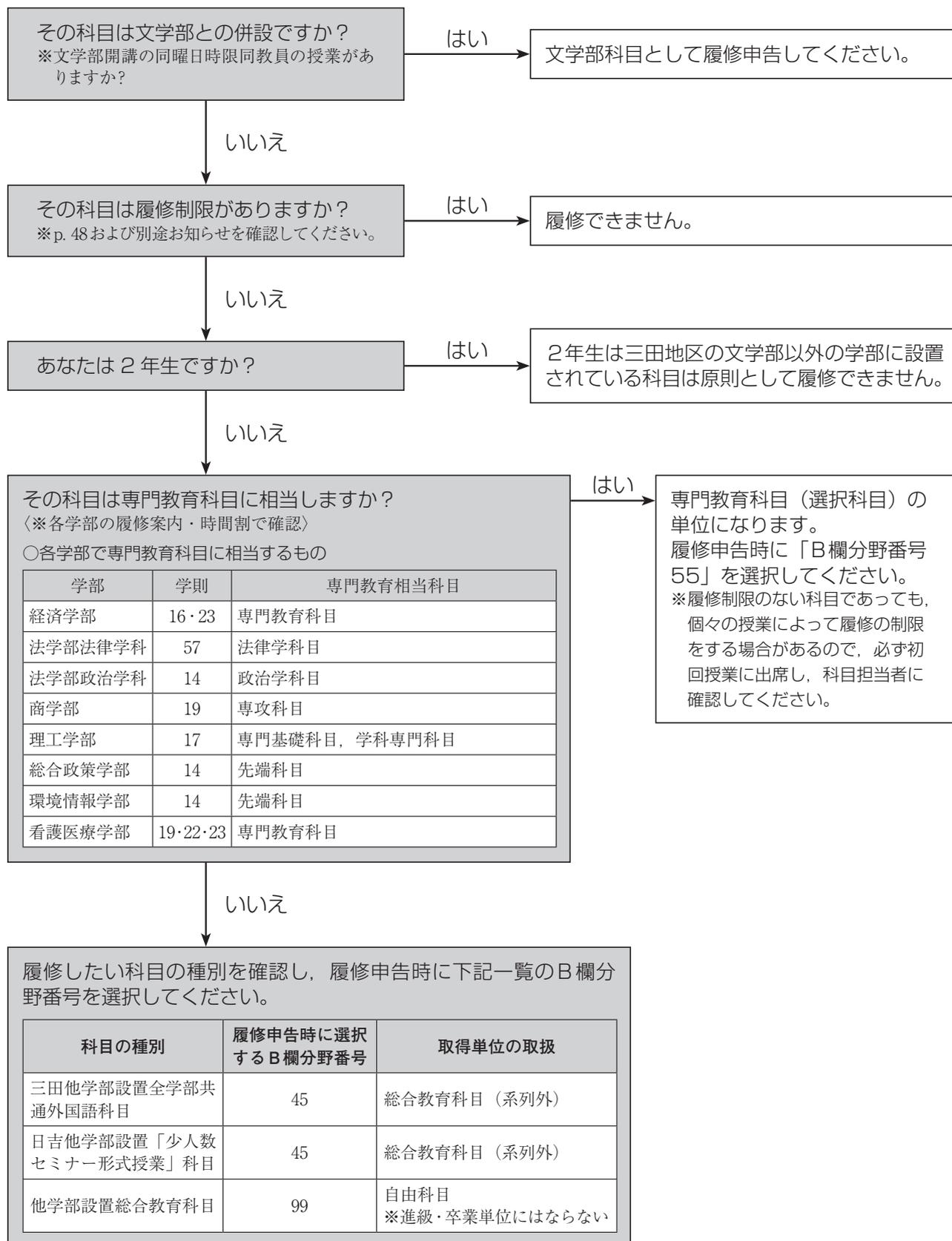
※博物館学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳを履修する際には、学費とは別に実習費が必要となります。詳細は、上記 Web ページを参照してください。

〈11学則〉【学芸員資格取得に必要な科目】注：()内は単位数を表す。

種類	授業科目名 (単位)	必要単位	時間割設置	
必修科目	必修	生涯学習概論 (2)	2 単位	全専攻共通科目
		博物館学概論Ⅰ (2)	2 単位	
		博物館学概論Ⅱ (2)	2 単位	
		博物館と教育 (2)	2 単位	
		博物館情報メディア論 (2)	2 単位	
		博物館学実習Ⅰ (1)	1 単位	
		博物館学実習Ⅱ (1)	1 単位	
		博物館学実習Ⅲ (1)	1 単位	
	博物館学実習Ⅳ (1)	1 単位		
	選択必修	博物館経営論 (2)	このうち 2 単位	
		アート・マネジメントⅠ (2)		
		アート・マネジメントⅡ (2)		
		博物館資料論Ⅰ (2)	このうち 2 単位	
		博物館資料論Ⅱ (2)		
		博物館資料保存論Ⅰ (2)	このうち 2 単位	
		博物館資料保存論Ⅱ (2)		
		博物館展示論Ⅰ (2)	このうち 2 単位	
博物館展示論Ⅱ (2)				
選択科目	博物館学特論Ⅰ (2)	このうち 6 科目 12 単位	全専攻共通科目	
	博物館学特論Ⅱ (2)			
	博物館学特論Ⅲ (2)			
	博物館学特論Ⅳ (2)			
	博物館学特論Ⅴ (2)			
	博物館学特論Ⅵ (2)			
	博物館美術館の現在 (2)			
	アート・プロデュースⅠ (2)		美学美術史学専攻	
	アート・プロデュースⅡ (2)			
	東洋美術史概説Ⅰ A (2)			
	東洋美術史概説Ⅱ A (2)			
	東洋美術史概説Ⅰ B (2)			
	東洋美術史概説Ⅱ B (2)			
	西洋美術史概説Ⅰ A (2)			
	西洋美術史概説Ⅱ A (2)			
	西洋美術史概説Ⅰ B (2)			
	西洋美術史概説Ⅱ B (2)			
	考古学Ⅰ (2)			民族学考古学専攻
	考古学Ⅱ (2)			
	民族学Ⅰ (2)			
民族学Ⅱ (2)				

5 他学部設置科目の履修について

他学部設置科目の履修希望者は、以下のフローチャートに従って履修申請してください。



6 諸研究所・センター設置科目の履修

諸研究所・センター設置科目を履修する場合、科目の扱いが異なりますので、以下の表と参照ページをよく読んで、履修申告してください。また、履修の手続に関しては各研究所設置講座の履修要項、「講義要綱・シラバス」およびガイダンス等を参考にしてください。ガイダンスの情報は p. 8 を参照してください。

授業科目・講座の設置	地区	科目扱い	履修方法	備考
体育研究所	三田	総合教育科目(系列外)	A欄申告	総合教育科目(系列外)として履修できるのは合計4単位まで
	日吉	総合教育科目(系列外)	A欄申告	
国際センター	三田	専門教育科目(選択)	A欄申告	春季・夏季在外研修は総合教育科目(系列外) ※1, ※2
	日吉	総合教育科目(系列外)	A欄申告	
教養研究センター	日吉	総合教育科目(系列外)	A欄申告	
外国語教育研究センター 特設科目	三田・日吉	総合教育科目(系列外)	A欄申告	海外研修プログラムは総合教育科目(系列外)に含まれる。※2
外国語教育研究センター オープン科目	日吉	自由科目 総合教育科目(系列外)	A欄申告	フランス語のみ総合教育科目(系列外) それ以外の語種は自由科目
保健管理センター	三田・日吉	総合教育科目(系列外)	A欄申告	
福澤研究センター	三田	専門教育科目(選択)	A欄申告	
	日吉	総合教育科目(系列外)	A欄申告	
教職課程センター	全地区	専門教育科目(選択)	A欄申告	教職課程センターにおける教職課程登録が必要 一部の科目は自由科目扱い
言語文化研究所	三田	専門教育科目(選択)	A欄申告	
斯道文庫	三田	専門教育科目(選択)	A欄申告	
メディア・コミュニケーション研究所	三田・日吉	専門教育科目(選択)	A欄申告	研究生になるためには手続が必要
研究連携推進本部	三田	専門教育科目(選択)	A欄申告	
グローバルリサーチイン スティテュート	三田	自由科目	A欄申告	
学生総合センター	三田	総合教育科目(系列外)	A欄申告	
ミュージアム・コモンズ	三田	専門教育科目(選択)	A欄申告	
アート・センター	三田	自由科目	A欄申告	

※1 2月～3月の研修の単位は、翌年度の単位として認定されます。なお、今年度に卒業・退学した者については、単位として認定されません。

※2 国際センター・外国語教育研究センターで登録番号を確認して、履修申告してください。履修申告がない場合は、単位は取得できません。

文学部では学則の他に専攻ごとに専攻内規を定めています。各自、所属する専攻の内規を熟読の上、不明な点がある場合は、履修申告の前に、専攻担任に必ず相談してください。

【目次】

哲 学 専 攻	52
倫理学専攻(第2・第3学年在籍者)	54
倫理学専攻(第4学年在籍者)	56
美学美術史学専攻	58
日 本 史 学 専 攻	61
東 洋 史 学 専 攻	63
西 洋 史 学 専 攻	66
民族学考古学専攻	68
国 文 学 専 攻	70
中 国 文 学 専 攻	73
英 米 文 学 専 攻	75
独 文 学 専 攻	78
仏 文 学 専 攻	80
図書館・情報学専攻	83
社 会 学 専 攻	85
心 理 学 専 攻	88
教 育 学 専 攻	90
人 間 科 学 専 攻	92

【共通 専攻内規における科目の定義】

進級条件科目とは、次学年に進級するために必ず履修し、単位を修得しなければならない科目である。

卒業要件科目とは、卒業するために必ず履修し、単位を修得しなければならない科目である。

学年指定科目とは、指定された学年において履修しなければならないが、単位修得が進級条件とはならない科目である。学年指定科目を修得できなかった場合、上位学年で再度履修することができる。また、学年指定科目は、指定された学年より下位の学年で履修することはできない。

学年推奨科目とは、その学年においての履修が推奨される科目である。

【専攻変更】

原則として認められません。ただし、真にやむを得ない理由がある場合に限り、教授会の議を経て認められることがあります。やむを得ない理由がある場合には、学生部文学部担当に申し出て指示を受けてください。

履修申告欄 (A欄・B欄) (2・3・4年生)

履修申告欄は、A欄・B欄によって構成されています。どちらの欄で申告するかは下記のとおりです。

1 通常はA欄にて履修申告してください。

2 B欄での履修申告は、変則的な履修をする場合に行います。B欄分野番号(2桁の数字)を使って、どの分野の単位として履修申告するかを、学則に決められた範囲内で申告することができます。

- (1) ひとつの科目に対して複数の分野が選択できる科目の場合に使用します。
- (2) B欄分野番号は、通常とは異なる変則的な履修を可能とします(自由科目の履修など)。
- (3) B欄分野番号は学部により異なります。

【注意】

- 1 学則ならびに各専攻内規により許可されている分野以外での履修は一切認められません。
- 2 ほとんどの場合、**履修申告はA欄**にて行います。例年、A欄申告できる科目にもかかわらず、B欄申告をしたことにより、誤った分野で履修してしまう例が散見されますので、くれぐれも注意してください。
- 3 **他専攻の科目を選択科目として履修申告する場合もA欄申告**になります。

【B欄による申告方法】

●全専攻共通事項

専攻	B欄 分野番号	分野コード	使用例
共通	40	20-40-20 総合教育科目 (系列外)	必修語学科目を総合教育科目(系列外)として履修する場合(2年生のみ。3・4年生は履修申告不可) ※p.33~34の「必修語学科目および総合教育科目一覧」で、総合教育科目(系列外)の「20-40-20」に分野配当されている科目(アラビア語I・II、イタリア語入門I・IIなど)はA欄申告をしてください。
共通	45	20-40-30 総合教育科目 (系列外)	他学部設置の全学部共通外国語科目(三田)を総合教育科目(系列外)として履修する場合〔2年生は履修申告不可(3・4年生設置科目のため)〕
共通	90	10-90-21 必修語学科目 (日本語)	留学生在が必修語学として日本語ⅢA・ⅣA、日本語ⅢB・ⅣBを履修する場合
共通	55	30-**-55 選択科目	他学部設置の専門教育科目を文学部の専門教育科目(選択科目)として履修する場合 〔2年生は履修申告不可(3・4年生設置科目のため)〕 ※文学部他専攻設置の専門科目はA欄申告してください。
共通	99	99-99-99 自由科目	同一科目名を重複して履修する場合、片方は自由科目として申告 (ただし、専攻内規により所定用紙の提出が求められている場合や、重複履修が認められている科目はその指示のとおり) 自由科目として申告する場合

●各専攻別内規により特に指示がある場合

専攻	B欄 分野番号	分野コード	使用例
哲学	55	30-01-55 (選択科目)	研究会を同一学年で二つ以上履修する場合、片方は選択科目として履修 専攻において卒業に必要な単位としての重複履修が認められている科目で、過年度と担当者が異なる科目を重複履修する場合(ただし1回まで。2回以上となる場合は、自由科目として履修(B欄分野番号99))
倫理学	55	30-02-55 (選択科目)	研究会を同一学年で二つ以上履修する場合、片方は選択科目として履修 専攻において卒業に必要な単位としての重複履修が認められている科目で、過年度と担当者が異なる科目を重複履修する場合(ただし1回まで。2回以上となる場合は、自由科目として履修(B欄分野番号99))
美学美術史学	55	30-03-55 (選択科目)	専攻において卒業に必要な単位としての重複履修が認められている科目(「美学美術史学研究会」および「概説」科目を除く)で、過年度と担当者が異なる科目を重複履修する場合(ただし1回まで。2回以上となる場合は、自由科目として履修(B欄分野番号99))
東洋史学	91	10-91-21 必修語学科目 (諸国語)	アラビア語・ペルシア語・トルコ語を必修語学として履修する場合
	51	30-05-51 (指定選択科目)	研究会を同一学年で二つ以上履修する場合、片方は選択科目として履修申告
	55	30-05-55 (選択科目)	東洋史講読のうち、同一の科目名で過年度と担当者が異なる科目を重複履修する場合(ただし1回まで。2回以上となる場合は、自由科目として履修(B欄分野番号99))
西洋史学	55	30-06-55 (選択科目)	専攻において卒業に必要な単位としての重複履修が認められている科目で、過年度と担当者が異なる科目を重複履修する場合(ただし1回まで。2回以上となる場合は、自由科目として履修(B欄分野番号99))
民族考古学	55	30-07-55 (選択科目)	・研究会を同一学年で二つ以上履修する場合、片方は選択科目として履修申告 ・2年生が研究会を履修する場合
中国文学	51	30-09-51 (指定選択科目)	専攻において卒業に必要な単位としての重複履修が認められている科目で、過年度と担当者が異なる科目を重複履修する場合
仏文学	55	30-12-55 (選択科目)	研究会を第3学年次に2つ以上履修する場合は、片方は選択科目として履修
社会学	99	99-99-99 (自由科目)	3年生が4年生の研究会(Ⅲ・Ⅳ)を、4年生が3年生の研究会(I・II)を履修する場合
心理学	99	99-99-99 (自由科目)	3年生が4年生の研究会(Ⅲ・Ⅳ)を、4年生が3年生の研究会(I・II)を履修する場合
人間科学	99	99-99-99 (自由科目)	3年生が4年生の研究会(Ⅲ・Ⅳ)を、4年生が3年生の研究会(I・II)を履修する場合

哲学専攻

1 専門教育科目およびその単位数

哲学専攻における専門教育科目（必修科目および選択科目）とその単位数は次の通りである。

【授業科目系列表】

種類	分野番号	授業科目名（単位）	卒業必要単位				
			小計	合計			
必修科目	必修	30-01-11	哲学倫理学原典講読Ⅰ・Ⅱ（独）（哲学専攻用）（各2） 哲学倫理学原典講読Ⅰ・Ⅱ（仏）（哲学専攻用）（各2）	のうち2科目（4） （ただし同一語種に限る）	4単位		
		選択必修	30-01-21			哲学概論Ⅰ・Ⅱ（各2） 西洋哲学倫理学史Ⅰ・Ⅱ（各2） 西洋哲学倫理学史Ⅲ・Ⅳ（各2） 論理学入門Ⅰ・Ⅱ（各2）	のうち6科目（12）
	30-01-22		科学の哲学Ⅰ・Ⅱ（各2） 中級論理学Ⅰ・Ⅱ（各2） 知識の哲学Ⅰ・Ⅱ（各2） 形而上学Ⅰ・Ⅱ（各2） 現代論理学の諸問題Ⅰ・Ⅱ（各2） 心の哲学Ⅰ・Ⅱ（各2） 言語の哲学Ⅰ・Ⅱ（各2） 現象学Ⅰ・Ⅱ（各2） 宗教の哲学Ⅰ・Ⅱ（各2） 哲学原典研究Ⅰ・Ⅱ（独）（各2） 哲学原典研究Ⅲ・Ⅳ（仏）（各2） 哲学原典研究Ⅴ・Ⅵ（英）（各2） 哲学原典研究Ⅶ・Ⅷ（古典）（各2）	のうち10科目（20）	20単位		
			30-01-23			哲学倫理学特殊ⅠA～ⅠN・ⅡA～ⅡN（各2）…のうち4科目（8）	
		研究会	30-01-31			哲学研究会Ⅰ・Ⅱ（各1）	4単位
			30-01-32			哲学研究会Ⅲ・Ⅳ（各1）	
	卒試	30-01-41	卒業試験（卒業論文）				
選択科目	30-01-55	大学設置（学部学則第35条3項参照）の専門教育科目 哲学専攻設置の次の科目を含めることができる 印度哲学Ⅰ・Ⅱ（各2）		24単位以上			

2 必修科目

必修科目として、上に掲げた授業科目系列表に示された48単位を、以下の条件を満たしつつ、卒業までに修得し、かつ卒業試験に合格しなければならない。

分野番号30-01-11, 30-01-21の科目群を「基礎コース」の科目とする。

分野番号30-01-22, 30-01-23の科目群を「専門コース」の科目とする。

注)「進級条件科目」,「卒業要件科目」,「学年指定科目」,「学年推奨科目」の定義は、50ページを確認すること。

【第2学年】

<進級条件科目>

「哲学倫理学原典講読Ⅰ・Ⅱ」のうち同一語種の2科目（倫理学専攻設置の「哲学倫理学原典講読Ⅰ・Ⅱ（独）（仏）（倫理学専攻用）」は含まれない）。

＜学年推奨科目＞

基礎コースの科目はこの学年で履修することが望ましい。

【第3学年】

＜学年指定科目＞

「哲学研究会Ⅰ・Ⅱ」(同一担当者のもの)

進級条件科目ではないが、研究会Ⅰ・Ⅱを必修科目として履修し、その単位を修得していないと、第4学年次で「哲学研究会Ⅲ・Ⅳ」の履修が認められない。

※「哲学研究会Ⅰ・Ⅱ」を2組以上履修する場合は1組を必修科目(A欄)として履修申告し、他は選択科目(B欄55)として履修申告すること。

＜学年推奨科目＞

専門コースの科目をこの学年で履修することが望ましい。

【第4学年】

＜卒業要件科目＞

「哲学研究会Ⅲ・Ⅳ」(同一担当者のもの)、「卒業試験(卒業論文)」

第3学年次に必修科目として履修した「哲学研究会Ⅰ・Ⅱ」の単位を修得していないと、「哲学研究会Ⅲ・Ⅳ」の履修は認められない。なお、第3学年次に必修科目として履修した研究会と同じ担当者の研究会を2年継続して履修しなくともよい。

卒業試験は卒業論文によって行い、必修科目として履修する研究会の担当教員に提出する。4年生は文学部卒業試験時間割に記載されている研究会担当教員の「卒業試験(卒業論文)」を必ず履修申告すること(研究会とは別の登録番号)。

※「哲学研究会Ⅲ・Ⅳ」を2組以上履修する場合は、1組を必修科目(A欄)として履修申告し、他は選択科目(B欄55)として履修申告すること。

※第4学年次で、必修科目の「哲学研究会Ⅲ・Ⅳ」の単位を修得済みで、かつ卒業論文を残して原級に留まった場合は、必修科目として履修した「哲学研究会Ⅲ・Ⅳ」の担当教員の「卒業試験(卒業論文)」を履修申告し、その教員の指導のもとに卒業論文を作成すること。なお、当該年度に担当教員が不在である等の特別な事情がある場合は、必ず事前に専攻担任に相談の上その指示に従うこと。

＜学年推奨科目＞

専門コースの科目をこの学年で履修することが望ましい。

3 選択科目

- (1) 選択科目として、本大学設置の専門教育科目24単位以上を卒業までに修得しなければならない。(36～40ページを参照)
- (2) 「印度哲学Ⅰ・Ⅱ」は哲学専攻設置の選択科目である。

4 履修上の注意

- (1) ひとつのグループから一定数の科目を履修するよう指定された科目(分野30-01-21・30-01-22・30-01-23)を、指定数を超過して履修(A欄申告)した場合は選択科目とみなし、修得した単位は卒業単位として取り扱う。
※この場合、学業成績表上では元の分野番号欄に表示されるが、選択科目とみなされる。
- (2) 単位修得済科目の重複履修は、授業科目系列表内の必修科目(倫理学専攻設置のものを含む)に限り、以下のとおりとする。
卒業に必要な単位としての重複履修は、各科目1回までとする。重複履修が2回以上となる場合は、自由科目(B欄99)として履修すること。
A. 同一科目名で担当者が異なる場合は、重複履修を1回まで認め、選択科目(B欄55)として取り扱う。
B. 同一科目名・同一担当者の場合については、選択科目としての履修を許可する科目を、履修申告前に別途Web等に掲示する。許可する科目のリストにないものは、自由科目として履修申告すること。
- (3) 専門コースで「中級論理学Ⅰ・Ⅱ」、「現代論理学の諸問題Ⅰ・Ⅱ」を履修する予定の者は先に基礎コースで「論理学入門Ⅰ・Ⅱ」を履修しておくこと。

倫理学専攻

<第2・第3学年在籍者>

1 専門教育科目およびその単位数

倫理学専攻における専門教育科目（必修科目および選択科目）とその単位数は次の通りである。

【授業科目系列表】

種類	分野番号	授業科目名 (単位)	卒業必要単位		
			小計	合計	
必修科目	30-02-11	倫理学概論Ⅰ・Ⅱ (各2)	4 単位	48 単位	
	30-02-12	哲学倫理学原典講読Ⅰ・Ⅱ (独) (倫理学専攻用) (各2) 哲学倫理学原典講読Ⅰ・Ⅱ (仏) (倫理学専攻用) (各2) (ただし同一語種に限る)	4 単位		
	30-02-13	西洋哲学倫理学史Ⅰ～Ⅳ (各2)	8 単位		
	30-02-20	倫理学の課題Ⅰ～Ⅳ (各2) のうち2科目 (4)	4 単位		
	30-02-21	倫理学洋書講読Ⅰ～Ⅵ (各2) 哲学概論Ⅰ・Ⅱ (各2) 哲学倫理学特殊ⅠA～ⅠN・ⅡA～ⅡN (各2) } のうち10科目 (20)	20 単位		
	30-02-22	日本倫理思想Ⅰ・Ⅱ (各2) 東洋倫理思想Ⅰ・Ⅱ (各2) キリスト教概論Ⅰ・Ⅱ (各2) 仏教学概論Ⅰ・Ⅱ (各2) [全専攻共通科目] } のうち2科目 (4)	4 単位		
	30-02-31	倫理学研究会Ⅰ・Ⅱ (各1)	4 単位		
	30-02-32	倫理学研究会Ⅲ・Ⅳ (各1)			
	卒試	30-02-41	卒業試験 (卒業論文)		
	選択科目	30-02-55	大学設置 (学部学則第35条3項参照) の専門教育科目		24 単位以上

2 必修科目

必修科目として、上に掲げた授業科目系列表に示された48単位を、以下の条件を満たしつつ、卒業までに修得し、かつ卒業試験に合格しなければならない。

注) 「進級条件科目」, 「卒業要件科目」, 「学年指定科目」, 「学年推奨科目」の定義は、50ページを確認すること。

【第2学年】

<進級条件科目>

「哲学倫理学原典講読Ⅰ・Ⅱ」

本科目の主な目的は、研究会で使用する英語以外の外国語（ドイツ語・フランス語）の修得であることから、以下のとおり履修すること。

①哲学専攻設置の「哲学倫理学原典講読Ⅰ・Ⅱ (哲学専攻用)」は含まれない。

②日吉でドイツ語・フランス語を履修した者

：同一語種を選択することを原則とする。

③日吉でドイツ語・フランス語以外を履修した者

：ドイツ語・フランス語のうちから、自分が研究したい領域の言語の原典講読を選択すること。

<学年指定科目>

「倫理学概論Ⅰ・Ⅱ」, 「西洋哲学倫理学史Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」はすべて第2学年で履修しなくてはならない。

【第3学年】

＜進級条件科目＞

「倫理学研究会Ⅰ・Ⅱ」

同一担当者の研究会を、原則として、第3・4学年の2年間継続して、必修科目として履修すること（第2学年では履修することはできない）。

※「倫理学研究会Ⅰ・Ⅱ」を2組以上履修する場合は1組を必修科目として履修申告し（A欄）、他は選択科目として履修申告（B欄55）すること。

【第4学年】

＜卒業要件科目＞

「倫理学研究会Ⅲ・Ⅳ」, 「卒業試験（卒業論文）」

同一担当者の研究会を、原則として、第3・4学年の2年間継続して、必修科目として履修すること。

卒業試験は卒業論文によって行い、必修科目として履修する研究会の担当教員に提出する。4年生は文学部卒業試験時間割に記載されている「卒業試験（卒業論文）」を必ず履修申告すること（研究会とは別の登録番号）。

※「倫理学研究会Ⅲ・Ⅳ」を2組以上履修する場合は1組を必修科目として履修申告し（A欄）、他は選択科目として履修申告（B欄55）すること。

3 選択科目

選択科目として、本大学設置の専門教育科目24単位以上を卒業までに修得しなければならない。（36～40ページを参照）

4 履修上の注意

- (1) 必修科目のなかで、ひとつのグループから一定数の科目を履修するように指定された科目（分野30-02-21・30-02-22）を、指定単位数を超えて履修（A欄申告）した場合は、選択科目とみなし、修得した単位は卒業単位として取り扱う。
※この場合、学業成績表上では元の分野番号欄に表示されるが、選択科目とみなされる。
- (2) 単位修得済科目の重複履修は、分野番号30-02-11から30-02-22までのうち、30-02-12を除き、以下のとおりとする（分野番号30-02-12の科目は卒業に必要な単位としての重複履修を認めない）。
卒業に必要な単位としての重複履修は、各科目1回までとする。重複履修が2回以上となる場合は、自由科目として履修すること（B欄99）。
A. 同一科目名で担当者が異なる場合は、重複履修を1回まで認め、選択科目として取り扱う（B欄55）。研究会（分野番号30-02-31, 30-02-32）の重複履修については、上記を参照のこと。
B. 同一科目名・同一担当者の場合については、選択科目としての履修を許可する科目を、履修申告前に別途Web等に掲示する。許可する科目のリストにないものは、自由科目として履修申告すること。
- (3) 本規定に照らして専攻担任の許可を必要とする者は、履修申告の前に専攻担任に申し出ること。

倫理学専攻

<第4学年在籍者>

1 専門教育科目およびその単位数

倫理学専攻における専門教育科目（必修科目および選択科目）とその単位数は次の通りである。

【授業科目系列表】

種類	分野番号	授業科目名 (単位)	卒業必要単位	
			小計	合計
必修科目	必修	30-02-11 倫理学概論Ⅰ・Ⅱ (各2) 倫理学の基礎Ⅰ・Ⅱ (各2)	8 単位	40 単位
		30-02-12 哲学倫理学原典講読Ⅰ・Ⅱ (英) (倫理学専攻用) (各2) 哲学倫理学原典講読Ⅰ・Ⅱ (独) (倫理学専攻用) (各2) 哲学倫理学原典講読Ⅰ・Ⅱ (仏) (倫理学専攻用) (各2)	4 単位 のうち 2 科目 (4) (ただし同一語種に限る)	
		30-02-13 西洋哲学倫理学史Ⅰ～Ⅳ (各2)	8 単位	
	選択必修	30-02-21 倫理学の課題Ⅰ～Ⅳ (各2) 倫理学洋書講読Ⅰ・Ⅱ (各2) 哲学概論Ⅰ・Ⅱ (各2) 哲学倫理学特殊ⅠA～ⅠN・ⅡA～ⅡN (各2)	12 単位 のうち 6 科目 (12)	
		30-02-22 日本倫理思想Ⅰ・Ⅱ (各2) 東洋倫理思想Ⅰ・Ⅱ (各2) キリスト教概論Ⅰ・Ⅱ (各2) 仏教学概論Ⅰ・Ⅱ (各2) [全専攻共通科目]	4 単位 のうち 2 科目 (4)	
	研究会	30-02-31 倫理学研究会Ⅰ・Ⅱ (各1)	4 単位	
		30-02-32 倫理学研究会Ⅲ・Ⅳ (各1)		
	卒試	30-02-41 卒業試験 (卒業論文)		
	選択科目	30-02-55 大学設置 (学部学則第 35 条 3 項参照) の専門教育科目	32 単位以上	

2 必修科目

必修科目として、上に掲げた授業科目系列表に示された 40 単位を、以下の条件を満たしつつ、卒業までに修得し、かつ卒業試験に合格しなければならない。

注) 「進級条件科目」, 「卒業要件科目」, 「学年指定科目」, 「学年推奨科目」の定義は、50 ページを確認すること。

【第2学年】

<学年指定科目>

「倫理学概論Ⅰ・Ⅱ」, 「倫理学の基礎Ⅰ・Ⅱ」, 「哲学倫理学原典講読Ⅰ・Ⅱ」, 「西洋哲学倫理学史Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」以上の科目はすべて第2学年で履修しなくてはならない。

※哲学倫理学原典講読について

本科目の主な目的は、研究会で使用する英語以外の外国語（ドイツ語・フランス語）の修得であることから、以下のとおり履修すること。

①哲学専攻設置の「哲学倫理学原典講読Ⅰ・Ⅱ (独) (仏) (哲学専攻用)」は含まれない。

②日吉でドイツ語・フランス語を履修した者

：同一語種を選択することを原則とし、英語を選択することはできない。

③日吉でドイツ語・フランス語以外を履修した者

：ドイツ語・フランス語・英語のうちから、自分が研究したい領域の言語の原典講読を選択すること。

【第3学年】

＜進級条件科目＞

「倫理学研究会Ⅰ・Ⅱ」

同一担当者の研究会を、原則として、第3・4学年の2年間継続して、必修科目として履修すること（第2学年では履修することはできない）。

※「倫理学研究会Ⅰ・Ⅱ」を2組以上履修する場合は1組を必修科目として履修申告し（A欄）、他は選択科目として履修申告（B欄55）すること。

【第4学年】

＜卒業要件科目＞

「倫理学研究会Ⅲ・Ⅳ」, 「卒業試験（卒業論文）」

同一担当者の研究会を、原則として、第3・4学年の2年間継続して、必修科目として履修すること。

卒業試験は卒業論文によって行い、必修科目として履修する研究会の担当教員に提出する。4年生は文学部卒業試験時間割に記載されている「卒業試験（卒業論文）」を必ず履修申告すること（研究会とは別の登録番号）。

※「倫理学研究会Ⅲ・Ⅳ」を2組以上履修する場合は1組を必修科目として履修申告し（A欄）、他は選択科目として履修申告（B欄55）すること。

3 選択科目

選択科目として、本大学設置の専門教育科目32単位以上を卒業までに修得しなければならない。（36～40ページを参照）

4 履修上の注意

- (1) 必修科目のなかで、ひとつのグループから一定数の科目を履修するように指定された科目（分野30-02-21・30-02-22）を、指定単位数を超えて履修（A欄申告）した場合は、選択科目とみなし、修得した単位は卒業単位として取り扱う。

※この場合、学業成績表上では元の分野番号欄に表示されるが、選択科目とみなされる。

- (2) 単位修得済科目の重複履修は、分野番号30-02-11から30-02-22までのうち、30-02-12を除き、以下のとおりとする（分野番号30-02-12の科目は卒業に必要な単位としての重複履修を認めない）。

卒業に必要な単位としての重複履修は、各科目1回までとする。重複履修が2回以上となる場合は、自由科目として履修すること（B欄99）。

A. 同一科目名で担当者が異なる場合は、重複履修を1回まで認め、選択科目として取り扱う（B欄55）。研究会（分野番号30-02-31、30-02-32）の重複履修については、上記を参照のこと。

B. 同一科目名・同一担当者の場合については、選択科目としての履修を許可する科目を、履修申告前に別途Web等に掲示する。許可する科目のリストにないものは、自由科目として履修申告すること。

- (3) 倫理学の基礎について

「倫理学の基礎Ⅰ・Ⅱ」を修得しておらず、今年度履修する者は、必ず「倫理学の基礎Ⅰ・Ⅱ」の登録番号で履修申告すること（なお、「倫理学の基礎Ⅰ・Ⅱ」と「倫理学洋書講読Ⅲ・Ⅳ」は併設科目であるが、登録番号が異なるので注意すること）。

- (4) 哲学倫理学原典講読（英）について

「哲学倫理学原典講読Ⅰ・Ⅱ（英）」を修得しておらず、今年度履修する者は、必ず「哲学倫理学原典講読Ⅰ・Ⅱ（英）」の登録番号で履修申告すること（なお、「哲学倫理学原典講読Ⅰ・Ⅱ（英）」と「倫理学洋書講読Ⅴ・Ⅵ」は併設科目であるが、登録番号が異なるので注意すること）。

- (5) 本規定に照らして専攻担任の許可を必要とする者は、履修申告の前に専攻担任に申し出ること。

美学美術史学専攻

1 専門教育科目およびその単位数

美学美術史学専攻における専門教育科目（必修科目および選択科目）とその単位数は次の通りである。

【授業科目系列表】 ※[要]: 要件科目(定義は31ページを確認すること)

種類	分野番号	授業科目名(単位)	卒業必要単位		
			小計	合計	
必修科目	必修	30-03-11 芸術研究基礎Ⅰ・Ⅱ(各1)	2単位	38単位	
		30-03-12 [要]美学美術史学原典講読Ⅰ(A)~(F)・Ⅱ(A)~(F)(英)(各1) [要]美学美術史学演習Ⅰ(A)~(D)・Ⅱ(A)~(D)(各1)	4単位		
		30-03-13 [要]美学美術史学原典講読Ⅲ・Ⅳ(独・仏・伊・日)(各1)	2単位		
		30-03-14 美学概論Ⅰ・Ⅱ(各2) 芸術学A~Fのうち1科目(2)	6単位		
	選択必修	30-03-21 東洋美術史概説ⅠA~B・ⅡA~B(各2)	} のうち6科目(12)※		12単位
		30-03-22 西洋美術史概説ⅠA~B・ⅡA~B(各2)			
		30-03-23 西洋音楽史概説ⅠA~B・ⅡA~B(各2)			
		30-03-24 美学特殊ⅠA~E・ⅡA~E(各2) 美術史特殊ⅠA~L・ⅡA~L(各2) 音楽史特殊ⅠA~E・ⅡA~E(各2)	} のうち2科目(4)		4単位
		30-03-25 アート・マネジメントⅠ・Ⅱ(各2) [全専攻共通科目] アート・プロデュースⅠ・Ⅱ(各2) [全専攻共通科目]	} のどちらか1種類 で2科目(4)		4単位
	研究会	30-03-31 美学美術史学研究会Ⅰ・Ⅱ(各1)のうち2科目(2)	2単位		
		30-03-32 美学美術史学研究会Ⅲ・Ⅳ(各1)のうち2科目(2)	2単位		
	卒試	30-03-41 卒業試験(卒業論文)			
	選択科目	30-03-55 大学設置(学部学則第35条3項参照)の専門教育科目			34単位以上

※東洋美術史, 西洋美術史, 西洋音楽史の概説3種類のうちから2つ以上の種類にわたって修得すること(1種類につき計8単位までを必修単位として認める)。

2 必修科目

必修科目として, 上に掲げた授業科目系列表に示された38単位を, 以下の条件を満たしつつ, 卒業までに修得し, かつ卒業試験に合格しなければならない。

注)「進級条件科目」, 「卒業要件科目」, 「学年指定科目」, 「学年推奨科目」の定義は, 50ページを確認すること。

【第2学年】

<学年指定科目>

「芸術研究基礎Ⅰ・Ⅱ」, 「美学美術史学原典講読Ⅰ・Ⅱ」, 「美学美術史学演習Ⅰ・Ⅱ」

- ・「美学美術史学原典講読Ⅰ・Ⅱ」のクラス分けは, 別に発表する。自分のクラスを確認の上, 履修申告すること。
- ・「美学美術史学演習ⅠA~D」と「同ⅡA~D」は同じアルファベットの授業を履修すること。

【第3学年】

<進級条件科目>

「美学美術史学研究会Ⅰ」, 「美学美術史学研究会Ⅱ」(組み合わせに条件あり)

進級のためには、原則として同一担当者による「美学美術史学研究会Ⅰ」と「同Ⅱ」の2科目2単位を必修科目として修得しなければならないが、留学など特別な事情のある場合にのみ、「美学美術史学研究会Ⅰ」と異なる担当者による「同Ⅰ」の2科目2単位を必修科目として修得すれば進級を認める。研究会を履修する場合、学年初めに必ず各研究会の担当教員に面接し、履修の許可を得なければならない。なお、研究会は第2学年次では履修できない。

<学年推奨科目>

「美学美術史学原典講読Ⅲ・Ⅳ」, 「アート・マネジメントⅠ・Ⅱ」, 「アート・プロデュースⅠ・Ⅱ」

これらの科目は本学年で履修することが望ましい。

「美学美術史学原典講読Ⅲ・Ⅳ」のうち、独語・仏語・伊語については、原則として、第1・2学年次に履修した第2外国語と同じ語種の授業を選択すること。ただし、本授業と並行して別に初等文法を学ぶことを条件に未修者についても履修を認める。日本語については、研究上特に近世以前の日本語原典の読解能力の修得を必要とする者、第2外国語として独語・仏語・伊語以外の語種を履修した者、あるいは、すでに「美学美術史学原典講読Ⅲ・Ⅳ」の日本語以外の授業を履修した者（重複履修）、これらのいずれかに該当する者にも履修を認める。なお、「美学美術史学原典講読Ⅲ」と「同Ⅳ」は同一語種で履修すること。また、いずれの語種についても、学年初めに必ず担当教員から履修の許可を得なければならない。

【第4学年】

<卒業要件科目>

「美学美術史学研究会Ⅲ」, 「美学美術史学研究会Ⅳ」(組み合わせに条件あり), 「卒業試験(卒業論文)」

卒業のためには、原則として同一担当者による「美学美術史学研究会Ⅲ」と「同Ⅳ」の2科目2単位を必修科目として修得しなければならないが、留学など特別な事情のある場合にのみ、「美学美術史学研究会Ⅳ」と異なる担当者による「同Ⅳ」の2科目2単位を必修科目として修得すれば卒業要件(一部)として認める。研究会を履修する場合、学年初めに必ず各研究会の担当教員に面接し、履修の許可を得なければならない。

卒業試験は卒業論文によって行い、必修として履修した「美学美術史学研究会Ⅲ・Ⅳ」(特別な事情のある場合にのみ異なる担当者による2つの「美学美術史学研究会Ⅳ」のいずれか)の担当教員による「卒業試験(卒業論文)」(研究会とは別の登録番号が文学部卒業試験時間割に記載されている)を必ず履修し、その担当教員(指導教授)に卒業論文を提出すること。

3 選択科目

選択科目として、本大学設置の専門教育科目34単位以上を卒業までに修得しなければならない。(36~40ページを参照)

4 履修上の注意

- (1) 「芸術研究基礎Ⅰ・Ⅱ」は、原則として本専攻第2学年次の学生のみが履修を認められる科目であり、第2学年次に単位を修得できなかった者についてのみ第3学年次以降での履修を認める。
- (2) 概説科目(「東洋美術史概説ⅠA~B・ⅡA~B」, 「西洋美術史概説ⅠA~B・ⅡA~B」, 「西洋音楽史概説ⅠA~B・ⅡA~B」)は、「東洋美術史」, 「西洋美術史」, 「西洋音楽史」の3種類の中から2種類以上にわたり、ⅠA~B・ⅡA~Bそれぞれの科目の組み合わせを問わず(ただし重複履修については下記(6)を参照)、計6科目12単位を必修とするが、そのうち1種類について、計8単位までを必修科目として認める。
- (3) 特殊科目(「美学特殊ⅠA~E・ⅡA~E」, 「美術史特殊ⅠA~L・ⅡA~L」, 「音楽史特殊ⅠA~E・ⅡA~E」)は、そのうち2科目4単位を必修とする(組み合わせは自由だが、重複履修については下記(6)を参照)。
- (4) 全専攻共通科目の「アート・マネジメントⅠ・Ⅱ」と「アート・プロデュースⅠ・Ⅱ」については、「アート・マネジメント」か「アート・プロデュース」のうち1種類2科目4単位(特別な事情のある場合を除き、「Ⅰ」と「Ⅱ」の組み合わせ)を本専攻の必修とする。

- (5) 必要単位を超えて履修した必修科目の取り扱いについて

必修科目(分野番号30-03-12から30-03-32までの科目)を指定単位数を超えて履修(A欄で申告)し、その単位を修得した場合、超過分は選択科目とみなし、卒業単位として扱う。なお必修科目について、それぞれの指定単位数をすでに充足し、次年度以降において選択科目として履修する場合も、A欄で申告すること(重複履修については下記(6)を参照)。

※この場合、学業成績表上では元の分野番号欄に表示されるが、選択科目とみなされる。

(6) 重複履修の取り扱いについて

- ① 「芸術研究基礎Ⅰ・Ⅱ」は卒業に必要な単位としての重複履修を認めない。また、他専攻の専門教育科目、全専攻共通科目は重複して履修できない。
- ② 「芸術研究基礎Ⅰ・Ⅱ」を除く美学美術史学専攻の専門教育科目については、下記Aの場合、卒業に必要な単位としての重複履修は、各科目1回までとする。重複履修が2回以上となる場合、および下記Bの場合は、自由科目として履修すること（履修申告時にB欄99を選択）。

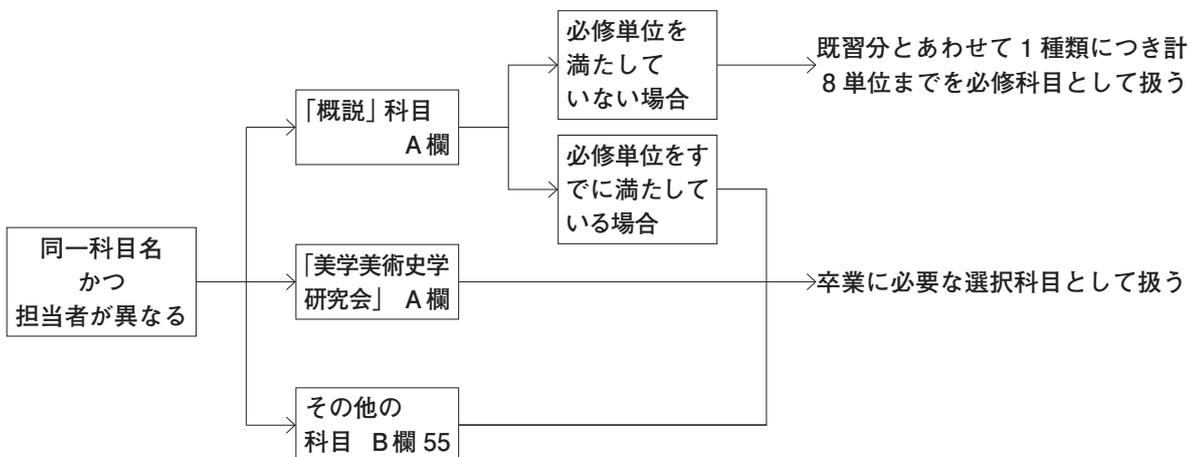
A. 同一科目名で担当者が異なる場合は、1回までの重複履修を認める〔下記補足図A〕。その際、「概説」科目以外については卒業に必要な選択科目として扱う。「概説」科目（上記(2)を参照）については、必修単位を満たしていない場合に限り、既修分と併せて1種類につき計8単位までを必修科目として扱う（「美学美術史学研究会」および「概説」科目はA欄申告とし、その他の科目は履修申告時にB欄55を選択）。

B. 同一科目名・同一担当者の場合は、自由科目として履修申告すること。

- (7) 在学中に留学を考えている者は、当該年度の履修申告に際して必ず専攻担任に相談し、留学が決まり次第学生部文学部担当に申し出ること。

上記(6) ②補足図

A. 同一科目名で担当者が異なる場合（1回までの重複分のみ）



日本史学専攻

1 専門教育科目およびその単位数

日本史学専攻における専門教育科目（必修科目および選択科目）とその単位数は次の通りである。

【授業科目系列表】 ※[セ]: セット履修科目(定義は31ページを確認すること)

種類	分野番号	授業科目名(単位)	卒業必要単位		
			小計	合計	
必修科目	必修	30-04-11 [セ] 日本史史料講読Ⅰ・Ⅱ(各1)	2単位	42単位	
		30-04-12 史学概論Ⅰ・Ⅱ(各2)	4単位		
		30-04-13 日本史概説Ⅰ～Ⅳ(各2)	8単位		
	選択必修	30-04-20	古文書学Ⅰ・Ⅱ(各2)のうち1科目(2)		2単位
			古文書学Ⅲ・Ⅳ(各2)のうち1科目(2)		2単位
		30-04-21	日本史特殊ⅠA～ⅠH・ⅡA～ⅡH(各2)のうち6科目(12)		12単位
		30-04-22	[セ] 日本史演習ⅠA～ⅠJ・ⅡA～ⅡJ(各1)のうち4科目(4)		4単位
	30-04-23	東洋史概説Ⅰ～Ⅹ(各2) [東洋史学専攻設置] 西洋史概説Ⅰ～Ⅵ(各2) [西洋史学専攻設置] 考古学Ⅰ・Ⅱ(各2) [民族学考古学専攻設置] 民族学Ⅰ・Ⅱ(各2) }のうち2科目(4)	4単位		
	研究会	30-04-31	[セ] 日本史研究会Ⅰ・Ⅱ(各1)		4単位
		30-04-32	[セ] 日本史研究会Ⅲ・Ⅳ(各1)		
卒試	30-04-41	卒業試験(卒業論文)			
選択科目	30-04-55	大学設置(学部学則第35条3項参照)の専門教育科目 日本史学専攻設置の次の科目を含めることができる 日本史洋書講読Ⅰ・Ⅱ(各1)	30単位以上		

2 必修科目

必修科目として、上に掲げた授業科目系列表に示された42単位を、以下の条件を満たしつつ、卒業までに修得し、かつ卒業試験に合格しなければならない。

注)「進級条件科目」、「卒業要件科目」、「学年指定科目」、「学年推奨科目」の定義は、50ページを確認すること。

【第2学年】

<進級条件科目>

「日本史史料講読Ⅰ・Ⅱ」

【第3学年】

<進級条件科目>

「日本史研究会Ⅰ・Ⅱ」(担当者の許可を得たもの)(第2学年では履修することができない)

<学年指定科目>

「日本史演習ⅠA～ⅠJ・ⅡA～ⅡJ」(担当者の許可を得たもの)(第2学年では履修することができない)

【第4学年】

<卒業要件科目>

「日本史研究会Ⅲ・Ⅳ」(担当者の許可を得たもの)(第2・3学年では履修することができない)

「卒業試験(卒業論文)」

卒業試験は、卒業論文によって行う。4年生は文学部卒業試験時間割に記載されている「卒業試験（卒業論文）」を必ず履修申告すること（日本史研究会Ⅲ・Ⅳとは別の登録番号がある）。

【各学年共通】

- (1) 「史学概論Ⅰ・Ⅱ」は日本史学専攻用の登録番号で登録しなければならない。
- (2) 「日本史概説Ⅰ～Ⅳ」すべてを卒業までに履修し、単位を修得しなければならない。
- (3) 「古文書学Ⅰ・Ⅱ」のうち1科目、「古文書学Ⅲ・Ⅳ」のうち1科目を卒業までに履修し、単位を修得しなければならない。
- (4) 「日本史特殊ⅠA～ⅠH・ⅡA～ⅡH」は、卒業までに6科目12単位を履修し、単位を修得しなければならない。
- (5) 「東洋史概説Ⅰ～Ⅹ」、「西洋史概説Ⅰ～Ⅵ」、「考古学Ⅰ・Ⅱ」、「民族学Ⅰ・Ⅱ」の中から2科目を卒業までに履修し、単位を修得しなければならない。
- (6) 各研究会は指定された学年で履修しなければならない。
各学年で3科目以上履修することはできない。

3 選択科目

- (1) 選択科目として、本大学設置の専門教育科目30単位以上を卒業までに修得しなければならない。(36～40ページを参照)
- (2) 「日本史洋書講読Ⅰ・Ⅱ」は日本史学専攻設置の選択科目である。

4 履修上の注意

- (1) 必要単位を超えて履修した必修科目の取り扱い
指定単位数を超えて修得した必修科目は、選択科目(30-04-55)とみなし、卒業単位として取り扱う。履修申告では、必修単位として挙げられている科目は全てA欄申告すること。
※この場合、学業成績表上では元の分野番号欄に表示されるが、選択科目とみなされる。
- (2) 重複履修の取り扱いについて
日本史学専攻以外の設置科目については、卒業に必要な単位としての重複履修を認めない。
日本史学専攻の設置科目の重複履修については、「日本史史料講読Ⅰ・Ⅱ」、「日本史研究会Ⅰ～Ⅳ」を除き、以下のとおりとする。
卒業に必要な単位としての重複履修は、各科目1回までとする。重複履修が2回以上となる場合は、自由科目として履修すること(B欄99)。
 - A. 担当者が異なる場合
同一科目名で担当者が異なる場合は、重複履修を1回まで認め、必修科目(上記(1)に該当する場合ならびに日本史洋書講読Ⅰ・Ⅱは選択科目)として取り扱う(A欄申告)。
 - B. 担当者が同じ場合
同一科目名・同一担当者の場合は、自由科目として履修すること(B欄99)。

東洋史学専攻

1 専門教育科目およびその単位数

東洋史学専攻における専門教育科目（必修科目および選択科目）とその単位数は次の通りである。

【授業科目系列表】 ※[要]：要件科目(定義は31ページを確認すること)

種類	分野番号	授業科目名(単位)	卒業必要単位		
			小計	合計	
必修科目	30-05-11	[要] 東洋史研究入門Ⅰ・Ⅱ(各1)	2単位	40単位	
	30-05-12	[要] 東洋史講読ⅠA～ⅠE(各1)のうち1科目 [要] 東洋史講読ⅡA～ⅡE(各1)のうち1科目	2単位		
	30-05-13	東洋史概説Ⅰ～Ⅹ(各2)のうち6科目(12)	12単位		
	30-05-21	東洋史特殊ⅠA～ⅠV・ⅡA～ⅡV(各2)のうち8科目(16)	16単位		
	30-05-22	史学概論Ⅰ・Ⅱ(各2)[史学系設置科目] 日本史概説Ⅰ～Ⅳ(各2)[日本史学専攻設置] 西洋史概説Ⅰ～Ⅵ(各2)[西洋史学専攻設置] }のうち2科目(4)	4単位		
	30-05-31	[要] 東洋史研究会Ⅰ(A)～(F)・Ⅱ(A)～(F)(各1)のうち2科目(2)	2単位		
	30-05-32	[要] 東洋史研究会Ⅲ(A)～(F)・Ⅳ(A)～(F)(各1)のうち2科目(2)	2単位		
卒試	30-05-41	卒業試験(卒業論文)			
選択科目	指定選択	30-05-51	必修科目として履修しない 東洋史特殊ⅠA～ⅠV・ⅡA～ⅡV(各2) [要] 東洋史研究会Ⅰ(A)～(F)・Ⅱ(A)～(F)(各1) [要] 東洋史研究会Ⅲ(A)～(F)・Ⅳ(A)～(F)(各1)	合計12単位まで含めることができる	32単位以上
	選択科目	30-05-55	大学設置(学部学則第35条3項参照)の専門教育科目 東洋史学専攻設置の次の科目を含めることができる 東洋史演習ⅠA～ⅠC・ⅡA～ⅡC(各1)		

2 必修科目

必修科目として、上に掲げた授業科目系列表に示された40単位を、以下の条件を満たしつつ、卒業までに修得し、かつ卒業試験に合格しなければならない。

注)「進級条件科目」、「卒業要件科目」、「学年指定科目」、「学年推奨科目」の定義は、50ページを確認すること。

【第2学年】

<進級条件科目>

「東洋史研究入門Ⅰ・Ⅱ」

※必修語学科目の変更について

第2学年において必修語学科目のうち1語種をアラビア語、ペルシア語、トルコ語のうちいずれかひとつの語種に変更することができるが、同一語種を4科目(4単位)履修し、単位修得しなければならない(いずれもB欄91)

- ① アラビア語とトルコ語：文学部設置のアラビア語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、またはトルコ語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳを履修し、かつ単位修得しなければならない。
- ② ペルシア語：2科目は文学部設置のペルシア語Ⅰ・Ⅱを、もう2科目は言語文化研究所特殊講座のペルシア語初級Ⅰ・Ⅱを履修し、かつ単位修得しなければならない。

【第3学年】**＜進級条件科目＞**

「東洋史講読ⅠA～ⅠE」のうち1科目、「東洋史講読ⅡA～ⅡE」のうち1科目
 「東洋史研究会Ⅰ(A)～(F)」のうち1科目、「東洋史研究会Ⅱ(A)～(F)」のうち1科目
 東洋史講読の履修については次項【各学年共通】(1)を参照すること。
 研究会の履修については次項【各学年共通】(3)を参照すること。

【第4学年】**＜卒業要件科目＞**

「東洋史研究会Ⅲ(A)～(F)」のうち1科目、「東洋史研究会Ⅳ(A)～(F)」のうち1科目、「卒業試験(卒業論文)」
 研究会の履修については次項【各学年共通】(3)を参照すること。
 卒業試験は卒業論文によって行う。第4学年は文学部卒業試験時間割に記載されている「卒業試験(卒業論文)」
 を必ず履修申告すること(研究会とは別の登録番号がある)。

【各学年共通】

- (1) 「東洋史講読ⅠA～ⅠE」のうち1科目、「東洋史講読ⅡA～ⅡE」のうち1科目を第2学年または第3学年において必修科目として履修し、かつ単位修得しなければならない。「東洋史講読ⅠA～ⅠE」と「東洋史講読ⅡA～ⅡE」は同一担当者の科目を履修すること。
- (2) 「史学概論Ⅰ・Ⅱ」は東洋史学専攻用の登録番号で登録しなければならない。
- (3) 「東洋史研究会」
 「東洋史研究会Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」は同一担当者の科目を第3・4学年においてそれぞれ必修科目の単位として2科目ずつ2年間連続して履修することを原則とする。ただし、以下の場合を認める。
 - ① 事情により第3学年に選択科目として単位修得した「東洋史研究会Ⅰ・Ⅱ」と同一担当者の「東洋史研究会Ⅲ・Ⅳ」を第4学年において必修科目として履修し、その担当者の「卒業試験(卒業論文)」を履修申告することもできる。
 - ② 第2学年で履修することも可能。履修する場合は、自由科目として履修申告すること(B欄99)。
 - ③ 同一学年において4科目以上履修することをさまたげないが、その場合、2科目を必修科目として履修し(30-05-31または32)、残りは指定選択科目(30-05-51)としなければならない(B欄51)。
 ただし、第2学年は②のとおりとする。また、第3学年で4科目(4単位)を修得しても卒業要件を満たさない。

3 選択科目

- (1) 選択科目として、本大学設置の専門教育科目32単位以上を卒業までに修得しなければならない。(36～40ページを参照)
- (2) 「東洋史演習ⅠA～ⅠC・ⅡA～ⅡC」は東洋史学専攻設置の選択科目である。
- (3) 指定選択科目については、次項4(1)②を参照すること。

4 履修上の注意

- (1) 必要単位数を超えて履修した必修科目の取り扱い
 - ① 必修科目のなかで、ひとつのグループから一定数の科目を履修するように指定されている科目(分野番号30-05-12, 30-05-13, 30-05-22の科目)について指定単位数を超えて履修し、かつ単位修得した場合は選択科目(分野番号30-05-55)の単位とみなす(A欄申告。ただし重複履修については(2)を参照のこと)。
 ※この場合、学業成績表上では元の分野番号欄に表示されるが、選択科目とみなされる。
 - ② 「東洋史特殊ⅠA～ⅠV・ⅡA～ⅡV」, 「東洋史研究会Ⅰ(A)～(F)・Ⅱ(A)～(F)・Ⅲ(A)～(F)・Ⅳ(A)～(F)」は必修科目の指定単位数を超えて単位修得した場合、合計12単位まで指定選択科目(分野番号は30-05-51)として認める(A欄申告。ただし研究会については上記【各学年共通】も参照のこと)。
- (2) 重複履修の取り扱いについて
 東洋史学専攻以外の設置科目については、卒業に必要な単位としての重複履修を認めない。
 東洋史学専攻の設置科目の重複履修については、以下のとおりとする。

- ①「東洋史研究入門Ⅰ・Ⅱ」,「東洋史概説Ⅰ～Ⅹ」
同一科目を重複して履修する場合は、担当者の異同にかかわらず自由科目として履修すること（B欄99）。
- ②「東洋史講読ⅠA～ⅠE・ⅡA～ⅡE」,「東洋史演習ⅠA～ⅠC・ⅡA～ⅡC」
- A. 担当者が異なる場合
同一科目名で担当者が異なる場合は、重複履修を各科目1回まで認め、選択科目として取り扱う（「東洋史講読」はB欄55,「東洋史演習」はA欄申告すること）。重複履修が2回以上となる場合は、自由科目として履修すること（B欄99）。
- B. 担当者が同じ場合
同一科目名・同一担当者の場合については、選択科目としての履修を許可する科目を、履修申告前に別途Web等に掲示する。許可する科目のリストにないものは、自由科目として履修申告すること。
- ③「東洋史特殊ⅠA～ⅠV・ⅡA～ⅡV」
- A. 担当者が異なる場合
同一科目名で担当者が異なる場合は、重複履修を各科目1回まで認め、必修科目（上記(1)に該当する場合は指定選択科目）として取り扱う（A欄申告）。重複履修が2回以上となる場合は、自由科目として履修すること（B欄99）。
- B. 担当者が同じ場合
同一科目名・同一担当者の場合については、選択科目としての履修を許可する科目を、履修申告前に別途Web等に掲示する。許可する科目のリストにないものは、自由科目として履修申告すること。
- ④「東洋史研究会Ⅰ～Ⅳ」
- A. 担当者が異なる場合
同一科目名で担当者が異なる場合は、重複履修を各科目1回まで認め、指定選択科目として取り扱う（B欄51）。重複履修が2回以上となる場合は、自由科目として履修すること（B欄99）。
- B. 担当者が同じ場合
同一科目名・同一担当者場合は、自由科目として履修すること（B欄99）。
- (3) 東洋史演習「ⅠA～ⅠC・ⅡA～ⅡC」, 文学部設置のアラビア語, ヘルシア語, トルコ語, 中国語, 韓国語, それに言語文化研究所特殊講座のアジア諸言語をできるだけ積極的に履修することが望ましい。

西洋史学専攻

1 専門教育科目およびその単位数

西洋史学専攻における専門教育科目（必修科目および選択科目）とその単位数は次の通りである。

【授業科目系列表】 ※[セ]: セット履修科目(定義は31ページを確認すること)

種類	分野番号	授業科目名(単位)	卒業必要単位	
			小計	合計
必修科目	必修	30-06-11 史学概論Ⅰ・Ⅱ(各2)	4単位	40単位
		30-06-12 [セ]西洋史学原典講読Ⅰ・Ⅱ(各1)	2単位	
		30-06-13 [セ]西洋史演習Ⅰ・Ⅱ(各1)	2単位	
		30-06-14 西洋史概説Ⅰ～Ⅵ(各2)	12単位	
	選択必修	30-06-21 西洋史特殊ⅠA～ⅠJ・ⅡA～ⅡJ(各2)のうち4科目(8)	8単位	
		30-06-22 日本史概説Ⅰ～Ⅳ(各2) [日本史学専攻設置] のうち2科目(4)	4単位	
		30-06-23 東洋史概説Ⅰ～Ⅹ(各2) [東洋史学専攻設置] のうち2科目(4)	4単位	
	研究会	30-06-31 [セ]西洋史研究会Ⅰ(A)～(G)・西洋史研究会Ⅱ(A)～(G)(各1)	4単位	
		30-06-32 [セ]西洋史研究会Ⅲ(A)～(G)・西洋史研究会Ⅳ(A)～(G)(各1)		
	卒試	30-06-41 卒業試験(卒業論文)		
選択科目	30-06-55 大学設置(学部学則第35条3項参照)の専門教育科目		32単位以上	

2 必修科目

必修科目として、上に掲げた授業科目系列表に示された24科目40単位を、以下の条件を満たしつつ、卒業までに修得し、かつ卒業試験に合格しなければならない。

注)「進級条件科目」、「卒業要件科目」、「学年指定科目」、「学年推奨科目」の定義は、50ページを確認すること。

【第2学年】

<進級条件科目>

「西洋史学原典講読Ⅰ・Ⅱ」

第2学年の在籍者で、次のいずれかの条件に該当する者は、第2学年の初めに専攻別ガイダンスで指示を受けること。

- ・必修語学として英語を履修していない。
- ・必修語学として独語・仏語・伊語・西語・露語のうちいずれの言語も履修していない。

【第3学年】

<進級条件科目>

「西洋史研究会Ⅰ(A)～(G)」・「西洋史研究会Ⅱ(A)～(G)」の2科目

「西洋史演習(独語・仏語・伊語・西語・露語のいずれか)Ⅰ・Ⅱ」

【第4学年】

<卒業要件科目>

「西洋史研究会Ⅲ(A)～(G)」・「西洋史研究会Ⅳ(A)～(G)」の2科目、「卒業試験(卒業論文)」

卒業試験は卒業論文によって行う。第4学年は文学部卒業試験時間割に記載されている「卒業試験(卒業論文)」

を必ず履修申告すること。

【各学年共通】

- (1) 「西洋史概説」は「Ⅰ～Ⅵ」のすべてを修得しなければならない。
- (2) 「西洋史特殊ⅠA～ⅠJ」および「ⅡA～ⅡJ」は4科目8単位を必修科目として修得しなければならない。同一担当者による同一科目名の科目は、自由科目としてしか履修することができない。
- (3) 「西洋史研究会Ⅰ～Ⅳ」は第2学年で履修することはできない。第3・4学年において同一担当者の「西洋史研究会Ⅰ・Ⅱ、Ⅲ・Ⅳ」を継続して履修することを原則とする。また同一学年で異なるアルファベットの西洋史研究会を同時に履修することはできない。

3 選択科目

選択科目として、本大学設置の専門教育科目32単位以上を卒業までに修得しなければならない。(36～40ページを参照)

4 履修上の注意

- (1) 必要単位を超えて履修した必修科目の取り扱い
「西洋史特殊ⅠA～ⅠJ・ⅡA～ⅡJ」, 「日本史概説Ⅰ～Ⅳ」, 「東洋史概説Ⅰ～Ⅷ」はそれぞれ必修科目として指定単位数を超えて履修し、その単位を修得した場合、超過分は選択科目とみなし、卒業単位として取り扱う（A欄申告。ただし重複履修については(2)を参照のこと）。
※この場合、学業成績表上では元の分野番号欄に表示されるが、選択科目とみなされる。
- (2) 重複履修の取り扱いについて
西洋史学専攻設置科目の重複履修の取り扱いは以下のとおりとする（他専攻設置科目である「日本史概説Ⅰ～Ⅳ」・「東洋史概説Ⅰ～Ⅷ」は卒業に必要な単位としての重複履修を認めない）。
 - ①「史学概論Ⅰ・Ⅱ」, 「西洋史研究会Ⅰ～Ⅳ」
卒業に必要な単位としての重複履修を認めない。同一科目を重複して履修する場合は、担当者の異同にかかわらず自由科目として履修すること（B欄99）。
 - ②「西洋史学原典講読Ⅰ・Ⅱ」, 「西洋史演習Ⅰ・Ⅱ」
 - A. 担当者が異なる場合
同一科目名で担当者が異なる場合は、重複履修を各科目1回まで認め、選択科目として取り扱う（B欄55）。重複履修が2回以上となる場合は、自由科目として履修すること（B欄99）。
 - B. 担当者が同じ場合
同一科目名・同一担当者の場合については、選択科目としての履修を許可する科目を、履修申告前に別途Web等にて掲示する。許可する科目のリストにないものは、自由科目として履修申告すること。
 - ③「西洋史概説Ⅰ～Ⅵ」, 「西洋史特殊ⅠA～ⅠJ・ⅡA～ⅡJ」
 - A. 担当者が異なる場合
同一科目名で担当者が異なる場合は、重複履修を各科目1回まで認め、選択科目として取り扱う（B欄55）。重複履修が2回以上となる場合は、自由科目として履修すること（B欄99）。
 - B. 担当者が同じ場合
同一科目名・同一担当者の場合、自由科目として履修すること（B欄99）。
- (3) 「史学概論Ⅰ・Ⅱ」は西洋史学専攻用の登録番号で登録しなければならない。
- (4) 「西洋史演習（独語・仏語・伊語・西語・露語）Ⅰ・Ⅱ」は第2学年で履修することはできない。

民族学考古学専攻

1 専門教育科目およびその単位数

民族学考古学専攻における専門教育科目（必修科目および選択科目）とその単位数は次の通りである。

【授業科目系列表】 ※[要]：要件科目（定義は31ページを確認すること）

種類	分野番号	授業科目名（単位）	卒業必要単位	
			小計	合計
必修科目	必修	30-07-11 民族学考古学原典講読Ⅰ・Ⅱ（各2）	4単位	40単位
		30-07-12 史学概論Ⅰ・Ⅱ（各2）	4単位	
		30-07-13 民族学考古学研究法Ⅰ・Ⅱ（各1） 民族学考古学研究法Ⅲ・Ⅳ（各1）	4単位	
	選択必修	30-07-21 民族学考古学特殊Ⅰ～XXII（各2）のうち4科目（8）	8単位	
		30-07-22 考古学Ⅰ・Ⅱ（各2） 民族学Ⅰ・Ⅱ（各2） 人類学概論Ⅰ・Ⅱ（各2） } いずれか4科目（8）	8単位	
		30-07-23 日本史概説Ⅰ～Ⅳ（各2） [日本史学専攻設置]	} のうち4科目（8）※	
		30-07-24 東洋史概説Ⅰ～Ⅹ（各2） [東洋史学専攻設置]		
		30-07-25 西洋史概説Ⅰ～Ⅵ（各2） [西洋史学専攻設置]		
	研究会	30-07-31 [要] 民族学考古学研究会Ⅰ（A）～（F）・Ⅱ（A）～（F）（各1）	4単位	
		30-07-32 [要] 民族学考古学研究会Ⅲ（A）～（F）・Ⅳ（A）～（F）（各1）		
卒試	30-07-41 卒業試験（卒業論文）			
選択科目	30-07-55 大学設置（学部学則第35条3項参照）の専門教育科目	32単位以上		

※日本史概説、東洋史概説、西洋史概説の概説3種類のうちから必ず2つ以上の種類にわたって修得すること。

2 必修科目

必修科目として、上掲の授業科目系列表に示された40単位を、以下の条件を満たしつつ、卒業までに修得し、かつ卒業試験に合格しなければならない。

注)「進級条件科目」、「卒業要件科目」、「学年指定科目」、「学年推奨科目」の定義は、50ページを確認すること。

【第2学年】

<進級条件科目>

「民族学考古学原典講読Ⅰ・Ⅱ」

<学年推奨科目>

「民族学考古学研究法Ⅰ・Ⅱ」、「民族学考古学研究法Ⅲ・Ⅳ」

Ⅰ・ⅡとⅢ・Ⅳは、必ず同一学年で履修すること。必修語学と重複する場合など、やむを得ない事情がない限り、第2学年でⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ全てを履修すること。

【第3学年】

<進級条件科目>

「民族学考古学研究会Ⅰ・Ⅱ」

【第4学年】

＜卒業要件科目＞

「民族学考古学研究会Ⅲ・Ⅳ」, 「卒業試験(卒業論文)」

卒業試験は卒業論文によって行う。4年生は文学部卒業試験時間割に記載されている「卒業試験(卒業論文)」を必ず履修申告すること(研究会とは別の登録番号がある)。

【各学年共通】

(1) 「民族学考古学特殊Ⅰ～ⅩⅩⅡ」(分野 30-07-21)は4科目8単位を必修とする。

(2) 研究会の履修について

- ① 「民族学考古学研究会Ⅰ・Ⅱ」は原則として第3学年において履修し, 「Ⅲ・Ⅳ」は第4学年(卒論指導)において履修する。第3学年において民族学考古学研究会Ⅰ・Ⅱ(計2単位)を必修科目として修得しない場合は, 第4学年に進級できない。
- ② 「民族学考古学研究会Ⅰ・Ⅱ」は第2学年で履修し, 卒業単位にすることも可能。ただしその場合は選択科目(分野 30-07-55)として履修すること(B欄 55)。
- ③ 第3・第4学年では, 「Ⅰ・Ⅱ」あるいは「Ⅲ・Ⅳ」一組を必修科目(A欄)として履修し, これ以外の研究会を履修する場合は, 選択科目(B欄 55)として申告すること。なお, 選択科目として履修した科目を必修科目に変更することはできない。

3 選択科目

選択科目として, 本大学設置の専門教育科目32単位以上を卒業までに修得しなければならない。(36～40ページを参照)。

4 履修上の注意

(1) 必要単位を超えて履修した必修科目の取り扱い

必修科目の中で, ひとつのグループから一定数の科目を履修するように指定された科目(分野 30-07-21・30-07-22・30-07-23・30-07-24・30-07-25)について指定単位数を超えて履修し, 単位を修得した場合は選択科目(分野 30-07-55)の単位とみなし, 卒業単位として取り扱う(A欄申告。ただし重複履修については(2)を参照のこと)。

※この場合, 学業成績表上では元の分野番号欄に表示されるが, 選択科目とみなされる。

(2) 重複履修の取り扱いについて

民族学考古学専攻以外の設置科目については, 卒業に必要な単位としての重複履修を認めない。

民族学考古学専攻設置科目の重複履修については, 以下のとおりとする。

① 「民族学考古学研究会Ⅰ～Ⅳ」

2 必修科目【各学年共通】(2)を参照すること。

第2学年で「民族学考古学研究会Ⅰ・Ⅱ」の単位を取得し, 第3学年において必修科目として当該科目を履修する場合にのみ, 同一担当者の同一科目名の重複履修を認める。

② 「民族学考古学特殊Ⅰ～ⅩⅩⅡ」

A. 担当者が異なる場合

同一科目名で担当者が異なる場合は, 重複履修を各科目1回まで認め, 選択必修科目(上記(1)に該当する場合は選択科目)として取り扱う(A欄申告)。重複履修が2回以上となる場合は, 自由科目として履修すること(B欄 99)。

B. 担当者が同じ場合

同一科目名・同一担当者の場合については, 選択科目としての履修を許可する科目を, 履修申告前に別途 Web 等に掲示する。許可する科目のリストにないものは, 自由科目として履修申告すること。

③ 「民族学考古学研究会Ⅰ～Ⅳ」「民族学考古学特殊Ⅰ～ⅩⅩⅡ」以外の科目

同一名称の科目は, 卒業に必要な単位としての重複履修を認めない。同一科目を重複して履修する場合は, 担当者の異同に関わらず自由科目として履修すること(B欄 99)。

国文学専攻

1 専門教育科目およびその単位数

国文学専攻における専門教育科目（必修科目および選択科目）とその単位数は次の通りである。

【授業科目系列表】 ※[セ]: セット履修科目(定義は31ページを確認すること)

種類	分野番号	授業科目名(単位)	卒業必要単位			
			小計	合計		
必修科目	必修	30-08-11	国文学原典講読Ⅰ・Ⅱ(各1)	2単位	36単位	
	選択必修	30-08-20	日本語学Ⅰ～Ⅷ(各2)のうち2科目(4)	4単位		
		30-08-21	国文学Ⅰ～XXⅡ(各2)のうち6科目(12)	12単位		
		30-08-22	国文学史Ⅰ～Ⅷ(各2)のうち4科目(8)	8単位		
		30-08-23	[セ]国文学演習Ⅰ～XⅡ(各1) [セ]日本語学演習Ⅰ・Ⅱ(各1)	のうち4科目(4)		4単位
		研究会	30-08-31	[セ]国文学研究会Ⅰ・Ⅱ(A)～(G)(各1)のうち同一担当者の2科目(2)		2単位
卒試	30-08-41	卒業試験(卒業論文)				
選択科目	指定選択	30-08-51	日本語学Ⅰ～Ⅷ(各2) 国文学Ⅰ～XXⅡ(各2) 国文学史Ⅰ～Ⅷ(各2) [セ]国文学演習Ⅰ～XⅡ(各1) [セ]日本語学演習Ⅰ・Ⅱ(各1) 日本語文法Ⅰ・Ⅱ(各2) 漢文概論Ⅰ・Ⅱ(各2)	のうち必修科目として履修していない10単位以上を含めなければならない。	10単位以上	40単位以上
	選択	30-08-55	本大学設置の専門教育科目(学部学則第35条3項参照) 国文学専攻設置の次の科目を含めることができる 日本語教育学Ⅰ～Ⅳ(各2)			

2 必修科目

必修科目として、上に掲げた授業科目系列表に示された36単位を、以下の「進級条件科目」、「卒業要件科目」、「学年指定科目」の条件を満たしつつ、卒業までに修得し、かつ卒業試験に合格しなければならない。

注)「進級条件科目」、「卒業要件科目」、「学年指定科目」、「学年推奨科目」の定義は、50ページを確認すること。

【第2学年】

<進級条件科目>

「国文学原典講読Ⅰ・Ⅱ」

「国文学原典講読」のクラス分けは、別に発表する。自分のクラスを確認の上、履修登録すること。

【第3学年】

<学年指定科目>

選択必修科目としての「国文学演習Ⅰ～XⅡ」「日本語学演習Ⅰ・Ⅱ」(各1単位)はセット履修とする。第3学年において重複とならない2組みを履修すること(それ以上の履修もさまたげない)。

これらは進級条件科目ではないが、単位を取得できなかった演習と同じ担当者の「国文学研究会Ⅰ・Ⅱ」を第4

学年で履修することはできない。特別な事情がある場合のみ、第3学年で単位を取得していない演習の担当者と同一の担当者の「国文学研究会 I・II」の履修を、担当教員と面接のうえ認めることがある。

【第4学年】

＜卒業要件科目＞

①「国文学研究会 I・II」

研究会は、セット履修とする。「国文学研究会 I・II」(各1単位 計2単位)のうち、第3学年で履修した2組みの「国文学演習 I～XII」「日本語学演習 I・II」のうち、一方の担当者と同一の担当者の I・II 1組みを選択して履修すること。2組み以上の「国文学研究会」を履修することはできない。これは卒業論文指導であるから、論文のテーマ等を考え、指導を受けようとする教員の研究会を選ぶこと。その際、専攻所定の手続きを取り、担当教員の承認を受けなければ「国文学研究会 I・II」の履修は認められない。

②「卒業試験(卒業論文)」

卒業試験は卒業論文によって行うので、4年生は文学部卒業試験時間割に記載されている「卒業試験(卒業論文)」を必ず履修申告すること(研究会とは別の登録番号がある)。

3 選択科目

- (1) 選択科目として、本大学設置の専門教育科目(国文学専攻設置の「日本語教育学 I～IV」を含める)40単位以上を卒業までに修得しなければならない。(36～40ページを参照)
- (2) このうちには、「日本語学 I～VIII」・「国文学 I～XXII」・「国文学史 I～VIII」・「国文学演習 I～XII」・「日本語学演習 I・II」・「日本語文法 I・II」・「漢文概論 I・II」の中から必修科目として履修しない10単位以上を指定選択科目として、含めなければならない。

履修申告の際には、必修科目と指定選択科目を区別せず、すべてを必修科目としてA欄申告すること(必修科目としての単位数を超えた段階で、以降の科目が自動的に指定選択科目として処理される)。ただし重複履修の場合は4-(2)を参照。

4 履修上の注意

- (1) 必要単位数を超えて履修した必修科目の取り扱いについて
「日本語学 I～VIII」・「国文学 I～XXII」・「国文学史 I～VIII」・「国文学演習 I～XII」・「日本語学演習 I・II」・「漢文概論 I・II」に関しては、それぞれ必修科目としての単位数を超えて履修した科目の単位は、自動的に指定選択科目の単位となる(履修申告は必修科目としてA欄申告すること。ただし重複履修の場合は4-(2)を参照)。
※この場合、学業成績表上では元分野番号欄に表示されるが、選択科目とみなされる。

- (2) 重複履修の取り扱いについて

①「日本語学 I～VIII」「日本語文法 I・II」は重複履修できない。

②すでに履修した必修科目を重複履修する際は、以下の点に注意すること。特に、選択科目として履修できる単位数の制限と、履修申告の際の申告欄に注意すること。

〈対象科目〉

A.「国文学 I～XXII」、B.「国文学史 I～VIII」、C.「国文学演習 I～XII」・「日本語学演習 I・II」、D.「漢文概論 I・II」

〈重複履修の方法〉

卒業に必要な単位としての重複履修は、各科目1回までとする。重複履修が2回以上となる場合は、自由科目として履修すること(B欄99)。

a. 担当者が異なる場合

同一科目名で担当者が異なる場合は、重複履修を各科目1回まで認め、必修科目として取り扱う(A欄申告)。

β. 担当者が同じ場合

同一科目名・同一担当者の場合については、選択科目としての履修を許可する科目を、履修申告前に別途 Web 等に掲示する(B欄51)。許可する科目のリストにないものは、自由科目として履修申告すること(B欄99)。

なお、同一担当者の科目を重複履修する場合、A・Bの科目群においては、それぞれの科目群につき合計8単位まで、Cの科目群においては4単位までとする。

(3) 学年によって履修できない科目について

- ① 「国文学演習Ⅰ～ⅩⅡ」「日本語学演習Ⅰ・Ⅱ」は、必修科目としてだけでなく、選択科目としても、第2学年では履修できない。
- ② 「国文学研究会Ⅰ・Ⅱ」は第2学年・第3学年では履修できない。

中国文学専攻

1 専門教育科目およびその単位数

中国文学専攻における専門教育科目（必修科目および選択科目）とその単位数は次の通りである。

【授業科目系列表】

種類	分野番号	授業科目名(単位)	卒業必要単位		
			小計	合計	
必修科目	30-09-11	中国古典文学史Ⅰ・Ⅱ(各2)	12 単位	38 単位	
		中国現代文学史Ⅰ・Ⅱ(各2)			
		中国語学概論Ⅰ・Ⅱ(各2)			
		中国語学特殊ⅠAまたはⅠB, ⅡAまたはⅡB(各2)			
	30-09-12	中国語学特殊ⅠAまたはⅠB, ⅡAまたはⅡB(各2)	4 単位		
	30-09-13	中国語学特殊ⅠAまたはⅠB, ⅡAまたはⅡB(各2)	4 単位		
	30-09-14	中国文化特殊ⅠAまたはⅠB, ⅡAまたはⅡB(各2)	4 単位		
選択必修	30-09-21	中国語学・中国文学演習Ⅰ～Ⅻ(各1) 中国語表現演習Ⅰ～Ⅵ(各1)	} のうち 12 科目 (12)	12 単位	
研究会	30-09-31	中国語学・中国文学研究会Ⅰ・Ⅱ(各1)		2 単位	
卒試	30-09-41	卒業試験(卒業論文)			
選択科目	研究会	30-09-32	中国語学・中国文学研究会Ⅲ・Ⅳ(各1)	} のうち 10単位以上を含めなければならない。	38 単位以上
	指定選択	30-09-51	必修科目として履修しない 中国文学特殊ⅠAまたはⅠB, ⅡAまたはⅡB(各2) 中国語学特殊ⅠAまたはⅠB, ⅡAまたはⅡB(各2) 中国文化特殊ⅠAまたはⅠB, ⅡAまたはⅡB(各2) 中国語学・中国文学演習Ⅰ～Ⅻ(各1) 中国語表現演習Ⅰ～Ⅵ(各1) 中国語会話特殊Ⅰ～Ⅳ(各1)[全専攻共通科目] 漢文講読Ⅰ～Ⅳ(各1)[全専攻共通科目]		
	選択	30-09-55	上記以外の大学設置(学部学則第35条3項参照)の専門教育科目		

中文

2 必修科目

必修科目として、上に掲げた授業科目系列表に示された38単位を、以下の条件を満たしつつ、卒業までに修得し、かつ卒業試験に合格しなければならない。

注)「進級条件科目」、「卒業要件科目」、「学年指定科目」、「学年推奨科目」の定義は、50ページを確認すること。

【第2学年】

<進級条件科目>

「中国古典文学史Ⅰ・Ⅱ」、「中国現代文学史Ⅰ・Ⅱ」、「中国語学概論Ⅰ・Ⅱ」

【第3学年】

進級条件科目はないが研究会Ⅰ、Ⅱを履修することが望ましい。

【第4学年】

<卒業要件科目>

「卒業試験（卒業論文）」

卒業試験は卒業論文によって行う。4年生は文学部卒業試験時間割に記載されている「卒業試験（卒業論文）」を必ず履修申告すること（研究会とは別の登録番号がある）。(4.(3)「研究会の履修方法」を参照すること。)

【各学年共通】

- (1) 「中国文化特殊ⅠA・ⅡA, ⅠB・ⅡB」, 「中国語学・中国文学演習Ⅰ～ⅩⅡ」, 「中国語表現演習Ⅰ～Ⅵ」は「シラバス講義要綱」で推奨学年が示される場合がある。
- (2) 「中国文学特殊ⅠA・ⅡA, ⅠB・ⅡB」, 「中国語学特殊ⅠA・ⅡA, ⅠB・ⅡB」, 「中国語学・中国文学研究会Ⅰ・Ⅱ」は第3学年または第4学年のいずれで履修してもよい。ただし、「中国語学・中国文学研究会Ⅰ・Ⅱ」については、第3学年で履修することが望ましい。(研究会の履修については、4.(3)「研究会の履修方法」を参照すること。)

3 選択科目

- (1) 選択科目として、本大学設置の専門教育科目38単位以上を卒業までに修得しなければならない。(36～40ページを参照)
- (2) 選択科目の中には、指定選択科目として下記①～⑧の科目のうちから10単位以上を含めなければならない。
 - ①「中国語学・中国文学研究会Ⅲ・Ⅳ」(各1)
 - ② 必修科目として履修しない「中国文学特殊ⅠAまたはⅠB, ⅡAまたはⅡB」(各2)
 - ③ 必修科目として履修しない「中国語学特殊ⅠAまたはⅠB, ⅡAまたはⅡB」(各2)
 - ④ 必修科目として履修しない「中国文化特殊ⅠAまたはⅠB, ⅡAまたはⅡB」(各2)
 - ⑤ 必修科目として履修しない「中国語学・中国文学演習Ⅰ～ⅩⅡ」(各1)
 - ⑥ 必修科目として履修しない「中国語表現演習Ⅰ～Ⅵ」(各1)
 - ⑦「中国語会話特殊Ⅰ～Ⅳ」(各1)
 - ⑧「漢文講読Ⅰ～Ⅳ」(各1)

4 履修上の注意

- (1) 必要単位を超えて履修した必修科目の取り扱い
 - ①「中国文学特殊ⅠA・ⅡA, ⅠB・ⅡB」, 「中国語学特殊ⅠA・ⅡA, ⅠB・ⅡB」, 「中国文化特殊ⅠA・ⅡA, ⅠB・ⅡB」は、指定単位数を超えて履修(A欄申告)した場合は、指定選択科目とみなし、修得した単位は卒業単位として取り扱う。
※この場合、学業成績表上では元の分野番号欄に表示されるが、選択科目とみなされる。
 - ②「中国語学・中国文学演習Ⅰ～ⅩⅡ」および「中国語表現演習Ⅰ～Ⅵ」は、計18単位のうち12単位を必修科目として履修する。それ以上さらに履修する場合は、指定選択科目として履修することができる(A欄申告)。
- (2) 重複履修の取り扱い
下の学年ですでに単位を取得した中国文学専攻設置の必修科目・選択科目を上級の学年で再度履修する場合は、科目担当者が異なる場合、8単位まで指定選択科目として認める。Web履修申告はB欄51で申告すること。
- (3) 研究会の履修方法
研究会は、第3・4学年と続けて、Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳの順に履修することが望ましい。学則上、ⅠとⅡは必修科目、ⅢとⅣは選択科目であるが、ⅢとⅣは卒業論文指導を主体とする必修に準ずる科目であるので履修することが望ましい。履修しない場合は、必ず専攻担任に申し出ること。
- (4) 留学に伴う研究会履修の特別措置
研究会は、ⅠとⅡ、ⅢとⅣをそれぞれ同一学年で続けて履修することを原則とする。但し、第3学年秋学期から留学し、留学期間の在学期間への算入によって、翌年第4学年に進級して復学する場合、第3学年春学期(留学前)にⅠを履修し、第4学年秋学期(留学後)にⅡを履修することを認める。
- (5) 2年生の必修語学の履修語種
2年生の必修語学は、1年次に履修した語種の如何に関わらず原則として中国語(中級・上級・最上級のいずれか)を履修すること。ただし、中国語を母語とする留学生は、原則として日本語を履修すること。

英米文学専攻

1 専門教育科目およびその単位数

英米文学専攻における専門教育科目（必修科目および選択科目）とその単位数は次の通りである。

【授業科目系列表】 ※[要]：要件科目（定義は31ページを確認すること）

種類	分野番号	授業科目名（単位）	卒業必要単位		
			小計	合計	
必修科目	30-10-11	英語史Ⅰ・Ⅱ（各2） 英文学史Ⅰ・Ⅱ（各2） 米文学史Ⅰ・Ⅱ（各2） 現代英語学Ⅰ・Ⅱ（各2） 英語英米文学基礎講読Ⅰ（A）～（G）・Ⅱ（A）～（G）（各1） …第2学年での修得が望ましい	18単位	40単位	
		30-10-12			古代中世英語学Ⅰ・Ⅱ（各2）…第3学年指定科目 英語音声学Ⅰ・Ⅱ（各2）
	30-10-21	英語学演習Ⅰ～ⅩⅥ（各1） 英文学演習Ⅰ～ⅩⅩⅡ（各1） 米文学演習Ⅰ～ⅩⅥ（各1）	10単位		のうち10単位
	30-10-31	[要] 英語学研究会Ⅰ・Ⅱ（各1） [要] 英語学研究会Ⅲ・Ⅳ（各1）	4単位		のうち同分野同担当者 4科目（4）
		[要] 英文学研究会Ⅰ・Ⅱ（各1） [要] 英文学研究会Ⅲ・Ⅳ（各1）			
卒試	30-10-41	卒業試験（卒業論文）			
選択科目	30-10-51	英米文学専攻設置の以下の科目を含めることができる 英語学Ⅰ～ⅩⅣ（各2） 英文学Ⅰ～ⅩⅥ（各2） 米文学Ⅰ～ⅩⅡ（各2） アカデミック・ライティングⅠA～ⅠE（各1）・ⅡA～ⅡE（各1）	32単位以上		
	30-10-55	大学設置（学部学則第35条3項参照）の専門教育科目			

2 必修科目

必修科目として、上に掲げた授業科目系列表に示された40単位を、以下の条件を満たしつつ、卒業までに修得し、かつ卒業試験に合格しなければならない。

注)「進級条件科目」、「卒業要件科目」、「学年指定科目」、「学年推奨科目」の定義は、50ページを確認すること。

【第2学年】

＜進級条件科目＞

必修科目の「英語史Ⅰ・Ⅱ」、「英文学史Ⅰ・Ⅱ」、「米文学史Ⅰ・Ⅱ」、「現代英語学Ⅰ・Ⅱ」、「英語英米文学基礎講読Ⅰ・Ⅱ」の組み合わせのうち3組以上。また、「英語英米文学基礎講読Ⅰ・Ⅱ」は第2学年で修得することが望ましい。しかし、第2学年において、「英語英米文学基礎講読Ⅰ」あるいは「英語英米文学基礎講読Ⅱ」が不合格となっても、上記の5組中3組に合格していれば、進級条件を満たすことになる。

但し、「交換留学」「私費留学」を予定している者については、進級条件を一部変更することもある。事前に専攻担任に相談のこと。

【第3学年】

＜進級条件科目＞

「研究会Ⅰ」および「研究会Ⅱ」

4. (4), 5. (1) を参照。

但し、「交換留学」「私費留学」を予定している者については、進級条件を一部変更することもある。事前に専攻担任に相談のこと。なお、単位認定については、履修案内の該当箇所を事前によく読んでおくこと。

＜学年指定科目＞

「古代中世英語学Ⅰ」および「古代中世英語学Ⅱ」

【第4学年】

＜卒業要件科目＞

「研究会Ⅲ」および「研究会Ⅳ」, 「卒業試験(卒業論文)」

4. (4) を参照。

4年生は「研究会Ⅲ」ならびに「研究会Ⅳ」とともに必ず文学部卒業試験時間割に記載されている「卒業試験(卒業論文)」も履修申告すること。

「卒業試験(卒業論文)」は、「研究会」とは別の登録番号があるので注意されたい。

3 選択科目

- (1) 選択科目として、本大学設置の専門教育科目 32 単位以上を卒業までに修得しなければならない(36~40 ページを参照)。
- (2) 「英語学Ⅰ~Ⅳ」, 「英文学Ⅰ~Ⅵ」, 「米文学Ⅰ~Ⅱ」, 「アカデミック・ライティングⅠA~ⅠE・ⅡA~ⅡE」は英米文学専攻設置の選択科目である。

4 履修上の注意

- (1) 必要単位数を超えて履修した必修科目の取り扱い
選択必修科目である「英語学演習Ⅰ~Ⅵ」, 「英文学演習Ⅰ~ⅡⅡ」, 「米文学演習Ⅰ~Ⅵ」(分野 30-10-21) の3種類のみ、必修指定単位数(10 単位)を超えて履修した場合は選択科目とみなし、卒業単位として扱う(A欄申告。ただし重複履修については(2)を参照のこと)。
※この場合、学業成績表上では元の分野番号欄に表示されるが、選択科目とみなされる。
- (2) 重複履修の取り扱い
英米文学専攻設置科目の重複履修の取り扱いは以下のとおりとする。
 - ① 選択必修科目「英語学演習Ⅰ~Ⅵ」, 「英文学演習Ⅰ~ⅡⅡ」, 「米文学演習Ⅰ~Ⅵ」(分野 30-10-21)
上記科目については、選択必修科目(上記(1)に該当する場合は選択科目)として重複履修を認める(A欄申告)。
 - ② 選択科目「英語学Ⅰ~Ⅳ」, 「英文学Ⅰ~Ⅵ」, 「米文学Ⅰ~Ⅱ」, 「アカデミック・ライティングⅠA~ⅠE・ⅡA~ⅡE」(分野 30-10-51)
上記科目については、同一科目名で担当者が異なる場合にかぎり、重複履修を各科目1回まで認め、選択科目として取り扱う(A欄申告)。同一科目名で同一担当者の場合、あるいは重複履修が2回以上となる場合は、自由科目として履修すること(B欄99)。
 - ③ 上記以外の科目
卒業に必要な単位としての重複履修を認めない。同一科目を重複して履修する場合は、担当者の異同にかかわらず自由科目として履修すること(B欄99)。
- (3) 演習科目の履修上の注意
「英語学演習Ⅰ~Ⅵ」, 「英文学演習Ⅰ~ⅡⅡ」, 「米文学演習Ⅰ~Ⅵ」は、原則として英米文学専攻の学生を対象とする。ただし、担当教員の判断により、定員の範囲内で他専攻の学生も受け入れる場合がある。演習は原則として定員を15名とする。
「英語学演習Ⅰ~Ⅵ」, 「英文学演習Ⅰ~ⅡⅡ」, 「米文学演習Ⅰ~Ⅵ」は、第2学年では2単位、第3学年では8単位までしか履修を認めない。第4学年では特に上限を設けない。

(4) 「研究会」の履修上の注意

第3・4学年の2年間にわたって同一担当者の科目を履修する。第3学年においては、「研究会Ⅰ」および「研究会Ⅱ」を、第4学年においては「研究会Ⅲ」および「研究会Ⅳ」を履修すること。

「研究会Ⅰ」、「研究会Ⅱ」、「研究会Ⅲ」、「研究会Ⅳ」のそれぞれを、同一学年で2科目以上履修することはできない。またこれらを第2学年で履修することはできない。

5 その他

(1) 「研究会」志望上の注意

第3学年においてどの「研究会」を選ぶかは、第2学年中に行われるガイダンスに出席して各自の希望で決め、定められた期日までに志望票を提出すること。ただし、希望者多数の研究会では選抜が行われることがある。なお、以上の手続を経たうえで担当教員の承認を受けなければ、「研究会」の履修は認められない。

(2) 各学年共通の注意

履修案内を熟読してもなお不明な点がある場合は、必ず専攻担任に尋ねて疑問を解消し、後に困難な事態に立ち至らぬよう留意されたい。

独文学専攻

1 専門教育科目およびその単位数

独文学専攻における専門教育科目（必修科目および選択科目）とその単位数は次の通りである。

【授業科目系列表】 [要]：要件科目(定義は31ページを確認すること)

種類	分野番号	授業科目名(単位)	卒業必要単位	
			小計	合計
必修科目	必修	30-11-11 テクスト研究中級Ⅰ・Ⅱ(各1)	2単位	46単位
		30-11-12 ドイツ文学史Ⅰ・Ⅱ(各2)	4単位	
		30-11-13 ドイツ語学研究Ⅰ・Ⅱ(各2)	4単位	
		30-11-14 ドイツ語学演習Ⅰ・Ⅱ(各1)	2単位	
		30-11-15 現代ドイツ研究Ⅰ・Ⅱ(各2)	4単位	
	選択必修	30-11-21 テクスト研究上級Ⅰ～Ⅳ(各1)のうち2科目(2)※	2単位	
		30-11-22 ドイツ語作文初級Ⅰ・Ⅱ(各1) ドイツ語作文中級Ⅰ・Ⅱ(各1) }のうち2科目(2)※※	2単位	
		30-11-23 コミュニケーション・ドイツ語中級Ⅰ～Ⅳ(各1) コミュニケーション・ドイツ語上級Ⅰ～Ⅳ(各1) }のうち4科目(4)※※※	4単位	
		30-11-24 [要]ドイツ研究の技法Ⅰ・Ⅱ(各2) 中世ドイツの言語と文化Ⅰ・Ⅱ(各2) 近代ドイツ研究Ⅰ・Ⅱ(各2) 演劇・メディア研究Ⅰ・Ⅱ(各2) ドイツ思想研究Ⅰ・Ⅱ(各2) ドイツ文化研究Ⅰ～Ⅳ(各2) ドイツ文化史Ⅰ・Ⅱ(各2) }のうち8科目(16)	16単位	
		ゼミ 30-11-31 ドイツ語学文学ゼミナールⅠ～ⅩⅥ(各1)のうち6科目(6)	6単位	
	卒試 30-11-41 卒業試験(卒業論文)			
選択科目	30-11-55	大学設置(学部学則第35条3項参照)の専門教育科目	30単位以上	

※ 「上級Ⅰ・Ⅱ」2科目(2)もしくは「上級Ⅲ・Ⅳ」2科目(2)を履修することが望ましい

※※ 「初級Ⅰ・Ⅱ」2科目(2)もしくは「中級Ⅰ・Ⅱ」2科目(2)を履修することが望ましい

※※※ 「中級Ⅰ～Ⅳ」4科目(4)もしくは「上級Ⅰ～Ⅳ」4科目(4)を履修することが望ましい

2 必修科目

必修科目として、上に掲げた授業科目系列表に示された46単位を、以下の条件を満たしつつ、卒業までに修得し、かつ卒業試験に合格しなければならない。

注)「進級条件科目」、「卒業要件科目」、「学年指定科目」、「学年推奨科目」の定義は、50ページを確認すること。

【第2学年】

<進級条件科目>

「テキスト研究中級Ⅰ・Ⅱ」

<学年推奨科目>

以下の科目を、第2学年で履修すべき科目として推奨する。第2学年で単位を修得できなかった場合は、第3学年で再度履修することが望ましい。ただし、学生個々の進度に応じて学年にこだわらずに履修することも認められる。

- ① 「ドイツ文学史Ⅰ・Ⅱ」(春秋連続して履修すること)
- ② 「ドイツ語作文初級Ⅰ・Ⅱ」, 「ドイツ語作文中級Ⅰ・Ⅱ」のうち「初級Ⅰ・Ⅱ」の2科目もしくは「中級Ⅰ・Ⅱ」の2科目
- ③ 「コミュニケーション・ドイツ語中級Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」(この4科目を同一学年で並行して履修することが望ましい)
- ④ 「ドイツ研究の技法Ⅰ・Ⅱ」(春秋連続して履修すること)

【第3学年】

＜学年推奨科目＞

- (1) 以下の科目を、第3学年で履修すべき科目として推奨する。第3学年で単位を修得できなかった場合は、第4学年で再度履修すること。ただし、学生個々の進度に応じて学年にこだわらずに履修することも認められる。
 - ① 「テキスト研究上級Ⅰ～Ⅳ」のうち「Ⅰ・Ⅱ」の2科目もしくは「Ⅲ・Ⅳ」の2科目
 - ② 「コミュニケーション・ドイツ語上級Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」(この4科目は同一学年で並行して履修することが望ましい)
- (2) 「ドイツ語学文学ゼミナール」の履修方法については、次項【各学年共通】を参照すること。

【第4学年】

＜卒業要件科目＞

「ドイツ語学文学ゼミナールⅠ～ⅩⅥ」のうち1科目以上, 「卒業試験(卒業論文)」

「ドイツ語学文学ゼミナール」の履修方法については、次項【各学年共通】を参照すること。

卒業試験は卒業論文によって行う。4年生は文学部卒業試験時間割に記載されている「卒業試験(卒業論文)」を必ず履修申告すること(「ドイツ語学文学ゼミナール」とは別の登録番号がある)。

【各学年共通】

「ドイツ語学文学ゼミナール」の履修方法

- ① 第4学年において、卒業論文作成にあたり「卒業試験(卒業論文)」のいずれかの担当者に指導教員として承認と指示を受け、指導教員が担当する「ドイツ語学文学ゼミナール」を履修すること。指導を希望する教員のゼミナールは、第3学年と第4学年の2年間、継続して履修することが望ましい。
- ② 「ドイツ語学文学ゼミナールⅠ～ⅩⅥ」はいくつ履修してもよいが、卒業に必要な必修単位は6単位である。
 - ①の理由から、その内訳には、同一科目を2科目ずつ計4単位まで含めることができる。また、修得単位が必要単位数を超えたときには、自動的に選択科目の単位とみなされる(A欄申告)。
- ③ 第3学年において6単位以上修得しても卒業要件は満たさない。
- ④ 第2学年において「ドイツ語学文学ゼミナール」を履修することは、原則としてできないが、例外として担当教員と専攻担任が必要と認めた場合には許可することもあるので、相談し、許可状を得て学生部文学部担当に提出すること。

3 選択科目

選択科目として、本大学設置の専門教育科目30単位以上を卒業までに修得しなければならない。(36～40ページを参照)

4 履修上の注意

- (1) 必要単位数を超えて履修した必修科目の取り扱い
 - 必修科目の取得単位が必要単位数を超えたときには、自動的に選択科目の単位とみなされる(A欄申告。ただし重複履修については(2)を参照のこと)。
 - ※この場合、学業成績表上では元の分野番号欄に表示されるが、選択科目とみなされる。
- (2) 重複履修の取り扱いについて
 - ① 「ドイツ語学文学ゼミナール」以外の必修科目に関しては、原則として卒業に必要な単位としての重複履修は認められない。同一科目を重複履修する場合は、自由科目として履修すること(B欄99)。
 - ② 「ドイツ語学文学ゼミナール」は例外的に2科目ずつ計4単位まで必修科目としての重複履修が可能である(A欄申告)。

仏文学専攻

1 専門教育科目およびその単位数

仏文学専攻における専門教育科目（必修科目および選択科目）とその単位数は次の通りである。

【授業科目系列表】 以下の表を用いて履修申告する授業科目の分野番号を確認すること。

種類		分野番号	授業科目名(単位)	卒業必要単位			
				小計	合計		
必修科目	基礎コース	必修	30-12-11	フランス語学演習Ⅰ・Ⅱ(各1) フランス語表現演習Ⅰ～Ⅳ(各1)	6単位	40単位	
			30-12-12	フランスの文化と歴史Ⅰ・Ⅱ(各2) フランス文学史Ⅰ・Ⅱ(各2)	8単位		
	専門コース	選択必修	30-12-21	フランス文学と近代Ⅰ～Ⅳ(各2) フランス文学と現代Ⅰ・Ⅱ(各2)	}のうち6科目(12)		12単位
			30-12-22	フランス文学史Ⅲ・Ⅳ(各2) フランス語学Ⅰ・Ⅱ(各2)			
			30-12-23	フランス語学演習Ⅲ～Ⅷ(各1) フランス語表現演習 ⅤA, ⅥA, ⅦA, ⅧA, ⅤB, ⅥB, ⅦB, ⅧB (各1)※ フランス文学演習ⅠA, ⅡA, ⅢA, ⅣA, ⅤA, ⅥA, ⅠB, ⅡB, ⅢB, ⅣB, ⅤB, ⅥB (各1)※	}のうち13科目(13) ただしフランス語学 文学研究会Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ のうち少なくとも 1科目を含めること		13単位
			30-12-31	フランス語学文学研究会Ⅰ・Ⅱ(各1) :3年次履修 フランス語学文学研究会Ⅲ(1) :4年次履修			
			研究会	30-12-32			
			卒試	30-12-41	卒業試験(卒業論文)		
	選択科目	30-12-55	大学設置(学部学則第35条3項参照)の専門教育科目		36単位以上		

※ 同じローマ数字の科目であっても、アルファベットが異なる場合は内容が異なり、別科目である。

2 必修科目

必修科目として、上に掲げた授業科目系列表に示された40単位を、以下の条件を満たしつつ、卒業までに修得し、かつ卒業試験に合格しなければならない。

分野番号30-12-11, 30-12-12の科目群を基礎コースの科目とする。

分野番号30-12-21から30-12-41の科目群を専門コースの科目とする。

注)「進級条件科目」,「卒業要件科目」,「学年推奨科目」の定義は、50ページを確認すること。

【第2学年】

<進級条件科目>

「フランス語学演習Ⅰ・Ⅱ」,「フランス語表現演習Ⅰ～Ⅳ」のうち5科目(5単位)以上

<学年推奨科目>

基礎コースの科目は、すべて第2学年で履修することが望ましい。

【第3学年】

＜第3学年においてのみ履修できる科目＞

「フランス語学文学研究会Ⅰ」, 「フランス語学文学研究会Ⅱ」(下記「研究会の履修方法」参照)

【第4学年】

＜第4学年においてのみ履修できる科目＞

「フランス語学文学研究会Ⅲ」, 「フランス語学文学研究会Ⅳ」(下記「研究会の履修方法」参照)

＜卒業要件科目＞

「フランス語学文学研究会Ⅳ」(下記「研究会の履修方法」参照), 「卒業試験(卒業論文)」

卒業試験は卒業論文によって行う。

4年生は文学部卒業試験時間割に記載されている「卒業試験(卒業論文)」を必ず履修申告すること(研究会とは別の登録番号がある)。

【各学年共通】

＜研究会の履修方法＞

- ① 「フランス語学文学研究会Ⅰ・Ⅱ」は第3学年次に, 「フランス語学文学研究会Ⅲ・Ⅳ」は第4学年次に履修する。
- ② 卒業には, 以下の2科目(計2単位)が必要である。
 - ・「フランス語学文学研究会Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」から1科目(1単位)
 - ・「フランス語学文学研究会Ⅳ」(1単位)卒業要件としては上記2科目で十分であるが, 特別な理由がない限り, 全ての研究会(4科目4単位)を履修することが望ましい。
- ③ 留学をする者は, 研究会の履修方法について事前に専攻担任に相談すること。
(例) 3年次の秋学期から4年次春学期にかけて塾派遣交換留学, かつ帰国年度に卒業したい
→ 3年次春学期に「フランス語学文学研究会Ⅰ」を必ず履修する
その他, 留学には様々なケースが考えられるので, 細心の注意を払うこと。
- ④ 第2学年では研究会は履修できない。
- ⑤ 「フランス語学文学研究会Ⅰ・Ⅱ」を2組以上履修する場合は1組を必修科目(A欄申告)として履修し, 他は選択科目(B欄55)として履修すること。
- ⑥ 第4学年で原級となった場合, 既に修得した研究会の単位は有効であるが, 「卒業試験(卒業論文)」と同一担当者の「フランス語学文学研究会Ⅲ・Ⅳ」を自由科目として履修することが望ましい(B欄99)。

3 選択科目

選択科目として, 本大学設置の専門教育科目36単位以上を卒業までに修得しなければならない。(36~40ページを参照)

「4-(1) 必要単位を超えて履修した必修科目の取り扱い」と「4-(2) 重複履修の取り扱い」を参照のこと。

4 履修上の注意

- (1) 必要単位を超えて履修した必修科目の取り扱い
必修科目専門コースの単位を指定数を超えて修得した場合は, これらを選択科目の単位とみなし, 卒業単位として取り扱う(A欄申告。ただし重複履修については(2)を参照のこと)。
※この場合, 学業成績表上では元の方野番号欄に表示されるが, 選択科目とみなされる。
- (2) 重複履修の取り扱い
 - ① 「フランス語学演習Ⅲ~Ⅷ」, 「フランス語表現演習ⅤA, ⅥA, ⅦA, ⅧA, ⅤB, ⅥB, ⅦB, ⅧB」※
「フランス文学演習ⅠA, ⅡA, ⅢA, ⅣA, ⅤA, ⅥA, ⅠB, ⅡB, ⅢB, ⅣB, ⅤB, ⅥB」※
※同じローマ数字の科目であっても, アルファベットが異なる場合は内容が異なり, 別科目である。

以上の科目について、重複履修を各科目1回まで認め、選択必修科目(上記(1)に該当する場合は選択科目)として取り扱う(A欄申告)。ただし、それが同一科目・同一担当者であった場合は、履修申告前に担当者に相談のこと。重複履修が2回以上となる場合は、自由科目として履修すること(B欄99)。

② 上記以外の科目

同一名称の科目は、卒業に必要な単位としての重複履修を認めない。同一科目を重複して履修する場合は、担当者の異同に関わらず自由科目として履修すること(B欄99)。ただし、3年次に限り「フランス語文学研究会I・II」を2組以上履修する場合は1組を必修科目(A欄申告)として履修し、他は選択科目(B欄55)として履修すること。

図書館・情報学専攻

1 注意事項

- (1) 履修の際の注意点は、学年初めのガイダンスで指示するので、必ず出席すること。
- (2) 学士入学者、原級者は、専攻担任のガイダンスを必ず受けること。

2 専門教育科目およびその単位数

図書館・情報学専攻における専門教育科目の必修科目ならびに選択科目とその単位数は授業科目系列表の通りである。

【授業科目系列表】 [要]：要件科目(定義は31ページを確認すること)

種類	分野番号	授業科目名(単位)				卒業必要単位
必修科目	必修2年 30-13-01	2年次	図書館・情報学文献研究Ⅰ・Ⅱ(各2)		22単位	
			図書館基礎Ⅰ(2)	図書館基礎Ⅱ(2)		
			情報メディア基礎Ⅰ(2)	情報メディア基礎Ⅱ(2)		
			情報管理基礎Ⅰ(2)	情報管理基礎Ⅱ(2)		
	必修3年 30-13-03	3年次	図書館・情報学概説(2)			
	研究会 30-13-02	3年次 4年次	図書館・情報学研究法(2) [要] 図書館・情報学研究会Ⅰ・Ⅱ(各1)			
	卒業試験 30-13-11		卒業試験(卒業論文)			
3・4年次指定選択科目	図書館コース		情報メディアコース		情報管理コース	
	分野(B欄)	授業科目名(単位)	分野(B欄)	授業科目名(単位)	分野(B欄)	授業科目名(単位)
	図必修 30-13-21 (21)	図書館の制度と経営(2) 情報メディア概説(2) 情報資源組織論(2) 情報検索概説Ⅰ(2) 図書館・情報学研究調査入門(2) 公共図書館論(2) 大学図書館論(2) 情報サービス概説(2) 生涯学習概説(2) [全専攻共通科目]	メ必修 30-13-31 (31)	図書館の制度と経営(2) 情報メディア概説(2) 情報資源組織論(2) 情報検索概説Ⅰ(2) 図書館・情報学研究調査入門(2) 印刷メディア(2) 学術情報メディア論(2) 社会情報論(2) ウェブ情報論(2)	管必修 30-13-51 (51)	図書館の制度と経営(2) 情報メディア概説(2) 情報資源組織論(2) 情報検索概説Ⅰ(2) 図書館・情報学研究調査入門(2) 情報行動(2) 情報処理技術(2) データベース論(2) デジタルアーカイブ論(2)
	図選択 30-13-23 (23)	[要] 図書館実習Ⅰ・Ⅱ(各1) 児童サービス論(2) 学校図書館論(2) 情報認識の基礎(2) データ解析論(2) 書誌学Ⅰ(2) 書誌学Ⅱ(2) 図書館・情報学特殊Ⅰ(2) 図書館・情報学特殊Ⅱ(2) 図書館・情報学特殊Ⅲ(2) 情報検索概説Ⅱ(2) および、図書館コース以外のコース必修科目	メ選択 30-13-33 (33)	[要] 図書館実習Ⅰ・Ⅱ(各1) 児童サービス論(2) 学校図書館論(2) 情報認識の基礎(2) データ解析論(2) 書誌学Ⅰ(2) 書誌学Ⅱ(2) 図書館・情報学特殊Ⅰ(2) 図書館・情報学特殊Ⅱ(2) 図書館・情報学特殊Ⅲ(2) 情報検索概説Ⅱ(2) および、情報メディアコース以外のコース必修科目	管選択 30-13-53 (53)	[要] 図書館実習Ⅰ・Ⅱ(各1) 児童サービス論(2) 学校図書館論(2) 情報認識の基礎(2) データ解析論(2) 書誌学Ⅰ(2) 書誌学Ⅱ(2) 図書館・情報学特殊Ⅰ(2) 図書館・情報学特殊Ⅱ(2) 図書館・情報学特殊Ⅲ(2) 情報検索概説Ⅱ(2) および、情報管理コース以外のコース必修科目
選択科目	30-13-55 (55)	本大学設置(学部学則第35条3項参照)の専門教育科目				24単位以上

※指定選択科目のB欄分野番号は2年原級者のみ使用(B欄分野番号は上表参照)

3 履修上の注意

【各学年共通】

- (1) 図書館・情報学を専攻する者は、図書館・情報学専攻専門教育科目の必修科目 22 単位、指定選択科目 26 単位以上およびその他の専門教育科目 24 単位以上、計 72 単位以上を修得しなければならない。ただし、その他の専門教育科目に図書館・情報学専攻設置の専門教育科目を含めることはできない。
- (2) 必修科目 22 単位は、特別の場合を除き、第 2 学年において 16 単位、第 3 学年において 4 単位、第 4 学年において 2 単位を修得するように配分されている。
- (3) 図書館・情報学研究法は第 3 学年次に、また図書館・情報学研究会 I・II は第 4 学年次に、それぞれ指定された必修科目であって、他の学年次および他の専攻の者は自由科目としても履修できない。
- (4) 第 2 学年の必修科目および第 3 学年以降のコース必修科目をその年次で修得しなかった場合、時間割の関係上、翌年度以降にこれらの科目を履修することが不可能になり、卒業が遅れることがあるので留意されたい。
- (5) 司書教諭資格の取得を希望する者は、教員免許取得に必要な科目の他、原則として教職課程センターに設置されている「学校経営と学校図書館」、「学校図書館メディア論」、「学習指導と学校図書館」、「読書教育論」、「情報メディア利用論」の 5 科目を修得しなければならない。
- (6) 「情報」科をはじめとする各教科の教員免許の取得を希望する者は、教職課程センターが実施するガイダンスに必ず出席すること。

【第 2 学年】

- (7) 原則として、2 年生は授業科目系列表の「3・4 年次指定選択科目」を履修することはできない（83 ページを参照）。ただし第 2 学年で原級に留まった者については、余裕をもって事前に専攻担任と面談のうえ、許可を得ること。
- (8) 第 3 学年に進級するためには、第 2 学年に配分されている必修科目 8 科目（16 単位）のうち、6 科目以上（12 単位以上）を修得しなければならない。

【第 3 学年】

- (9) 図書館コース、情報メディアコース、情報管理コースのいずれか一つのコースを選択する。コースごとにコース必修科目と、コース選択科目が授業科目系列表のように定められているので、その指示通りに履修しなければならない。
- (10) 司書資格の取得を希望する者は、図書館・情報学専攻を卒業し、それぞれのコースの必修科目に加え、以下の科目を各コースのコース選択科目として修得しなければならない。
 - ・図書館コースの学生：「図書館実習 I・II」「児童サービス論」
 - ・情報メディアコース、情報管理コースの学生：「情報サービス概説」「生涯学習概論」「図書館実習 I・II」「児童サービス論」。加えて、「公共図書館論」「大学図書館論」「学校図書館論」のうちから 2 科目以上。
- (11) 第 4 学年に進級するためには、「図書館・情報学研究法」を修得しなければならない。

【第 4 学年】

- (12) 文学部卒業試験時間割に記載されている「卒業試験（卒業論文）」を必ず履修申告すること（研究会とは別の登録番号である）。卒業試験は卒業論文によって行う。卒業論文提出にあたっては、9 月に開催される中間発表会および提出後に行われる最終面接に出席しなければならない。
- (13) 司書資格の取得を希望する者は、上の (10) の指示に従うこと。

社会学専攻

1 専門教育科目およびその単位数

社会学専攻における専門教育科目（必修科目および選択科目）とその単位数は次の通りである。

【授業科目系列表】 ※[要]：要件科目(定義は31ページを確認すること)

種類	分野番号	授業科目名(単位)	卒業必要単位	
			小計	合計
必修科目	30-14-11	次の6科目を第2学年で修得すること。 社会学概論Ⅰ・Ⅱ(各2) 社会心理学概論Ⅰ・Ⅱ(各2) 文化人類学概論Ⅰ・Ⅱ(各2)	12単位	40単位
	30-14-12	社会学史Ⅰ・Ⅱ(各2) 社会調査Ⅰ・Ⅱ・Ⅴ・Ⅵ(各1) [要]社会調査Ⅲ・Ⅳ(各1) } のうち4科目	8単位	
	30-14-21	次の科目のうちから卒業までに20単位を修得すること。 医療社会学Ⅰ・Ⅱ(各2) 家族・親族論Ⅰ・Ⅱ(各2) 教育社会学Ⅰ・Ⅱ(各2) 生の社会学(2) 感情社会学(2) コミュニケーション学Ⅰ・Ⅱ(各2) [要]宗教社会学Ⅰ・Ⅱ(各2) 環境行動論(2) 知識社会学Ⅰ・Ⅱ(各2) リスクコミュニケーション論(2) 日本社会学Ⅰ・Ⅱ(各2) 都市社会学Ⅰ・Ⅱ(各2) 世界社会学(2) 普及学Ⅰ・Ⅱ(各2) 比較文化論Ⅰ・Ⅱ(各2) 文化社会学(2) 映像社会学(2) 社会心理学特殊Ⅰ～Ⅸ(各2) 社会学特殊Ⅰ～Ⅹ(各2) 文化人類学特殊Ⅰ～ⅩⅡ(各2)	20単位	
卒試	30-14-41 30-14-42	卒業試験(卒業論文) 卒業試験(社会学専攻)		
選択科目	30-14-51 30-14-52	社会学研究会Ⅰ・Ⅱ(各1) 社会学研究会Ⅲ・Ⅳ(各1) } 卒業論文コースの者は、 「社会学研究会Ⅰ～Ⅳ(各1)」 合計4単位を必ず含めること		32単位以上
	30-14-55	大学設置(学部学則第35条3項参照)の専門教育科目 社会学専攻設置の次の科目を含めることができる 社会学文献研究ⅠA～ⅠE・ⅡA～ⅡE(各1) 宗教学Ⅰ・Ⅱ(各2)		

2 必修科目

必修科目として、上に掲げた授業科目系列表に示された40単位を、以下の条件を満たしつつ、卒業までに修得し、かつ卒業試験に合格しなければならない。

注)「進級条件科目」,「卒業要件科目」,「学年指定科目」,「学年推奨科目」の定義は、50ページを確認すること。

卒業試験は「卒業試験(卒業論文)」あるいは「卒業試験(社会学専攻)」によって行う。

【第2学年】

<進級条件科目>

- ①「社会学概論Ⅰ・Ⅱ」
- ②「社会心理学概論Ⅰ・Ⅱ」
- ③「文化人類学概論Ⅰ・Ⅱ」

これらの授業科目は第2学年ですべて修得すること。それに満たない場合は第3学年に進級できない。

【第3学年】

<学年指定科目>

コースにより異なる。第3学年から、卒業に向けて「卒業論文コース」と「卒業試験コース」の二つのコースに分かれる。履修要件はコースごとに異なる。下記【コース別授業科目系列表】の項を参照。

【第4学年】

<卒業要件科目>

「卒業試験（卒業論文）」あるいは「卒業試験（社会学専攻）」

履修要件はコースごとに異なる。下記【コース別授業科目系列表】の項を参照。

【コース別授業科目系列表】

	卒業論文コース	卒業試験コース
第3学年 指定科目 (コース必修)	社会学研究会Ⅰ・Ⅱ	なし
第4学年 卒業要件科目 (コース必修)	社会学研究会Ⅲ・Ⅳ 卒業試験（卒業論文）	選択必修科目(分野30-14-21)のうち、合計4単位以上 卒業試験（社会学専攻）

「コース必修」とは、各コースにおいて必ず修得しなくてはならない科目である。

【卒業論文コース（社会学研究会を履修する）】

- ① 「卒業論文コース」を選択した者は、第3学年および第4学年を通じ、「社会学研究会Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」を修得しなければ、最終年度において卒業論文を提出する資格を得ることができない。第4学年で別の担当者の研究会に変更し、その担当者に卒論を提出することを希望する場合は、変更前・変更後の研究会担当者との相談を、履修申告前に行わなければならない。なお「卒業論文コース」の者が、研究会担当者の承認を受けて第4学年で「卒業試験コース」に変更することもありうる。ただし、第4学年で、履修申告期間終了後においては、一切の変更を認めない（研究会の履修方法は4(3)を参照すること）。
- ② 卒業論文コースの者は「卒業試験（卒業論文）」に合格しなければ卒業できない。
社会学研究会に所属する（卒業論文コースの）者は第4学年において文学部卒業試験時間割に記載されている「卒業試験（卒業論文）」（研究会担当者の登録番号）を必ず履修申告し、所定の期日に卒業論文を提出し、合格しなければならない。

【卒業試験コース（社会学研究会を履修しない）】

「卒業試験コース」の者は、第3学年においては選択科目上の履修条件はないが、第4学年においては選択必修科目（分野30-14-21）のうち、合計4単位以上を履修、修得しかつ「卒業試験（社会学専攻）」を履修申告し、卒業試験に合格しなければならない。なお、修得済み科目を自由科目として重複履修することができる。

第4学年において文学部時間割に記載されている「卒業試験（社会学専攻）」を必ず履修申告すること。その上で、秋学期末に行われる卒業試験に合格しなければならない。卒業試験の概要に関しては、専攻別ガイダンスおよび別途 Web 等で案内する。

3 選択科目

- (1) 選択科目として、本大学設置の専門教育科目32単位以上を卒業までに修得しなければならない。(36～40ページを参照)
- (2) 「卒業論文コース」の者は、選択科目のうち指定選択科目である「社会学研究会Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」を必ず含めなければならない。
- (3) 「社会学文献研究ⅠA～ⅠE・ⅡA～ⅡE」,「宗教学Ⅰ・Ⅱ」は社会学専攻設置の選択科目である。

4 履修上の注意

(1) 必要単位数を超えて履修した必修科目の取り扱い

必修科目（分野 30-14-12）を 8 単位を超えて修得した場合，または選択必修科目（分野 30-14-21）を 20 単位を超えて修得した場合は選択科目の単位とみなし，卒業単位として取り扱う（A 欄申告。ただし重複履修については (2) を参照のこと）。

※この場合，学業成績表上では元の分野番号欄に表示されるが，選択科目とみなされる。

(2) 重複履修の取り扱いについて

過年度に修得済みの科目を再履修する場合は担当者が異なっても自由科目となる（B 欄分野番号 99 で申告すること）。

(3) 研究会の履修方法

① 指定された年次以外の研究会を履修する場合には，次のとおり自由科目として申告する。

	研究会 I・II	研究会 III・IV
3 年生	選択科目（A 欄申告）	自由科目（B 欄分野番号 99）
4 年生	自由科目（B 欄分野番号 99）	選択科目（A 欄申告）

② 第 2 学年においては「社会学研究会」を履修することはできない。

心理学専攻

1 専門教育科目およびその単位数

心理学専攻における専門教育科目の必修科目および選択科目とその単位数は次の通りである。

【授業科目系列表】 ※[要]：要件科目(定義は31ページを確認すること)

種類	分野番号	授業科目名(単位)	卒業必要単位						
			小計	合計					
必修科目	必修	30-15-11 知覚心理学(2) 発達心理学(2) 認知心理学(2) 生理・神経心理学(2) 行動・学習心理学(2)	10 単位	38 単位					
		30-15-12 心理学研究法(2)	2 単位						
		30-15-13 心理統計Ⅰ・Ⅱ(各2)	4 単位						
		30-15-14 心理学アカデミックリーディングⅠ・Ⅱ(各1)	2 単位						
		30-15-15 心理学実験Ⅰ・Ⅱ(各2)	4 単位						
		30-15-16 心理学史(2)	2 単位						
	選択必修	30-15-21	認知神経科学(2) 言語心理学(2) 感情心理学(2) 臨床発達心理学(2) 知覚・認知心理学特殊Ⅰ,Ⅱ(各2) 行動・学習心理学特殊Ⅰ,Ⅱ(各2) 発達・障害心理学特殊Ⅰ,Ⅱ(各2) 生物・神経科学特殊Ⅰ,Ⅱ(各2) 心理学基礎Ⅰ,Ⅱ,Ⅲ(各2) 司法・犯罪心理学(2) 臨床心理学Ⅰ,Ⅱ(各2) 行動神経科学(2) 感性心理学(2) 動物心理学(2) 認知科学(2)		10 単位 のうち 10単位				
			研究会			30-15-31 [要]心理学研究会Ⅰ・Ⅱ(各1) 30-15-32 [要]心理学研究会Ⅲ・Ⅳ(各1)	4 単位		
			卒試			30-15-41 卒業試験(卒業論文)			
			選択科目			選指定	30-15-51 人間関係学系専攻設置の必修科目(選択必修科目を含む)	20 単位以上	34 単位以上
						選択	30-15-55 大学設置(学部学則第35条3項参照)の専門教育科目		

2 必修科目

各学年次において履修する科目および進級条件科目

	各学年次において履修する科目	進級条件科目
第2学年	知覚心理学(2) 行動・学習心理学(2) 生理・神経心理学(2) 心理学アカデミックリーディングⅠ・Ⅱ(各1) 心理学研究法(2) 心理統計Ⅰ・Ⅱ(各2) 認知心理学(2) 発達心理学(2)	知覚心理学 行動・学習心理学 生理・神経心理学 心理学アカデミックリーディングⅠ・Ⅱ 心理学研究法 認知神経科学 言語心理学 感情心理学 臨床発達心理学 認知心理学 発達心理学 行動神経科学 感性心理学 動物心理学 認知科学 }のうち 3科目 }のうち 3科目
第3学年	心理学実験Ⅰ・Ⅱ(各2) 心理学史(2) [要]心理学研究会Ⅰ・Ⅱ(各1)	心理学実験Ⅰ・Ⅱ [要]心理学研究会Ⅰ・Ⅱ
第4学年	[要]心理学研究会Ⅲ・Ⅳ(各1) 卒業試験(卒業論文)	

必修科目として、上に掲げた授業科目系列表に示された38単位を卒業までに修得し、かつ卒業試験に合格しなければならない。

【各学年共通】

＜心理学研究会の履修方法＞

第3・4学年在籍中は、同一担当教員の心理学研究会Ⅰ～Ⅳを毎年履修することを原則とする（原級・留学など特殊な事情がある場合には、事前に担当教員に相談すること）。このうち、第3学年での研究会Ⅲ・Ⅳ、および必修科目として単位取得済みの研究会は、自由科目（B欄99）として履修すること。

＜必修科目と選択必修科目について＞

選択必修科目は、知覚心理学、認知心理学、行動・学習心理学、発達心理学、生理・神経心理学（分野番号30-15-11）において当該分野の基礎知識を修得していることを前提としている。よって、これらの単位を修得してから履修することを強くすすめる。

【第4学年】

＜卒業試験（卒業論文）について＞

卒業試験は卒業論文によって行う。卒業論文は履修する心理学研究会Ⅳの担当者に提出し、その審査に合格しなければならない。4年生は文学部卒業試験時間割に記載されている「卒業試験（卒業論文）」を必ず履修申告すること（研究会とは別の登録番号がある）。

3 選択科目

- (1) 選択科目として、本大学設置の専門教育科目34単位以上を卒業までに修得しなければならない。（36～40ページを参照）
- (2) 選択科目のうちには、指定選択科目（人間関係学系専攻設置の必修科目（選択必修科目を含む））20単位以上を含めなければならない。次項4.(1)を参照すること。

4 履修上の注意

- (1) 選択必修科目の修得単位の扱いについて

選択必修科目の単位のうち、10単位を超えて修得した単位については、指定選択科目の単位として扱い、卒業必要単位に含める（A欄申告。ただし重複履修については(2)を参照のこと）。

※この場合、学業成績表上では元の分野番号欄に表示されるが、選択科目とみなされる。
 - (2) 重複履修の取り扱いについて

心理学専攻設置科目の重複履修の取り扱いは以下のとおりとする。

 - ① 選択必修科目（分野番号30-15-21）
 - A. 担当者が異なる場合

同一科目名で担当者が異なる場合は、重複履修を各科目1回まで認め、必修科目（上記(1)に該当する場合は指定選択科目）として取り扱う（A欄申告）。重複履修が2回以上となる場合は、自由科目として履修すること（B欄99）。
 - B. 担当者が同じ場合

同一科目名・同一担当者の場合は、自由科目として履修すること（B欄99）。
 - ② 選択必修科目（分野番号30-15-21）以外の科目

卒業に必要な単位としての重複履修を認めない。同一科目を重複して履修する場合は、担当者の異同にかかわらず自由科目として履修すること（B欄99）。
- (3) 「各学年次において履修する科目」についての注意

「各学年次において履修する科目」とは、学習指導の点から履修すべき学年が指定されている必須科目である。この科目については以下の点に注意すること。

 - ・指定された学年より下の学年で履修することはできない。ただし、2年原級者の心理学実験Ⅰ、Ⅱと心理学研究会Ⅰ～Ⅳについては、専攻担任および科目担当者が必修科目または自由科目として個別に履修を認めることがある。また、心理学研究会Ⅲ、Ⅳについては上記の〈心理学研究会の履修方法〉に従って第3学年で自由科目として履修できる。
 - ・指定された学年で単位を取得できなかった場合、時間割上の制約で翌年度以降の単位取得に時間がかかり卒業が遅れることがある。

教育学専攻

1 専門教育科目およびその単位数

- (1) 教育学専攻設置の学科目は〔必修科目（研究会・卒試を含む）〕および〔選択科目〕から構成され、その単位数は以下の通りである。
- (2) 卒業までに必修16科目（26単位）、選択必修16科目のうち8科目（16単位）、研究会4科目（4単位）、選択科目26単位以上を履修しなければならない（履修方法に関しては後述の規定に従うこと）。
- (3) 卒業試験は卒業論文によって行う（卒業論文の指導担当者は研究会担当者と同一）。

【授業科目系列表】 ※〔要〕：要件科目（定義は31ページを確認すること）

種類	分野番号	授業科目名（単位）	卒業必要単位		
			小計	合計	
必修科目	必修	30-16-11 教育学概論Ⅰ・Ⅱ（各2） 教育学原典講読Ⅰ・Ⅱ（各1）	6単位	46単位	
		30-16-12 教育史Ⅰ・Ⅱ（各2） 教育学史Ⅰ・Ⅱ（各2） 比較教育学Ⅰ・Ⅱ（各2） 教育心理学概論Ⅰ・Ⅱ（各2）	16単位		
		30-16-13 〔要〕教育学演習Ⅰ・Ⅱ（各1） 〔要〕教育学演習Ⅲ・Ⅳ（各1）	4単位		
	選択必修	30-16-21 教育学特殊Ⅰ（2）、教育学特殊Ⅱ（2） 教育学特殊Ⅲ（2）、教育学特殊Ⅳ（2） 教育学特殊Ⅴ（2）、教育学特殊Ⅵ（2） 教育学特殊Ⅶ（2）、教育学特殊Ⅷ（2） 教育学特殊Ⅸ（2）、教育学特殊Ⅹ（2） 教育学特殊Ⅺ（2）、教育学特殊Ⅻ（2） 教育学特殊Ⅼ（2）、教育学特殊Ⅽ（2） 教育学特殊Ⅾ（2）、教育学特殊Ⅿ（2）	このうち 8科目（16）		16単位
		研究会 30-16-31 30-16-32 〔要〕教育学研究会Ⅰ・Ⅱ（各1） 〔要〕教育学研究会Ⅲ・Ⅳ（各1）			4単位
		卒試 30-16-41 卒業試験（卒業論文）			
選択科目	30-16-51 教育学専攻設置の以下の科目を含めることができる 教育学文献研究Ⅰ（2）、教育学文献研究Ⅱ（2） 教育学文献研究Ⅲ（2）、教育学文献研究Ⅳ（2） 教育学文献研究Ⅴ（2）、教育学文献研究Ⅵ（2） 〔要〕教育測定実験Ⅰ・Ⅱ（各2） 〔要〕教育研究法Ⅰ・Ⅱ（各2）		26単位 以上		
	30-16-55 大学設置（学部学則第35条3項参照）の専門教育科目				

2 必修科目

必修科目として、上に掲げた授業科目系列表に示された46単位を、以下の条件を満たしつつ、卒業までに修得し、かつ卒業試験に合格しなければならない（上記1(2)を参照）。

注）「進級条件科目」、「卒業要件科目」、「学年指定科目」、「学年推奨科目」の定義は、50ページを確認すること。

【第2学年】

<進級条件科目>

「教育学概論Ⅰ」、「教育学概論Ⅱ」、「教育学原典講読Ⅰ」、「教育学原典講読Ⅱ」

<教育学原典講読Ⅰ・Ⅱの履修について>

原則として4名の教員（ $a \cdot \beta \cdot \gamma \cdot \delta$ ）が担当する。第2学年の履修者は、4つのグループに分かれてもらう（グループ編成は専攻担任が決定する）。教育学原典講読Ⅰ（春学期）で a が担当したグループを、教育学原典講読Ⅱ（秋学期）では β が担当する。春学期に β が担当したグループは、秋学期には a が担当する。同様に γ と δ についても入れ替わる。自分が所属するグループのⅠ・Ⅱそれぞれの担当者名をきちんと確認した上で、履修申告すること。

【第3学年】

<進級条件科目>

「教育学演習Ⅰ」, 「教育学演習Ⅱ」, 「教育学研究会Ⅰ」, 「教育学研究会Ⅱ」

必ずいずれかの同一担当者の科目を履修すること。教育学演習Ⅰを修得しなければ教育学演習Ⅱは履修できない。同様に教育学研究会Ⅰを修得しなければ教育学研究会Ⅱは履修できない。なお、研究会は卒業論文指導のために設けられたものであり、演習と密接な関係をもっている。したがって演習と同じ担当者の研究会を履修すること。

これらの科目は、第2学年では履修できない。

【第4学年】

<卒業要件科目>

「教育学演習Ⅲ」, 「教育学演習Ⅳ」, 「教育学研究会Ⅲ」, 「教育学研究会Ⅳ」, 「卒業試験（卒業論文）」

第4学年の学生は、必ずこれらの科目を履修すること。「教育学演習Ⅲ」を修得しなければ「教育学演習Ⅳ」は履修できない。同様に「教育学研究会Ⅲ」を修得しなければ「教育学研究会Ⅳ」を履修できない。なお、それらは第3学年次に履修した「教育学演習Ⅰ」・「教育学演習Ⅱ」, 「教育学研究会Ⅰ」・「教育学研究会Ⅱ」と同一担当者のものであることが原則である。

「卒業試験（卒業論文）」は研究会とは別の登録番号がある。文学部卒業試験時間割を確認すること。

3 選択科目

- (1) 選択科目として、本大学設置の専門教育科目26単位以上を卒業までに修得しなければならない。（上記1(2), 36~40ページを参照）
- (2) 選択科目に、教育学専攻設置の「教育学文献研究Ⅰ~Ⅵ」, 「教育測定実験Ⅰ・Ⅱ」, 「教育研究法Ⅰ・Ⅱ」を含める。これらの科目は、専門的に教育学研究を目指す場合に必要と考えられる方法や内容に焦点を当てた科目である。したがって、専攻の設置する専門教育科目ではあるものの、あえて必修科目とはせず、選択科目扱いとしている。各研究会でより高度な卒業論文執筆を目指す学生や、大学院進学を考えている学生の積極的履修を望む。
- (3) 「教育研究法Ⅰ・Ⅱ」, 「教育測定実験Ⅰ・Ⅱ」の履修について
「教育研究法Ⅰ」を修得しなければ「教育研究法Ⅱ」は履修できない。同様に、「教育測定実験Ⅰ」を修得しなければ「教育測定実験Ⅱ」は履修できない。

4 履修上の注意

- (1) 必要単位数を超えて履修した必修科目の取り扱い
必修科目の中の選択必修科目（「教育学特殊Ⅰ~ⅩⅥ」）について指定単位数を超えて履修した場合、その超過分は選択科目とみなし卒業単位として取り扱う（A欄申告）。
※この場合、学業成績表上では元分野番号欄に表示されるが、選択科目とみなされる。
ただし、同一名称科目を卒業時までには再度履修した場合は自由科目扱い（履修申告時にB欄99を選択すること）となり、選択必修科目や選択科目とみなされることはない。

人間科学専攻

1 専門教育科目およびその単位数

人間科学専攻における専門教育科目（必修科目（Ⅰ～Ⅲ類）および選択科目）とその単位数は次の通りである。

【授業科目系列表】

種類		分野番号	授業科目名（単位）	卒業必要単位		
				小計	合計	
必修	Ⅰ類	30-17-11	人間科学基礎 (2) 人間科学研究法基礎 (2)	4 単位	38 単位以上	
	Ⅱ類	30-17-12	人間科学諸領域Ⅰ～Ⅳ (各2)	8 単位		
必修科目 選択必修	Ⅲ類	30-17-21	人間科学研究法ⅠA・ⅡA (各2) 人間科学研究法ⅢA・ⅣA (各2) 人間科学研究法ⅠB～ⅣB (各4) 人間科学演習Ⅰ・Ⅱ (各1) 人間科学演習Ⅲ・Ⅳ (各1) 人間科学演習Ⅴ・Ⅵ (各1) 人間科学演習Ⅶ・Ⅷ (各1) 人間科学演習Ⅸ・Ⅹ (各1) 人間科学特殊ⅠA～ⅩⅣA (各2) 人間科学特殊ⅠB～ⅣB (各4)	26 単位以上		
			30-17-31	人間科学研究会Ⅰ (A)～(J)・Ⅱ (A)～(J) (各1) 〈コースA〉		
			30-17-32	人間科学研究会Ⅲ (A)～(J)・Ⅳ (A)～(J) (各1) 〈コースA〉		
			30-17-33	人間科学卒業研究 (2) 〈コースB〉		
			30-17-41	卒業試験 (卒業論文) 〈コースA〉		
			30-17-42	卒業試験 (人間科学専攻) 〈コースB〉		
選択科目		30-17-55	大学設置 (学部学則第35条3項参照) の専門教育科目	34 単位以上		

今年度開講されるⅢ類科目（人間科学研究法・人間科学特殊）は以下の通りである。 ※（ ）内は科目のサブタイトルを表す

人間科学研究法	(計量と解析) (各2) (質的変数と量的変数の関係) (量的変数間の関係) (各2)
人間科学研究法 (半期集中)	開講科目なし
人間科学演習 (半期)	(文献講読) (各1)
人間科学特殊 (半期)	(社会福祉学) (2) (比較文化関係論) (2) (文化と精神病理) (2) (責任と法の社会学) (2) (医療人類学) (2) (社会階層の比較社会学) (2) (合理的選択の社会学) (2) (コミュニケーションの社会心理学) (2) (計算社会心理学) (2) (教育と市民社会の社会学) (2) (人類学とフィールドワーク) (2) (パーソナリティ心理学Ⅰ・Ⅱ) (各2) (文化と発達の心理学) (2) (精神分析学) (2) (精神医学) (2) (科学・技術の人類学) (2) (メタ心理学) (2) (映像と文化) (2) (戦いと平和の人類学) (2) (伝統文化と開発) (2) (臨床心理学) (2) (産業・組織心理学) (2) (認知能力の個人差と社会) (2) (観光心理学) (2) (計算社会科学) (2) (地域コミュニティ論) (2) (消費社会学の理論と実証) (2) (社会的認知の心理学) (2)
人間科学特殊 (半期集中)	開講科目なし

2 必修科目

必修科目として、上に掲げた授業科目系列表に示された 38 単位を、以下の条件を満たしつつ、卒業までに修得し、かつ卒業試験に合格しなければならない。

注)「進級条件科目」、「卒業要件科目」、「学年指定科目」、「学年推奨科目」の定義は、50 ページを確認すること。

【第 2 学年】

<進級条件科目>

- ①「人間科学基礎」、「人間科学研究法基礎」
これらに 1 科目でも不合格があれば第 3 学年に進級することができない。
- ②「人間科学諸領域Ⅰ～Ⅳ」のうち 2 科目
これら 4 科目は第 2 学年次に履修することを原則とする。第 2 学年次中に最低 2 科目 (4 単位) に合格すること。この条件が充足されなかった場合は第 3 学年次に進級することができない。

【第 3 学年】

<学年指定科目>

コースにより異なる。
第 3 学年次において、「卒業試験 (卒業論文)」を卒業の要件とするコース (以下、コース A とよぶ)、または、「卒業試験 (人間科学専攻)」を卒業の要件とするコース (以下、コース B とよぶ) のいずれかを選ばなければならない。履修要件はコースごとに異なる。下記の【コース別授業科目系列表】を参照。

【第 4 学年】

<卒業要件科目>

「卒業試験 (卒業論文)」あるいは「卒業試験 (人間科学専攻)」
履修要件はコースごとに異なる。【コース別授業科目系列表】を参照。

【コース別授業科目系列表】

卒業要件		コース A (研究会所属あり)	コース B (研究会所属なし)
専門必修科目 (38 単位以上)	I 類	4 単位	4 単位
	II 類	8 単位	8 単位
	III 類	「人間科学研究会Ⅰ・Ⅱ」(各 1) … 第 3 学年指定科目 (コース必修) 「人間科学研究会Ⅲ・Ⅳ」(各 1) … 卒業要件科目 (コース必修) を含めて 26 単位以上	「人間科学卒業研究」(2) … 卒業要件科目 (コース必修) を含めて 26 単位以上
専門選択科目 (34 単位以上)		34 単位以上	34 単位以上
卒業試験の方法と卒業要件科目		卒業試験は卒業論文によって行う。 「卒業試験 (卒業論文)」 … 卒業要件科目 (コース必修)	卒業試験は人間科学卒業研究 (2) の修得をもって代替する。 「卒業試験 (人間科学専攻)」 … 卒業要件科目 (コース必修)
卒業に必要な専門教育科目の総単位数		72 単位以上	72 単位以上

「コース必修」とは、各コースにおいて必ず修得しなくてはならない科目である。

(1) 「コース A」について

コース A を志望する学生は、①第 2 学年次の秋学期に行われるガイダンスに基づいて、「卒業論文」の指導を仰ぐ教員を選定し、②当該教員にその旨申し出、当該教員の審査を受け、これに合格した上で、③当該教員の担当する「人間科学研究会Ⅰ・Ⅱ」を第 3 学年次で修得し、④当該教員の担当する「人間科学研究会Ⅲ・Ⅳ」を第 4 学年次で修得し、⑤第 4 学年次の定められた期日までに「卒業論文」を提出し、論文の審査 (「卒業試験」に充当する) に合格しなければならない。

(2) 「コースB」について

コースBを志望する学生は、①第4学年次秋学期開講の「人間科学卒業研究」を含めて、卒業までにⅢ類26単位以上を修得し、②「卒業試験」に合格しなければならない。③「卒業試験」は「人間科学卒業研究」の修得をもって代替する。

(3) コース変更について

- ① 第3学年次にコースAを選択した学生が第4学年次履修申告時に「人間科学研究会Ⅲ・Ⅳ」を履修しない場合には、コースBへの変更となる。この変更をした場合、「人間科学研究会Ⅰ・Ⅱ」の単位が修得済であればⅢ類の単位として認める。
- ② コースAを選択しながら第4学年次に卒業試験（卒業論文）が不合格で卒業できなかった場合、次年度にコースBに変更することができる。コースBに変更した場合、既に修得した「人間科学研究会Ⅲ・Ⅳ」の単位はⅢ類の単位として認める。
- ③ 原則として、第4学年の途中でコースAからコースBへ変更することはできない。

3 選択科目

選択科目として、本大学設置の専門教育科目34単位以上を卒業までに修得しなければならない。（次項4(1)、36～40ページを参照すること。）

4 履修上の注意

(1) 必要単位数を超えて履修した必修科目の取り扱い

Ⅲ類科目の単位を指定数を超えて修得した場合は、これらを選択科目の単位とみなし、卒業単位として取り扱う（A欄申告。ただし重複履修については(2)を参照のこと）。

※この場合、学業成績表上では元の分野番号欄に表示されるが、選択科目とみなされる。

(2) 重複履修の取り扱い

- ① 「人間科学研究法ⅠA～ⅣA」, 「人間科学研究法ⅠB～ⅣB」, 「人間科学演習Ⅰ～Ⅹ」, 「人間科学特殊ⅠA～ⅩⅣA」, 「人間科学特殊ⅠB～ⅣB」

同一科目名で担当者が異なる場合は、重複履修を各科目1回まで認め、選択必修科目（上記(1)に該当する場合は選択科目）として取り扱う（A欄申告）。重複履修が2回以上となる場合は、自由科目として履修すること（B欄99）。

- ② 上記以外の科目

同一名称の科目は、卒業に必要な単位としての重複履修を認めない。同一科目を重複して履修する場合は、担当者の異同に関わらず自由科目として履修すること（B欄99）。

(3) 研究会の履修方法

各学年次において、研究会Ⅰ・ⅡおよびⅢ・Ⅳを次のとおりどちらも履修申告すること。

	研究会Ⅰ・Ⅱ	研究会Ⅲ・Ⅳ
3年生	選択科目（A欄申告）	自由科目（B欄99）
4年生	自由科目（B欄99）	選択科目（A欄申告）

(4) その他

- ① 春学期の授業開始直前の「専攻別ガイダンス」において、科目履修上の細かい説明を行うので、専攻学生は全員必ず出席すること。
- ② 履修申告の控えを必ずとり、Web成績表公開までは保存しておくこと（控えがないために履修上の問題の“責”がいずれにあったのか判断のつきかねる場合があるので、このことをくれぐれも注意されたい）。

個人情報の取扱いについて

慶應義塾では個人情報の取扱いに際して「慶應義塾個人情報保護基本方針」および「慶應義塾個人情報保護規程」を遵守し、適正かつ安全に管理します。

入学手続、ならびに入学後にお知らせいただいた氏名、住所その他の個人情報は、慶應義塾各部門におきまして、①入学手続、②学事（学生が関与する学術研究活動を含みます。）に関する管理、連絡および手続、③学生生活全般に関する管理、連絡および手続、④大学内の施設・設備利用に関する管理、連絡および手続、⑤寄付金、学校債、維持会および慶應カードの募集等に関する連絡、⑥本人および保証人宛に送付する各種書類の発送その他の連絡、⑦三田会（同窓会）に関する書類送付とこれらに付随する事項を行うために利用します。また、個人が特定できないように統計処理した個人情報のデータは、本学における入学者選抜のための調査・研究の資料として利用されます。

上記の業務は、その一部を慶應義塾より当該業務の委託を受けた業者（以下、「受託業者」といいます。）において行います。業務委託にあたり、受託業者に対して、委託した業務を遂行するために必要となる限度で、お知らせいただいた個人情報の全部または一部を提供することがあります。

また、慶應義塾では三田会（同窓会）活動を支援する一環として、卒業後も三田会（同窓会）から要請があった場合は、所定の手続および審査の上で必要な範囲内において個人情報を提供することがあります。

その他、法律上開示すべき義務を負う場合や、学生本人または第三者の生命／身体／財産を保護するために必要であって本人の同意を得ることが困難な場合など、法令上の例外事由に該当する場合には、第三者に個人情報を開示することがあります。

慶應義塾は、以上の場合を除いて、同意なく、個人情報を第三者に開示いたしません。

なお、学生の学業成績表は保証人にも開示いたします。これは、学生の自律性を尊重しつつも、保証人の方に学生の学修状況をご理解いただきたいからにほかなりません。

個人情報の取扱いについて

<https://www.keio.ac.jp/ja/privacy-policy/>

